

目 次

I.	教 育 課 程 に つ い て	2
	カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・アセスメントポリシー	
II.	単 位	6
III.	成 績 評 価 基 準	6
IV.	服飾学部服飾表現学科カリキュラム表	7
V.	履 修 の 方 法	13
VI.	学 芸 員 に つ い て	17
VII.	授 業 計 画	25

I. 教育課程について

(2024 年度生用)

本学の教育課程は、学則第2条の目的にそって、構成されています。

教育課程（学則第25条）に述べられていますが、授業科目の履修方法を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成してあります。

授業科目は、その内容により、専門科目、教養科目と教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の博物館に関する科目に区分してあります。

本履修便覧 7 頁の服飾学部服飾表現学科カリキュラム表に授業科目の種類、単位数、授業の方法、履修方法、資格取得と履修との関係、配当年次、週時間数等について詳細を掲載してありますので参照してください。

カリキュラムポリシー（教育方針）

本学科の教育の使命と目的を効果的に実現するための教育組織として、1 年次は一部服飾学科と共通のものも含めた学科独自の初年次教育課程を経て、2 年次後期、3、4 年次で 4 つの専攻に分かれた専門教育課程を設けています。初年次教育課程では、教養科目によって一般的教養を養い、服飾関係科目によって感性、技術力、表現力を育成します。その基礎の上に立って、専門教育課程で、創造力・表現力をもった服飾表現に関する専門職業人を養成することを目指しています。

教養科目は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・総合・国際関係・外国語の科目を多数開講し、外国語は 8 単位以上、それ以外の科目で 26 単位以上の履修を要求しています。また 1 年次には初年次科目の「学習基礎」を必修として、大学で 4 年間学ぶためのスキルを修得させています。外国語については 3、4 年次での受講も可能にし、服飾表現業界での必要性に対応しています。

初年次教育課程では、服飾関係科目、服飾経済科目と服飾表現科目の共通必修科目と専門選択科目を設けています。服飾表現科目の共通必修科目の中核科目として服飾表現概論、プレゼンテーション論、グラフィックデザインⅠ、写真表現、身体表現Ⅰがあり、これらを全員に履修を義務付け、服飾表現に関する基礎的な技術や表現方法を全学生が修得することとしています。これが本学科の初年次教育課程の特徴です。

2 年次前期のオムニバス形式の「服飾表現演習」での学修をもとに、2 年次後期の専門教育課程では、「衣装表現」、「スタイリング」、「ビジュアルマーチャンダイジング」、「メディア表現（映像・ショープロデュース）」の 4 つの専攻に分かれます。専攻独自の必修科目は 19 単位を設定しています。各専攻の教育目的と目標を達成するために必要な必修科目を専攻ごとに 3 科目設定しています。初年次教育課程の科目、専門教育課程での選択科目と合わせて専門教育課程で専攻の必修科目を履修することによって、各専攻の目指す専門職業分野の人材育成を可能とする方針のもとにカリキュラムを編成しています。

本学科の履修科目の単位内訳は次の表の通りです。

履修科目単位内訳表

(2024年度生用)

杉野服飾大学 服飾学部 服飾表現学科

授業科目の区分と履修方法			修 得 単 位 数
専 門 科 目	必 修		59
	選択必修		10
	選 択		21
専門科目合計			90 単位
教 養 科 目	初 年 次	必 修	12
	一 般 体 育 国際関係	選 択	14
	外 国 語	選択必修	8
教養科目合計			34 単位
総 合 計			124 単位

_____ 部 令和 6年 改正

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学では下記の表に掲げる専門課程の専攻別の教育目的に従って、目標の欄に掲げている服飾表現関係の専門的職業で活躍できる人材の育成を目標としています。

1 年の間初年次教育課程の教育を受けますが、その間に一部服飾学科と共通のものも含めた学科独自の内容の 19 単位を必修科目として履修します。これによって、服飾を物として成立させる技術や服飾経済に関する知識を得た上で、視覚的な感性や表現力を持った服飾表現の専門教育に備えての基礎的な能力を培うこととしています。

2 年次後半から 4 年次までの専門教育課程では、専攻ごとに専門必修科目 19 単位の履修を求めています。さらに専攻ごとに 25 単位の専門選択科目の履修を求めています。

以上の専門基礎科目と専門科目を合わせて 90 単位を履修することで専攻別の教育目的と目標を達成することとしています。

また教養科目 34 単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをめざしています。

教養科目 34 単位と専門科目 90 単位の合計 124 単位を修得することで卒業を認定し、学士（服飾）の学位を授与することとしています。

専門教育課程 専攻別教育目的と目標

専攻名	目 的	目 標
1) 衣装表現	衣装表現に必要とされる発想、デザイン・構想、エスキース、制作、プレゼンテーション等の創作のプロセスにウェイトを置いた実践能力の育成を目的とする。	舞台や映画で美しく独創的な衣装を制作する衣装デザイナーなどの人材育成を目標とする。
2) スタイリング	スタイリストの基礎力として、過去から現在までにおける服飾表現の流れ（或いは“流行”）を把握し、社会におけるファッションの役割の上に表現できる能力の育成を目的とする。	TV や雑誌で、モデル、タレント、アーティストの魅力や個性を引き出すスタイリングをするスタイリストなどの人材の育成を目標とする。
3) ビジュアルマーチャンダイジング	魅力的な店舗や展示空間を想定し、視覚的に商品の世界観を伝えることができる能力の育成を目的とする。	ショップやイベント会場で消費者に視覚的に訴える演出を行う VMD(ビジュアルマーチャンダイザー)などの人材の育成を目標とする。
4) ショープロデュース (検討中)	服飾表現における「ショー」に特化し、ステージ形態（舞台）、レイアウト等の造形プラン、音楽、ライティング、映像演出などの空間プラン、モデルのパフォーマンススケジュールなどの時間プランなどを総合したプロデュースとその運営能力の育成を目的とする。	ショーやイベントのコンセプト立案から企画、制作、運営まで観衆を魅了する空間を創るイベントプロデューサーやショースタッフなどの人材の育成を目標とする。
5) 映像・メディア表現	メディアにおける服飾のあり方を考え、視覚情報としてのそのイメージを伝えるために、映像の企画・構想、撮影、編集技術を修得し表現していく能力の育成を目的とする。	TV やネット配信など多彩なメディアでクオリティの高い映像表現を行う映像ディレクター、映像作家などの人材の育成を目標とする。

アセスメントポリシー（学修[教育]成果測定の指標）

1. 初年次教育課程の学修成果測定

- ・初年次教育課程の学修成果は、入学者数と入学後2年目に専門教育課程への進級者比率を指標として行う。
- ・服飾学科はテクノロジー分野とビジネス分野ごとの指標によって行う。
- ・表現学科は4つの専攻によって指標を行う。
- ・初年次前期での中退率を服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科ごとに行う。

2. 服飾学科の各コース、服飾表現学科、服飾文化学科の期待される能力の水準

各学科（服飾学科は各コース、服飾表現学科は各専攻）の期待される能力の水準（学修成果の指標）は、卒業制作、卒業論文にもとめられる能力であり、その具体的な要件は、4年次の卒業制作又は卒業論文の科目が要求している達成度である。

3. 各授業科目の目標達成度（学修成果）

各授業科目の目標達成度はシラバスに記載した到達目標によって測定する。

測定の指標は、履修学生の作品提出やプレゼン、小テスト、期末試験、シラバスに記載した準備及び復習学修時間の履行状況（学修行動調査によって別途検証）、授業評価アンケート調査とコメントへの対応とする。

シラバスに記載した到達目標については、服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の必修科目において期待される能力水準（学修成果測定の指標）との関係が適切か、準備学修時間と合わせて別途シラバス作成時に審査する。

4. 卒業者数による学修成果測定

服飾学部服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科全体としての卒業者数による学習成果の測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次4年前入学者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科ごとの卒業者数による学修成果の測定は次の指標によって行う。

- ・卒業年次の3年前の服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の2年次進級者数又は服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科2年次への進級者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

5. 就職者数による学修成果測定

服飾学部全体としての成果測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率
- ＊専門的職業は服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科での学修成果目標による職種を言う。

Ⅱ. 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より単位数を計算するものとします。

平常授業は、前期15週、後期15週、年間30週を原則とします。

時間割表の1時限は正味45分ですがこれを1時間と計算します。従って1コマ（2時限続き）は90分としています。

1. 講義と演習

15時間から30時間までの範囲で大学で定めた時間の授業を1単位とします。

2. 実験、実習及び実技

30時間から45時間までの範囲で大学が定めた時間の授業を1単位とします。

上記は学則第28条の（単位）の条項にそって、授業時間との関連を解説したものです。

Ⅲ. 成績評価基準

学習の評価については学則第32条に述べられていますが、成績評価基準は以下の通りです。

区分	評価	成績評価基準	評価内容
合格	S	100～90点	特に優れた成績
	A	89～80点	優れた成績
	B	79～70点	妥当と認められる成績
	C	69～60点	合格と認められる最低限の成績
	合	—	合格と認められる成績
不合格	D	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していない

◆GPA(グレートポイント・アベレージ)制度

履修した科目の成績の平均を数値で表したものです。成績評価をS→4、A→3、B→2、C→1、D→0と点数に置換えて算出するのがGPAです。

$$GPA = (\text{科目の点数} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した科目の総単位数}$$

IV. 服飾学部服飾表現学科カリキュラム表

(2024年度生)大-1

授業科目名		単位数			履修方法			目	日	野	学	資格 取得を 目的と するもの	配 当 年	週時間数		【ナンバリング】	
					卒業を目的とするもの									前	後		
		講	演	実	必	選	自										
専	服	服飾造形基礎Ⅰ	3		○			○					1	6		100102	
		服飾表現概論	1			○		○					1	1		505101	
		衣服材料学	2			○		○					1	2		100101	
		ドローイングⅠa		2		○		○					1	4		100106	
		西洋服飾文化史	2			○		○		○			1	2		100109	
		服飾造形基礎Ⅱ		3		○		○					1		6	100103	
		グラフィックデザインⅠ		1		○		○					1		2	505102	
		身体表現Ⅰー基本の動きー		1		○		○					1		2	505103	
		写真表現		1		○		○					1		2	505104	
		ファッション・フィールド・リサーチ		1		○		○					1		2	100104	
		プレゼンテーション論	2			○		○					1		2	505105	
		現代ファッション論	2			○		○					2	2		109109	
		日本服飾文化史	2			○		○		○			2	2		100212	
		表現心理学ー魅力の発見、魅力の伝達ー	2			○		○					2	2		505206	
		身体表現Ⅱーパフォーマンスー		1		○		○					2	2		505207	
		空間構成Ⅰ		1		○			○				2	2		505208	
		画像表現		1		○		○					2	2		505209	
		ドローイング・構想		1		○		○					2	2		505210	
		グラフィックデザインⅡ		1		○		○					2	2		505211	
		服飾表現演習		2		○			○				2	4		505212	
		色材演習		1		○		○					2		2	100201	
		服飾表現史	2			○		○					2		2	505213	
		空間構成Ⅱ		2		○			○				2		4	505214	
		立体造形構想		1		○		○					2		2	505215	
		近代日本モード史		2		○		○					2		2	109332	
		マーケティング・データサイエンス論	2			○							2	2又は2		100207	
		マネキン学	2			○			○				3	2		505321	
		プレゼンテーション技法		2		○			○				3	4		505322	
		ポートフォリオ演習		2		○			○				3	4		505323	
		卒業制作企画		3		○			○				4	6		505434	
		卒業制作		6		○			○				4		12	505435	
		計	19	38	0												
		専門科目(服飾関係)必修科目については、59単位を修得すること															
		衣装デザイン・制作Ⅰ			2	(○)			○				2		6	505216	
		スタイリング演習Ⅰ		2		(○)		○					2		4	505217	
		ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅰ		2		(○)		○					2		4	505218	
		メディア表現Ⅰ(映像・ショープロデュース)		2		(○)		○					2		4	505220	
		衣装デザイン・制作Ⅱ			2	(○)			○				3	6		505324	
		スタイリング演習Ⅱ		2		(○)			○				3	4		505326	
		ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅱ		2		(○)			○				3	4		505328	
		メディア表現Ⅱ(映像・ショープロデュース)		2		(○)			○				3	4		505332	
		衣装デザイン・制作Ⅲ		6		(○)			○				3		12	505325	
		スタイリング演習Ⅲ		6		(○)			○				3		12	505327	
		ビジュアルマーチャンダイジング演習Ⅲ		6		(○)			○				3		12	505329	
		メディア表現Ⅲ(映像・ショープロデュース)		6		(○)			○				3		12	505333	
		専門選択必修合計	0	36	4												
目		専門科目(服飾関係)選択必修科目については、10単位を修得すること															

		授業科目名	単位数			履修方法			目 黒 キ ヤ ン パ ス	日 野 キ ヤ ン パ ス	資格 取得を 目的と するもの 学 芸 員 課 程	配 当 年 次	週時間数		【ナンバリング】	備 考
			講	演	実	必	選	自					前	後		
教	初 年 次	学修基礎	2			○			○			1	2		130133	
		キ ヤ リ ア	文章表現	2			○			○			1	2		130120
情報演習Ⅰ(学修ポートフォリオを含む)	1		1		○			○			1	2		130118		
情報演習Ⅱ(学修ポートフォリオを含む)	1		1		○			○			1		2	130119		
社会人基礎	2				○			○			1	2		139146		
キャリアプランニング	2				○			○			2	2		130221		
一 般	心理学A		2				○		○			1・2	2		139136	
	心理学B	2				○		○			1・2		2	139137		
	文学	2				○		○			1	2又	は2	139138		
	日本美術史	2				○		○		○	1	2又	は2	139134		
	西洋美術史	2				○		○		○	1	2又	は2	139135		
	憲法	2				○		○			1・2	2又	は2	139141		
	化学A	2				○		○			1・2	2		139142		
	化学B	2				○		○			1・2		2	139143		
	体 育	体育A		1			○		○			1	2又	は2	139144	
体育B			1			○		○			1・2		2	139145		
科 国 際 関 係 目	言 語 と 文 化	言語と服飾文化	2				○		○			3・4	2又	は2	139366	
		日本文化・日本事情Ⅰ	2				○		○			1・3	2		139148	外国人留学生は履修のこと
		日本文化・日本事情Ⅱ	2				○		○			1・3		2	139149	外国人留学生は履修のこと
		英語(総合)A	2				○		○			2	2		139250	
		英語(総合)B	2				○		○			2		2	139251	
		ワールド・カルチャーA	2				○		○			2	2		139252	
		ワールド・カルチャーB	2				○		○			2		2	139253	
		実用英語 A	2				○		○			2	2		139254	
		実用英語 B	2				○		○			2		2	139255	
		ファッション英語 A	2				○		○			2	2		139256	
		ファッション英語 B	2				○		○			2		2	139257	
		フランス語(総合) A	2				○		○			2	2		139258	
		フランス語(総合) B	2				○		○			2		2	139259	
		ファッションフランス語 A	2				○		○			2	2		139260	
		ファッションフランス語 B	2				○		○			2		2	139261	
		中国語(総合) A	2				○		○			2	2		139262	
		中国語(総合) B	2				○		○			2		2	139263	
		中国語(会話) A	2				○		○			2	2		139264	
		中国語(会話) B	2				○		○			2		2	139265	

授業科目名		単位数			履修方法			目	日	資格取得を目的とするもの 学芸員課程	配当年次	週時間数		【ナンバリング】	備考
					卒業を目的とするもの							前	後		
		講	演	実	必	選	自								
		義	習	習	修	択	由	ス	ス	程		期	期		
博物館に関する科目	生涯学習概論	2						○		○	1		2	369102	
	博物館概論	2						○		○	1		2	369101	
	博物館経営論	2						○		○	2	2		369204	
	博物館資料論	2						○		○	2	2		369203	
	博物館資料保存論	2						○		○	2		2	369205	
	博物館展示論	2						○		○	3		2	369306	
	博物館教育論	2						○		○	3	2		369307	
	博物館情報・メディア論	2						○		○	3		2	369308	
	博物館実習			3				○		○	4	3	3 及 集中	369409	博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学
	計	16		3											
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。															
カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。															
1) 原則として開講学年順とします。															
2) 個々の履修状況に応じて審議決定します。															

【科目ナンバリング】
授業科目を分類し、学問分野や難易度など番号等で示すことにより、個々の科目の分野や履修レベルを明確にし、教育課程を体系的にわかりやすく示すシステムです。

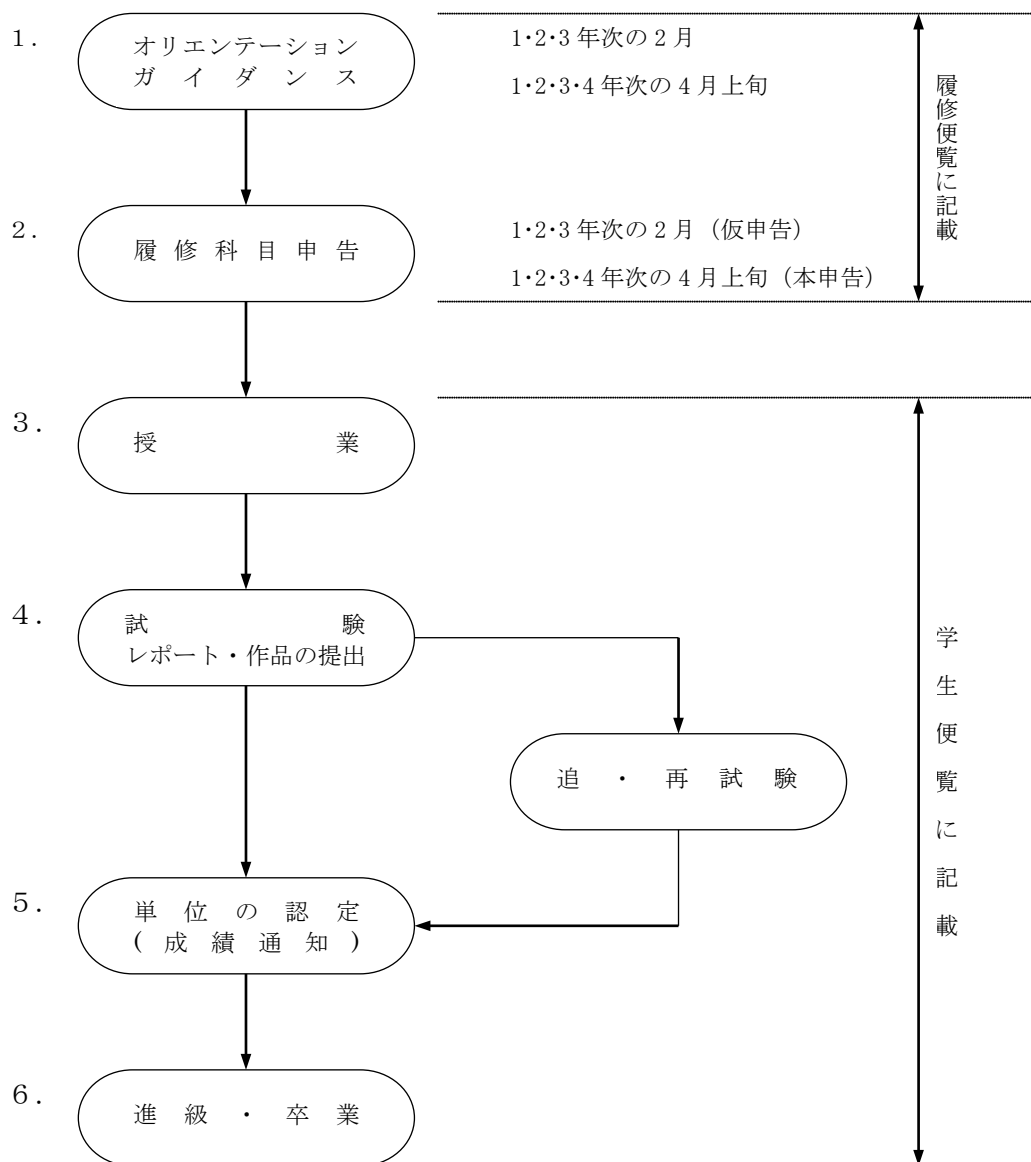
学科分類	教科分類	学科(コース) 必修/選択	学年	番号
1	1	0	1	01
1: 服・表・文 共通 2: 服飾学科 3: 服・表 共通 4: 服・文 共通 5: 表現学科 6: 文化学科	0: 服飾 2: ライフスタイル 3: 教養 4: 外国語 5: 教職課程 6: 学芸員課程	0: 共通必修 1: モード 2: インダ 3: テキスタイル 4: プロダクト 5: 表現学科 9: 選択科目	1: 1年基礎 2: 2年基礎 3: 3年応用 4: 4年発展	01～

V. 履修の方法（履修科目申告から単位認定まで）

大学での学修生活は、自らが履修しようとする授業科目の履修申告からはじまり、学修結果の評価により単位認定がなされることで終わると言ってもいいでしょう。

このパターンが4年間各年度始めに展開されるわけですが、これを図示すると次の通りとなります。

以下の順序に従ってその内容・手続きについて解説します。



1. オリエンテーション・ガイダンス

履修ガイダンスやその他学修生活を送る上での必要な事項についてのオリエンテーションが各年度当初の4月に実施されます。(2年次以上は前年度の2月にも次年度オリエンテーションを実施)

履修計画を立てる上で極めて重要なものですので、出席を義務づけております。

2. 履修科目申告

開講科目を履修するには、必ず事前に履修申告をしなければなりません。この履修申告は在学中に各年度学期の開始時に実施されます。この履修申告に際して、学生は事後一ヵ年の学習計画を立て、履修することにより名簿・成績原簿等を作成されます。従って卒業要件単位修得等に重要な手続きですから下記事項を熟読し、あやまりのないようにしてください。

1) 《履修申告にあたっての注意事項》

- ① 同一時限には1科目しか申告できません。すなわち重複受講(申告)は禁止されています。
- ② 申告した科目以外は試験(レポート、作品等の提出を含む)を受験できません。万一受験しても単位は与えられません。
- ③ 一度本申告したものの追加、変更は原則として認められません。
- ④ 申告期限を過ぎたものは受け付けませんので、必ず期日を厳守しなければなりません。
- ⑤ 2・3・4 年次は各々過年度開講の科目を申告することができますが、上級年次の開講科目を申告することはできません。

2) 《年間履修単位制限(CAP 制度)》

本学では、各学年で年間に履修できる単位数に上限を定めます。これを「キャップ制度」と言います。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的とします。学生の皆さんは、履修科目として1年間に登録することができる単位数の上限を定めることで、適切にバランスよく授業科目を履修することが出来る制度です。大学は、各学年年間 50 単位 です。

※資格関係科目(教職課程、学芸員課程など卒業要件単位に含まれない科目)は履修制限科目から除外されます。

3) 《履修申告の方法》

履修申告は「学生ポータル」に登録することにより行います。履修の登録はすべてコンピュータ入力します。

定められた入力期間内に入力します。入力期間内であれば削除・追加が可能です。

ただし、入力期間内であっても、必修科目、外国語科目及びコース別必修科目のキャンセルは、原則として認めません。

① 1 年次の年度始め

1 年次前期に受講する科目をすべて申告してください。

② 1・2・3 年次の年度末(次年度の受講予定科目の申告のための準備)

これまでの履修状況に応じて、次年度における受講科目の計画をたててください。

③ 2・3・4 年次の年度始め(2 年次以降の受講科目を入力)

※ 一部の科目については、人数調整をする場合があります。

④ 1・2・3・4 年次 後期開始前(9 月上旬)

後期開講科目について、申告入力期間に入力してください。

4) 《履修科目申告上の注意事項》

下記の注意事項をよく読んで誤りのないよう記入してください。

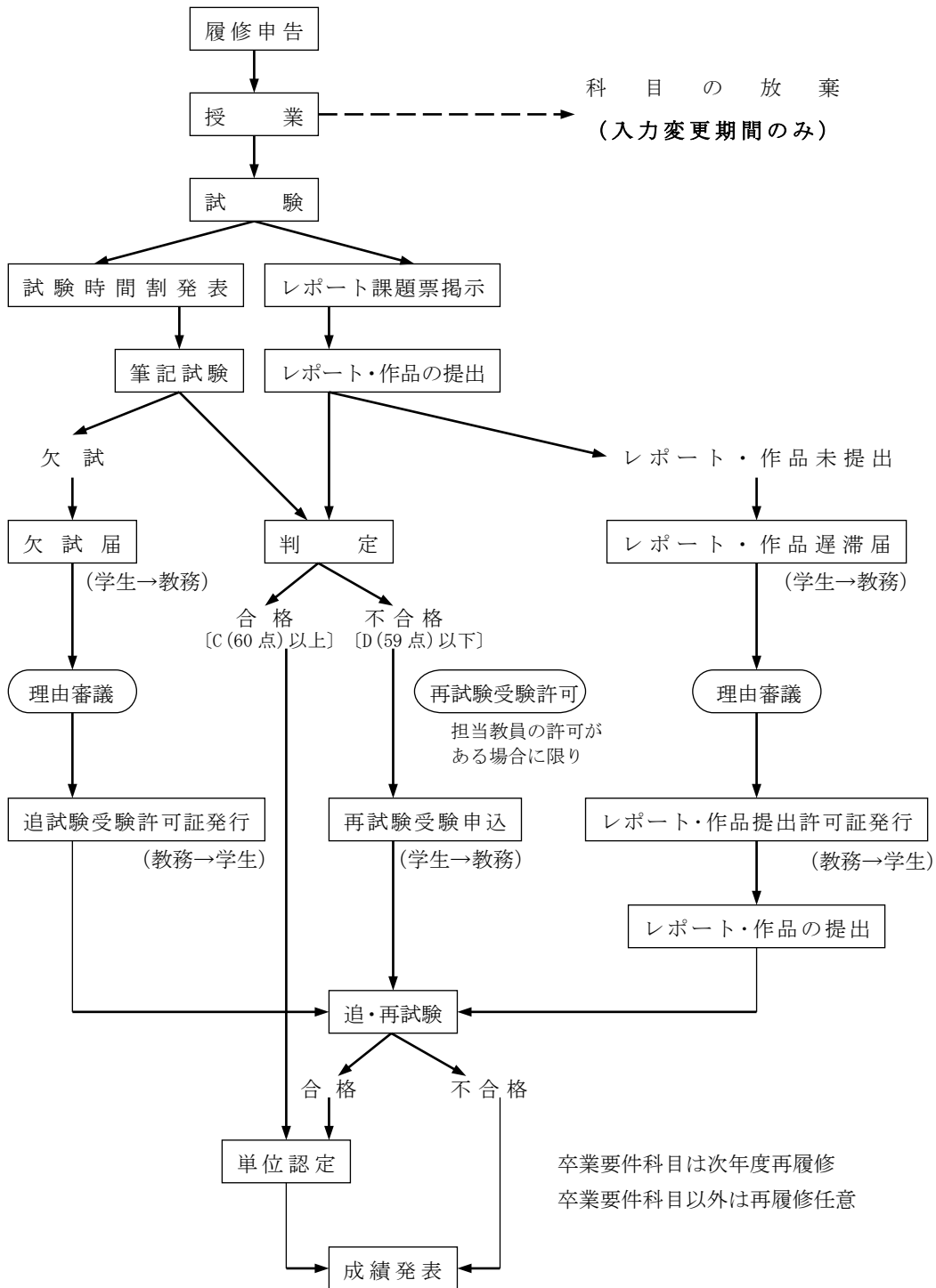
◆入力について

1. 履修科目を確認して入力してください。
2. 教職課程・学芸員課程を履修する場合は、課程科目も入力してください。
3. 自主ゼミの受講希望者は教務課に申し出てください。
4. 履修単位の表の数字を確認してください。
5. 他学年開講科目(再履修科目等)は各自検索をして入力してください。

《履修科目の放棄について》

- ① 学期初めに本申告をした科目は、一定の入力申告変更期間を設けているため、学期途中で放棄することはできません。 キャンセルをしないまま欠席すると当該科目の成績は不合格となります。
また、集中授業の科目については定められた期間に限り放棄を認めます。

履修科目申告から単位認定まで



博物館とは

日本で博物館といわれているものは、歴史博物館、民俗（族）博物館、考古博物館、美術館、郷土館、記念館のようなものから自然を対象とする自然史博物館、科学館、天文博物館、水族館、動植物園のようなものまでひろく包含されます。

これらの博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等を通して社会に対し様々な情報提供サービスをすると共に、我が国の教育、学術及び文化の発展に大きく寄与してきました。

近年、所得水準の向上や自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいなどを求めて人々の学習ニーズは増大し、かつ多様化、高度化してきています。また一方で、科学技術の高度化、情報・通信技術の進展や、教育、学術、文化などの各分野にわたる広域・国際的な交流の活発化、さらには地域文化への関心の高まりなど、博物館を取り巻く環境には様々な変化が生じています。こうした中で、博物館は社会の進展に的確に対応し、人々の知的関心にこたえる施設として一層発展することが期待されています。また、情報化の進展の中で実物資料に身近に触れることができる博物館の意義が改めて認識されています。

特に、今後は地域における生涯学習推進のための中核的な拠点としての機能を充実するとともに、地域文化の創造・継承・発展を促進する機能や、様々な情報を発信する機能を高めていく必要があります。また、博物館は青少年にとって実物資料等による魅力ある体験学習ができる場であり、学校教育以外の活動あるいは学校教育と連携した学習のために一層重要な役割を発揮することが期待されています。

学芸員とは

学芸員は博物館法に基づき博物館におかれる専門的職員であり、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っています。また、学芸員は拡大する生涯学習社会において社会教育を推進する上で重要な役割を担うところから、一層の資質の向上と高い専門性を養成することが望まれています。人類や地域にとって重要な資料や文化遺産等を取り扱い、人々の新しい知識の創造と普及のために役立てるという業務の特性から、学芸員には極めて高い職業倫理が必要とされています。

こういった近年の需要を受けて、平成 21 年に博物館施行規則が改正され、平成 24 年 4 月 1 日より養成科目の改善・充実を図った制度が施行されました。

(平. 8. 4. 24 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「学芸員の養成・研修の改善方策について」の主旨より一部抜粋)

学芸員養成について

学芸員の養成は、博物館法及び同法施行規則に基づき、基本的に大学で行われています。

前述のように、博物館において大切な意味を持っている学芸員の養成は、各大学に委託されており、杉野服飾大学もその一つです。1973 年より大学に学芸員課程をおき、履修者は国家資格の「学芸員」が取得できるようになっています。

現在、日本の博物館法で認められた博物館は 1,286 館（平成 30 年度文部省「社会教育調査」）あり、本学園の衣裳博物館はこの博物館法で定められた「博物館」の一つです。

大学等における博物館の養成内容については、昭和 30 年に博物館施行規則が制定されてから、大幅な見直しは行われていませんでした。しかし近年、拡大する生涯学習と多様化する社会に対応できる、より高度で専門的な学芸員の養成が唱えられました。平成 24 年 4 月 1 日以降、学芸員養成内容に大幅な見直しが反映されています。（平成 8 年 4 月 24 日生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方策について」参考）

博物館法（平成 26 年 6 月 4 日最終改正より一部抜粋）

（この法律の目的）

第 1 条 この法律は、社会教育法に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2. この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3. この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録を含む）をいう。

（博物館の事業）

第 3 条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- 1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - 2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - 3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - 4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - 5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - 6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
 - 7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - 8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
 - 10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
2. 博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員、その他の職員）

第 4 条 博物館に、館長を置く。

2. 館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
3. 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4. 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
5. 博物館に館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
6. 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
2. 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

I. 大学における資格取得のための基礎条件

上記、博物館法第5条（1）に規程されている通りです。

II. 学芸員資格取得に必要な履修科目と単位数

1. 博物館に関する科目とその単位については、博物館法施行規則の第1条に次のように規定されています。（平成27年10月2日最終改正）

科 目 名	単位数	ね ら い	内 容
生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の意義を理解し、学習活動を効果的に援助する方法等の理解を図る。	・生涯学習の意義 ・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育 ・生涯学習関連施策の動向 ・社会教育の意義 ・社会教育の内容・方法・形態 ・社会教育指導者 ・社会教育施設の概要 ・学習情報提供と学習相談の意義
博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識の習得を図る。	・博物館の定義 ・博物館の歴史 ・博物館の目的と機能 (社会的存在意義・政治性) ・博物館の現状 ・学芸員の役割 ・博物館の館種・設置者 ・博物館関係法規
博物館経営論	2	博物館経営について理解を図る。	・ミュージアム・マネジメントの必要性 ・博物館倫理 ・博物館の行財政制度 ・博物館の施設・設備 ・博物館の組織 ・博物館の職員 ・博物館の管理・運営方式 (直営、財団、指定管理者、PFI等) ・博物館の財務、資金調達 ・マーケティング、広報・宣伝 ・博物館利用者の把握 ・博物館の危機管理 (リスクマネジメント) ・博物館とユニバーサル化 (バリアフリー等) ・博物館のネットワーク
博物館資料論	2	博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の修得を図り、併せて博物館の調査研究活動について学ぶ。	・博物館資料の収集 ・博物館資料の整理保管 ・博物館資料の保存 ・博物館資料の展示 ・博物館における調査研究活動の意義と方法

科 目 名	単位数	ね ら い	内 容
博物館資料保存論	2	博物館資料及び、その保存・展示環境を科学的に捉え、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。	・博物館保存科学の意義 ・資料保存の諸条件とその影響(温湿度・光・振動・大気など) ・収蔵庫と展示室の保存環境 ・伝統的保存方法とIPM ・生物被害の防除と対策 ・資料と環境の点検と記録(機器に対する知識を含む) ・災害の防止と対策(火災・地震・水害・盗難など) ・資料の現状の調査と把握 ・資料の修復 ・資料の移動(梱包と輸送の方法と知識)
博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、教育、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術の習得を図る。	・展示の意義 ・展示の歴史 ・展示の諸形態、展示の企画、デザイン、製作 ・業者の評価・効果の検証及び改善方法 ・展示の技術と効果 ・博物館展示の情報伝達機器 ・展示解説書の製作(展示図録・パンフレット等) ・展示活動と情報
博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や方法に関する知識・技術の習得をはかる。	・教育の本質及び目標 ・生涯発達と教育 ・博物館教育の意義と方法 ・博物館教育の理念と理論(コミュニケーション、構成主義等) ・教育活動の企画と実施 ・博物館教育の諸形態(展示、体験学習、講演会、アウトリーチ活動、レファレンスサービス等) ・教育普及とコミュニケーション ・博物館と学校との連携 ・生涯学習と博物館 ・博物館教育の評価の目標と方法

科 目 名	単位数	ね ら い	内 容
博物館情報・ メディア論	2	博物館における情報の意義と活用 方法及び情報公開課題等について 理解を図る。	・博物館における情報の意義 ・資料収集保管活動と情報 ・研究活動と情報 ・博物館における情報の提供と活用の 方法 ・博物館における情報機器 ・博物館における著作権 ・資料公開の理念(アクセス権)と方法 (IT技術等を用いた広報発信等を含 む) ・博物館における情報管理と情報公開 ・ICT社会の中の博物館 ・博物館における情報化の現状と課題 ・博物館のホームページ ・コレクション情報のデータベース化と ネットワーク化
博物館実習	3	博物館における実習を通じ、多様館 種の実態や学芸員の業務の理解を 図る。	・博物館資料の取扱い、展示、博物館 の運営等についての学内(見学を含 む)及び博物館における実習。事前・ 事後の指導を含む。

- 1) 博物館実習は、博物館法第2条第1項に規定する博物館又は、第29条の規定に基づき文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得するものとする。
 - 2) 「博物館実習」の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。
2. 選択科目については博物館法施行規則第6条3項に次の様に規定されています。

授 業 科 目 名	
文 化 史 美 術 史 考 古 学 民 俗 学 自 然 科 学 史 物 理 学 化 学 生 物 学 地 学	左記のうちから2科目を選択

本学では文化史関係と美術史関係を学べるよう開講しています。

本学の学芸員課程の履修科目の詳細は、「カリキュラム表」の「資格取得を目的とするもの」の欄「学芸員課程」に示すとおりです。

学芸員課程に関する科目

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第1条による)			本学の該当科目	単位数	備 考
規 定 科 目		単位数			
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
	博物館概論	2	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
	博物館実習	3	博物館実習	3	

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第6条による) 系			本 学 の 該 当 科 目	単 位 数	備 考
選 択	文 化 史	2 履修すること 系列以上にわたり	現 代 デ ザ イ ン 論	2	
			西 洋 服 飾 文 化 史	2	
			日 本 服 飾 文 化 史	2	
			染 織 史	2	
			ファッションプレゼンテーション 演 習	2	
	美 術 史		西 洋 美 術 史	2	
			日 本 美 術 史	2	

VII. 授業計画

【整理番号】

■専門科目■

- 【1】 服飾造形基礎 I
- 【2】 服飾表現概論
- 【3】 衣服材料学
- 【4】 ドローイング I a
- 【5】 西洋服飾文化史
- 【6】 服飾造形基礎 II
- 【7】 グラフィックデザイン I
- 【8】 身体表現 I ―基本の動き―
- 【9】 写真表現
- 【10】 ファッション・フィールド・リサーチ
- 【11】 プレゼンテーション論
- 【12】 流通・商業入門
- 【13】 ファッションビジネス概論
- 【14】 ファッション画 I
- 【15】 ファッション画 II
- 【16】 経営学入門
- 【17】 服飾造形応用
- 【18】 現代デザイン論
- 【19】 ファッション販売論
- 【20】 流行論
- 【21】 色彩演習

■初年次・キャリア■

- 【22】 学修基礎
- 【23】 文章表現
- 【24】 情報演習 I (学修ポートフォリオを含む)
- 【25】 情報演習 II (学修ポートフォリオを含む)
- 【26】 社会人基礎

■教養科目■

- 【27】 心理学A
- 【28】 心理学B
- 【29】 文学

- 【30】 日本美術史
- 【31】 西洋美術史
- 【32】 憲法
- 【33】 化学A
- 【34】 化学B
- 【35】 体育A
- 【36】 体育B
- 【37】 日本文化・日本事情 I
- 【38】 日本文化・日本事情 II

■教養科目〔外国語〕■

- 【39】 英語(総合) I
- 【40】 英語(総合) II
- 【41】 基礎英会話 I
- 【42】 基礎英会話 II
- 【43】 フランス語(総合) I
- 【44】 フランス語(総合) II
- 【45】 フランス語(会話) I
- 【46】 フランス語(会話) II
- 【47】 中国語(総合) I
- 【48】 中国語(総合) II
- 【49】 中国語(会話) I
- 【50】 中国語(会話) II
- 【51】 日本語 I
- 【52】 日本語 II

■学芸員■

- 【53】 生涯学習概論
- 【54】 博物館概論

服飾造形基礎Ⅰ

中村 枝里子 笹部 小百合 (2024 年度予定 満喜 朋美)

1 年 前期 必修 (3 単位 演習)

■授業の方針・概要

服飾造形のブラウスに関する製図方法と基礎的な知識や製作技術を修得する。

■到達目標 (学修成果)

この科目を履修することにより、ブラウスの基本製図、縫製等が出来るようになる。またその他のブラウスの製図方法を学び応用力を身に付けることを目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、専門科目、服飾関係科目の初年次必修の演習科目である。基本アイテムにおける服の構造を学修し、専門専攻での学修へ繋げていく。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1 回	オリエンテーション、連携授業の進め方について、電子教材の活用、著作権について、実習用具・縫製機器の名称と使用方法等の説明 ドレメ式原型について 採寸方法の説明、ドレメ式原型実寸大製図	予習：シラバスを読む 復習：用具の名称、原型について読み返す	30 分 30 分
2 回	ドレメ式原型実寸大製図 (身頃)	予習：ドレメ式原型の製図方法 (身頃) について読む	30 分
3 回	ドレメ式原型実寸大製図 (袖) ブラウスについて、ブラウス実寸大製図	予習：ドレメ式原型の製図方法 (袖) について読む	30 分
4 回	ブラウス実寸大製図 (身頃)	予習：ブラウスの製図方法について読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
5 回	ブラウス実寸大製図 (衿)、生地相談	予習：ブラウス生地を調べる・探す 復習：遅滞している箇所の作業	60 分 60 分
6 回	ブラウス実寸大製図 (袖)、型紙作成	復習：遅滞している箇所の作業	60 分
7 回	直線ミシン、ロックミシン、ボタンホールミシンの使い方、ボタン付けの方法、小試験 ブラウス制作について (グルーワーク)	予習：縫製機器の使用について読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
8 回	ブラウス実物制作：生地裁断、接着芯裁断 印付け、ダーツ縫い	予習：裁断・印付けについて読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
9 回	ブラウス実物制作：縫製 縫い代の始末 肩縫い、衿作り	予習：ロックミシンの使用方法について読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
10 回	ブラウス実物制作：縫製 衿付け 脇縫い	予習：衿付けについて読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
11 回	ブラウス実物制作：縫製 袖作り 袖付け	予習：袖作り、袖付けについて読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
12 回	ブラウス実物制作：縫製 裾縫い ボタン付け、ボタンホール	予習：ボタン付け、ボタンホールについて読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
13 回	ブラウス実物制作：仕上げ 応用ブラウスの製図方法、小試験	予習：ブラウスの種類について調べる 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
14 回	応用ブラウスの製図方法 プレゼンテーションについて	予習：各種ブラウスの製図方法を読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
15 回	ブラウスプレゼンテーション、小試験 まとめ	予習：ファイルをまとめる、プレゼンテーション準備 復習：ブラウス、ファイル直し	60 分 60 分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

小試験後、採点返却と解説また 15 回目に作品を評価

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING I、電子教材

■参考文献 図解服飾用語事典 その他

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第 1 回目の授業に指示。 研究室 大学服飾造形研究室

■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は各自必要に応じて増減すること。

服飾表現概論

角倉 典彦

1 年 前期 必修 (1 単位 講義)

■授業の方針・概要

服飾表現学科は「広義のメディア表現」における「広義の服飾表現」のあり方を学ぶ学科である。本講座は「衣装表現」「スタイリング」「ビジュアルマーチャндаイジング」「メディア表現」の各専攻に進むための導入講座で、各専攻要素をプレゼンテーションメディアとしてのファッションショーから抽出し、様々な実例映像から紹介する。そしてファッションとメディアの関係性を歴史的な観点も含め提示しながら考察する。具体的には放送開始 38 年を迎えた BS テレビ東京「ファッション通信」で撮影取材した様々な映像を紹介し、デザイナーや表現者たちのクリエイティビティを検証する。担当教員の 30 年以上のファッションを中心としたテレビ番組やビデオの制作会社での取材/制作経験で得た知見と映像解説を中心に展開していく。

■到達目標（学修成果）

各専攻に進む際、それぞれの方向性の確認をするための一助となるように、ファッションとメディアの関係性についての入門知識習得が到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で、必修科目である。全専攻を含めた本学科の学びの出発点となる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	オリエンテーション/ファッションの成立とデザイナーの登場/歴史政治経済・社会情勢とファッションの繋がり	復習:授業で提示したポイントの確認とリサーチ	30 分
2 回	プレゼンテーションメディアとしてのファッションショーの成立過程とデザイナー達の試み	復習:授業で提示したポイントの確認とリサーチ	30 分
3 回	ブランディング入門篇 ブランディングの基礎とデザイナーがいかにして自身のブランドを確立しているかの実例	復習:授業で提示したポイントの確認とリサーチ	30 分
4 回	インターネット出現による VMD/マーケティングの変貌 20 世紀の AIDMA から 21 世紀での変化	復習:授業で提示したポイントの確認とリサーチ	30 分
5 回	ファッションショーの演出とスタッフの役割 RAKUTEN FASHION WEEK TOKYO(東京コレクション)を実例として検証する	復習:授業で提示したポイントの確認とリサーチ	30 分
6 回	ファッショントレンドとメディアの関係 ファッションデザイナーによるメディア表現へのアプローチ	復習:授業で提示したポイントの確認とリサーチ	30 分
7 回	様々なメディア表現とファッションTV番組の作り方 サステナブルファッションのメディアでの表現検証	復習:授業で提示したポイントの確認とリサーチ	30 分
8 回	映像制作概論/省略と強調/モンタージュ理論など基本的な映像文法	復習:授業で提示したポイントの確認とリサーチ	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

8 回目に提出されたレポートは、添削後コメントを沿えて、後日教務課を通して各自に返却する。またメール等を使用し、個々の質問に対する返答やアドバイスをを行う。図書館に収蔵されているファッション映像の使い方の解説も適宜行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

その都度指示。自主的に且つ積極的に様々なメディア作品を検索し、図書館の所蔵ファッション映像を活用する。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示。連絡：教務課

■備考

なし

衣服材料学

三代 かおる

1 年 前期 必修 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

衣服を構成する要素として衣服材料は重要な役割を果たしており、衣服材料の知識は服飾に関するすべての分野において必要な基本知識である。衣服材料の物理的・化学的性質を理解し、それぞれの特徴を把握することは、衣服を作り出していく上で重要な基礎となることを、身近な材料として興味を持ちながら身につけていけるように配慮する。

■到達目標（学修成果）

衣服材料の基礎的知識の習得により、衣服の設計製作において目的に応じた適切な材料の選択ができ、自分の着ている衣服の素材や店頭の衣服に用いられている材料について、説明できるレベルの到達を目指す。また、衣服材料を詳しく理解することでその着心地や管理方法にも関連づけて興味を持てることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、服飾造形関係の基礎を学習する科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	ガイダンス 衣服材料学とは	予習:シラバスを読む。教科書で繊維名を確認しておく。	20 分
2 回	繊維の分類	復習:教科書を読み、繊維の分類を理解する。	30 分
3 回	繊維の物理的性質	復習:教科書を読み、物理構造と強伸度曲線を理解する。	30 分
4 回	繊維の化学的性質	復習:教科書を読み、化学構造と吸水性吸湿性の関係を理解する。	30 分
5 回	植物繊維	復習:教科書を読み、植物繊維についてノートにまとめる。	30 分
6 回	動物繊維 天然繊維のまとめプリント配布	復習:教科書を読み、動物繊維についてノートにまとめる。	30 分
7 回	再生繊維	復習:教科書を読み、再生繊維についてノートにまとめる。	30 分
8 回	半合成繊維 化学繊維のまとめプリント配布	復習:教科書を読み、半合成繊維についてノートにまとめる。	30 分
9 回	合成繊維	復習:教科書を読み、合成繊維についてノートにまとめる。	30 分
10 回	改良化学繊維	復習:教科書を読み、改良化学繊維についてノートにまとめる。総復習。	120 分
11 回	繊維総復習試験	復習:試験問題を振り返る。	30 分
12 回	繊維の燃焼実験 レポート提出	予習:繊維の分類を確認する。	20 分
13 回	糸の分類	復習:教科書を読み、糸の分類をノートにまとめる。	30 分
14 回	織物、編物の構造	復習:授業すべての総復習をし、理解を深める。	120 分
15 回	まとめ 課題(試験やレポート等)のフィードバックを行う	復習:試験問題を振り返る。	20 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

配布したプリントの解説、授業内復習試験により繊維の知識を定着させる。繊維の燃焼実験を行い、細部まで観察して繊維についての理解を深め、レポートを個別に添削返却して解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

鈴木美和子ほか著、新版アパレル素材の基本、織研出版社、2018

■参考文献

授業内で適宜紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日(10時30分～10時40分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

後期 水曜日(12時10分～12時50分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考 必ず教科書を持ってくる。

ドローイングⅠa

土屋 純一

1年 前期 必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

1. 「立体」としての形態の把握

2. 服飾造形の出発点である「人体形態」の知識を、身に付ける

この授業では、紙の上に「描画（ドローイング）」しながら、美術解剖学をベースにした人体骨格のイメージを「知識」として身に付けていく。この二点の相関関係を体験しながら授業は進行されていく。

■到達目標（学修成果）

1. 服飾造形に必要な最低限度の人体形態の知識を「体感的」に身に付けることが可能となる。「知る」ことによって「描くことが出来る」ようになり、「描くことが出来る」ようになることで、「知る」こととなる。

2. 運動に近い描画という行為（ドローイング）を訓練することで、見たこと、思いついたこと、そして感じたことをダイレクトに表現（＝絵を描くこと）することが出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、必修科目である。服飾の根幹である「身体」についての「体感的知識」と「描画の運動能力」は、専攻分野での発想に直結したイメージの抽出を通して、表現物の支持体となり全専攻の礎として活かされていく。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション	予習；シラバスの内容の確認	30分
2回	基本形態 →概念としての立体形態。立方体、円柱 [アクティブラーニング (A.L.)]	予習；鉛筆、色鉛筆の先端の削鋭を行う 復習；2点透視図（ドリンクパック）の完成	120分
3回	形態の把握 →リングをモチーフとし、「自然」の中に立体形態を探る。輪郭線の隠蔽、「稜線」の発見と強調 [A.L.]	復習；色鉛筆画材の描画方法の復習	30分
4回	人体構造について →美術解剖学に基づく骨格、プロポーション、位置関係。性差、人種差による形態イメージの比較	復習；人体における骨格の透過図の作成	60分
5回	模写から学ぶ人体構造 →過去の作品からの人体イメージ、S字の構造、重心線 [A.L.]	予習；骨格の形態と位置関係の確認 復習；模写の完成	120分
6回	立体構造としての人体の分析①② →運動する人体のイメージ① “箱” ② “ワイヤードローイング” [A.L.]	予習；有機的、無機的な基本形態の確認 復習；人体の箱状の立体分析の完成	60分
7回	人体骨格の即興的表現 →イメージクロッキー。動きの中の骨格。ドライブラン技法の試行 [A.L.]	予習；骨格の形態と位置関係の確認	30分
8回	クロッキー →ヌードモデル。現実において人体の骨格構造を探る(4ポーズ) [A.L.]	予習；骨格の形態と位置関係の確認	30分
9回	人体ドローイング（ワイヤードローイング） →ヌードモデル。現実において人体の表面から立体構造を探る(固定ポーズ) [A.L.]	予習；ワイヤードローイング（輪切りの形態の連続）としての立体把握の確認 復習；観察を通じた骨格把握のまとめ	60分
10回	人体と服① →体幹における人体と衣服の関係の分析 ポートフォリオ作成に関して [A.L.]	予習；人体の稜線、面の方向の確認 復習；ポートフォリオ作成に関して	30分
11回	人体と服① → “ ” [A.L.]	予習；固有色のための「下塗り」	120分
12回	人体と服② →全身における人体と衣服の関係の分析 [A.L.]	予習；骨格の形態と位置関係の確認 復習；人体と服②、下塗り完成	60分
13回	人体と服② → “ ” [A.L.]	復習；受講分析文、ポートフォリオ完成、2回～13回の復習	120分
14回	最終評価課題 →授業の内容の再確認、ポートフォリオの提出 [A.L.]	復習；人体の知識、立体表現の方法の専門への応用を考える	45分
15回	まとめ →最終評価課題作品、受講分析文、ポートフォリオの評価のフィードバック [A.L.]	復習；最終評価課題、受講分析文、ポートフォリオの評価に基づく、反省と発展	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

- ・ 毎回の提出作品の採点後、次回授業最初に、作品の全体的な評価点、問題点等を優秀作品の抜粋により解説する。
- ・ 14回目提出のポートフォリオは、内容とそれぞれの受講分析に対して、各自に「評価コメント」を記述し15回目に返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢等
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	授業内容理解度、通常作品、最終評価課題作品、ポートフォリオ等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 授業の進行に合わせて、プリントを配付する

■参考文献 必要に応じて授業時に指示

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示。連絡研究室：大学表現演習研究室(第3校舎1階)

■備考 なし

西洋服飾文化史

鈴木 桜子

1年 前期 必修 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

現在、私たちは洋服を着た生活をしています。しかし日本における洋服の歴史は実質100年の歩みでしかありません。私たちが日本で洋服を着るようになるその背後には、西洋文化の中で培われてきた何千年もの歴史があります。

本授業の方針としては、有史以来、民族、地域、風土、宗教によって形成されてきた西洋文化を服飾の視点から探っていきます。また、身体－衣服－空間の視点から時代の美しさを表わしてきた芸術・建築様式との関連性を重視していきます。

■到達目標（学修成果）

古代から近代に至る西洋服飾文化を理解することにより、現代～未来に繋がる衣文化形成への視座を持つことが目標です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は基本的な服飾の成立を理解する上で服飾表現学科の必修科目であり、卒業要件科目です。また学芸員課程の履修科目の一つになっています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 服飾と様式について	シラバスの確認	10分
2回	I. 古代 エジプト様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
3回	ギリシャ様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
4回	ローマ様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
5回	II. 中世 初期キリスト様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
6回	ビザンティン様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
7回	ロマネスク様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
8回	ゴシック様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
9回	III. 近世 ルネサンス様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
10回	バロック様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
11回	ロココ様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
12回	IV. 近代 新古典主義様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
13回	ロマン主義	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
14回	歴史主義様式	復習：前回ノートの確認＋manaba 復習	30分
15回	時代区分と様式美のまとめ ヨーロッパ地図の確認	これまでのノートの確認＋manaba 復習	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回提出するノートプリントを次回授業時に返却します。また進度に合わせてノートプリント評価をして授業内でフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※プリントノートの提出

※manaba 復習の取組み

※授業内小テスト

■教科書

なし

■参考文献

必要に応じて授業内で紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回授業でお知らせします。

■備考

授業時間外では、本学の図書館や衣裳博物館を大いに利用しましょう。さらにファッション展や建築・デザイン展などの展覧会がある場合にはできるだけ足を運んで実際の作品に触れるようにしましょう。またファッション分野だけではなく、常に広い視野をもって過去・現在・未来を見据えていきましょう。

服飾造形基礎Ⅱ

中村 枝里子 井口 多恵子 笹部 小百合 (2024 年度予定 満喜 朋美)

1 年 後期 必修 (3 単位 演習)

■授業の方針・概要

服飾造形のスカートに関する製図方法と基礎的な知識や製作技術を修得する。

■到達目標 (学修成果)

この科目を履修することにより、スカートの基本製図、縫製等が出来るようになる。またその他のスカートの製図方法を学び応用力を身に付けることを目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、専門科目、服飾関係科目の初年次必修の演習科目である。前期の服飾造形基礎Ⅰに続き、基本アイテムにおける服の構造を学修し、専門専攻での学修へ繋げていく。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1 回	オリエンテーション、連携授業の進め方について、著作権について スカートについて、採寸方法の説明 スカート実寸大製図	予習：シラバスを読む、採寸方法の確認	30 分
2 回	スカート実寸大製図 生地相談	予習：スカート生地を調べる・探す 復習：遅滞している箇所の作業	60 分 60 分
3 回	スカート実物制作：型紙作成	復習：遅滞している箇所の作業	60 分
4 回	まつり縫い 4 種、小試験 スカート制作について (グループワーク)	予習：手縫いについて読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
5 回	スカート実物制作：表地裁断、印付け	予習：裁断、印付けについて読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
6 回	スカート実物制作：表地縫製	予習：表地の縫製方法について読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
7 回	スカート実物制作：ファスナー付け (フラットファスナー付け)	予習：ファスナー付けについて読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
8 回	スカート実物制作：裏地裁断、印つけ 裏地縫製	予習：裏地の縫製方法について読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
9 回	スカート実物制作：表地・裏地の合わせ ベルト作り	予習：まつり縫いの方法について確認 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
10 回	スカート実物制作：ベルト付け	予習：ベルト付けについて読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
11 回	スカート実物制作：糸ループ、カギホック付け 仕上げ 小試験	予習：糸ループ、カギホック付けについて読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
12 回	スカートのあきについて 種類・縫製方法 (コンシールファスナー付け、見返し始末)	予習：ファスナーの種類を調べる 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
13 回	応用スカートの製図方法	予習：スカートの種類について調べる 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
14 回	応用スカートの製図方法	予習：各種スカートの製図方法を読む 復習：遅滞している箇所の作業	30 分 60 分
15 回	スカートプレゼンテーション、小試験 まとめ	予習：ファイルをまとめる プレゼンテーション準備 復習：スカート、ファイル直し	60 分 60 分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

小試験後、採点返却と解説また 15 回目に作品を評価

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING II、電子教材

■参考文献 図解服飾用語事典 その他

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第 1 回目の授業に指示。 研究室 大学服飾造形研究室

■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は各自必要に応じて増減すること。

グラフィックデザインⅠ

土屋 純一

1年 後期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

グラフィックデザインⅠの授業ではデザインの目的を明確にし、そのターゲットや内容を具体的に考えながらデザインの基礎知識やスキルを身につけてゆく。授業ではアナログ手法でのデザイン計画にも重点を置き、テーマ毎に事例の鑑賞やアプリケーションを使った実際のデザイン制作、考察を行う。

■到達目標（学修成果）

グラフィックデザインの目的を理解し、デザイン関係のアプリケーション（illustrator, Photoshop）を駆使して効果的かつオリジナルなポートフォリオを制作できる DTP スキルを身につけることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、必修科目である。全専攻におけるプレゼンテーションやポートフォリオ制作に必要なデザイン能力を身につける為の授業である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、【画像補正】カラーモード、色調補正、解像度、ファイル形式、透過画像、トリミング、文字入力。	復習：Photoshop の基本操作、カラーモード、画像形式などについて。	60 分
2回	【人物の変形／修正／合成】画像補正、変形、合成、マスク、レイヤー、色調整、ブラシツール、他。アクティブ・ラーニング	復習：レタッチについて。 予習：Photoshop を使った画像合成について。	60 分
3回	【服のデザイン】人物の服を任意の画像と合成して様々なデザインソースを制作する。アクティブ・ラーニング	復習：画像合成の応用。 予習：Illustrator のツールについて。	60 分
4回	【人物画像からシルエットをデザインする】パスの変形、整列、グループ化、他。アクティブ・ラーニング	復習：Illustrator の基本。応用課題。 予習：パスの操作について。	60 分
5回	【服のデザイン2】画像から抽出した服のシルエットをもとに複数のデザイン画から具体的なイメージへの展開。アクティブ・ラーニング	復習：Illustrator のパスについて。 予習：準備課題。	90 分
6回	【文字のデザイン】フォント、変形、アウトライン化、AI による画像処理、他。アクティブ・ラーニング	復習：Illustrator の応用。 予習：ページ制作について。	60 分
7回	【データの資料化】授業で製作したまとめ資料の製作。テンプレート、アートボード複製、レイアウト、PDF 作成。アクティブ・ラーニング	復習：資料の完成。 予習：広告デザインの閲覧。	120 分
8回	【チラシのデザイン】印刷原稿として利用できるデータを制作する。トンボ、クリッピングマスク、他。アクティブ・ラーニング	復習：印刷知識について 予習：デザイン素材の準備。	60 分
9回	【チラシのデザイン2】テキストボックスの連結、段組、カーニング、画像解像度、リンク、埋め込み、入稿、他。アクティブ・ラーニング	復習：中間作品のファイル完成。 予習：準備課題。	60 分
10回	【身近なものからのデザイン】身近なイメージから具体的なデザインを展開し、ポートフォリオを制作する。アクティブ・ラーニング	予習：デザインやイメージの元になる画像の準備。ページ構成を考える。	90 分
11回	【身近なものからのデザイン2】具体的なデザインイメージの画像を合成する。アクティブ・ラーニング	復習：画像合成によるデザイン画制作。 予習：画像等の素材を収集、準備。	60 分
12回	【身近なものからのデザイン3】展開したデザインのイメージ画像を制作する。アクティブ・ラーニング	復習：コンテンツ作成。 予習：レイアウトについて。	60 分
13回	【身近なものからのデザイン4】各ページを制作する。アクティブ・ラーニング	復習：ページ作成。 予習：テキスト、素材の準備。	60 分
14回	【身近なものからのデザイン5】表紙、目次等を制作する。アクティブ・ラーニング	復習：ポートフォリオの完成。 予習：ファイルのまとめ。	90 分
15回	【作品講評】完成したポートフォリオのプレゼンテーション、ディスカッション。アクティブ・ラーニング	復習：ポートフォリオの見直し。修正。	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各授業冒頭に前回課題の総合講評を行う。ポートフォリオを含む最終ファイルは採点、添削後に返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	理解度、通常作品、ファイル等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

特に指定しないが授業ごとに適宜紹介、及びプリントを配布する。

■参考文献

グラフィックデザイン基礎講座/大里浩二（玄光社）、世界一わかりやすい Illustrator 操作とデザインの教科書（技術評論社）、世界一わかりやすい Photoshop 操作とデザインの教科書（技術評論社）

■オフィスアワー・研究室

月曜日、火曜日（12 時 10 分～12 時 50 分） 連絡研究室 大学表現演習研究室（第三校舎 1 階）

■備考

アプリケーションに頼らない手書きのイメージスケッチなどを普段から行うこと。授業内で使用するアプリケーションに関する解説書等に目を通し、配布されたプリントはすべてファイリングして毎回の授業に持参すること。

身体表現Ⅰ―基本の動き―

水上 雅子

1年 後期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

自分の“からだ”こそ個性であり、身体活動こそ自己を表現する基本です。自分の身体活動にも、自分らしさが表現できたら楽しいと思いませんか。この授業では、表現の中でも舞台の上で歩くとはどういうことなのか、作品を魅せる歩き方にどんな方法があるのかなどを“からだ”を意識しながら、姿勢とウォーキングを中心に学習します。過去のファッションショーを分析し、ステージを実際に使用し、チームでファッションショーの歩く構成を作ります。この授業は、グループでのディスカッションなど、アクティブラーニング（授業計画ではALと記述）を基本に学んでゆきます。

■到達目標（学修成果）

いろんな歩き方を体験し、舞台の上で表現すること、表現する側の感じ方、考え方を理解することができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目です。専門科目・服飾関係の必修演習科目になります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業のイメージ作りー到達目標、自己目標の明確化 今の自分を知るー姿勢、立ち方、歩き方	予習 シラバスを読んでくる。 復習 今の自分についてまとめる。	10分
2回	ポージングについて考えるーいろんな場面のポージングを体験する。次週のグループワークについて考える。	復習 授業中に感じた感覚についてレポートにまとめる。	30分
3回	ポーズの写真①ーグループワーク(AL)：グループごとにドレスの良さが伝わる写真を制作する。	予習 着装するドレス選び、コンセプトなどをまとめてくる。	30分
4回	ポーズの写真②ーディスカッション(AL)：全員で、ディスカッションする。	復習 全員の作品を観て、自分のグループの作品を振り返る。	30分
5回	からだで感じる①ーゲスト講師授業 ヨガを体験する。動きと呼吸の関係を感じながら、動いてみる。	復習 動きの中で感じたことを、レポートにまとめる。	30分
6回	からだで感じる②ーグループワーク(AL)：インプロゲーム、他グループでいろんな形を作る。	復習 動きの中で感じたことを、レポートにまとめる。	30分
7回	からだで感じる③ーウォーキング：いろんな歩き方を体験してみる。正しい、美しい歩き方を考える。	復習 歩いて感じたことを、レポートをまとめる。	30分
8回	過去のファッションショーから学ぶ：いろんな時代のファッションショーの映像を観てディスカッションする。(AL)	復習 映像を観て感じたことを、レポートにまとめる。	30分
9回	一人で歩く①ードレスを生かしたウォーキングを考え、映像に撮る。	復習 自分の描いた表現についてまとめる。	30分
10回	一人で歩く②ーディスカッション：全員の作品を見て、自分の作品を振り返り、次週のグループワークに繋げる。	復習 動きの中で感じたことを、レポートにまとめる。	30分
11回	からだで感じる④ーグループワーク(AL)：グループでいろんな歩き方を体験し、独自の動きを発見して行く。	復習 授業中に感じた感覚についてレポートにまとめる。	30分
12回	舞台での動きを作る①ーグループワーク(AL)：テーマに沿った動きを作る。	予習 グループのテーマや動きを考えてくる。	30分
13回	舞台での動きを作る②ーグループワーク(AL)：実際に動いて、作品を作る。	復習 作品の内容を一人で、検討してみる。	60分
14回	発表(AL)ーリハーサル後、他のグループの作品やアドバイスを参考に、再度まとめ最終発表となる。	復習 他の学生の発表をみて、自分の発表を振り返る。	30分
15回	まとめ 「身体表現Ⅰ」を振り返り、まとめる	復習 レポートにまとめ提出する。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

動きをビデオで撮影し授業内で解説をする。レポートなどは、manabaを活用し、コメント、評価を返す。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて、資料を配布する。

■参考文献 必要に応じて、紹介する。

■オフィスアワー・研究室

初回授業で伝える 【研究室】体育研究室（研究棟2階 6024）

■備考 状況に応じて、内容に変更有。

写真表現

中野 希大

1年 後期 必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

写真は誰でも撮ることができますが、思い通りの表現をするにはカメラのコントロールができなければなりません。またコンピュータによるフォトレタッチの技術は、クリエイターの世界観を具体的にイメージ化することを可能にしました。この授業では撮影とフォトレタッチの基本技術を、実践的な演習（撮影・データ制作）を通して学びます。

■到達目標（学修成果）

①カメラの基本的な仕組みを理解し、目的に合わせてコントロールして撮影できるようになる。

②Photoshop、Illustratorの基本的な操作方法とフォトレタッチ技術を修得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、必修科目の卒業要件科目となります。服飾表現において、イメージ発信者の基礎知識として活きる科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	Introduction1 オリエンテーション	復習：レポートの内容を考えておく。また、カメラの準備をする。	60分
2回	Theme1 焦点距離（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：焦点距離によるイメージの違いの確認、カメラ操作に慣れておく。	30分
3回	Theme1 焦点距離（2）	復習：焦点距離を意識した応用課題に取り組む。	60分
4回	Theme2 シャッター速度、絞り、ISO感度（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：露出決定メカニズムの理解とカメラ操作に慣れておく。	30分
5回	Theme2 シャッター速度、絞り、ISO感度（2）	復習：露出を意識した応用課題の撮影に取り組む。	60分
6回	Theme3 露出補正、ホワイトバランス（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：光を意識した露出や色の理解、カメラ操作に慣れておく。	30分
7回	Theme3 露出補正、ホワイトバランス（2）	復習：光と色を意識した応用課題の撮影に取り組む。	30分
8回	Theme4 スチルライフ 演出された写真（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	予習：スチルライフの課題に必要な素材を準備する。	60分
9回	Theme4 スチルライフ 演出された写真（2）	復習：テーマを決めて応用課題の撮影に取り組む。	60分
10回	Theme5 フォトレタッチ Photoshop 演習（1）	予習：雑誌の表紙に使用する写真素材を準備する。	60分
11回	Theme5 フォトレタッチ Photoshop 演習（2）	復習：レタッチを行い、各自のイメージに合わせた画像制作に取り組む。	30分
12回	Theme5 フォトレタッチ Photoshop 演習（3）	復習：雑誌の表紙デザインの仕上げに取り組む。	30分
13回	Theme6 スタジオライティング（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：ライティングによるイメージの変化を確認し、効果を理解する。	30分
14回	Theme6 スタジオライティング（2）	復習：撮影した写真の違いを確認し、課題レイアウトに取り組む。	30分
15回	学習のまとめ、課題の整理・提出	予習：これまでの全ての課題を整理し、提出の準備をしておく。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出課題については、授業内講評あるいは授業内返却時にコメントを添付する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	レポートと基本課題作品 50%、応用課題作品 20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 特に指定しない。

■参考文献

写真の教科書、Photoshop、Illustratorの入門書など、各自のスキルに合わせて持っているといよい。

■オフィスアワー・研究室

前期：月・火曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階） または本校舎1階教務課

後期：木曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階） または本校舎1階教務課

■備考

- デジタルカメラを各自で用意すること。一眼レフやミラーレスを推奨する。標準ズームレンズが望ましい。コンパクトデジタルカメラは推奨しない。スマートフォン、トイカメラ、フィルムカメラは基本課題ができないので使用不可。購入等についての相談は初回授業後に受け付ける。ただし、第2回から使用するので必ず用意できるように予め検討しておくこと。
- 教室のプリンタ使用は原則として授業時間内に行うこと。

ファッション・フィールド・リサーチ

大方 和則

1 年 後期 必修 (1 単位 演習)

■授業の方針・概要

都内の主要な商業施設の店舗調査（リサーチ）を通じて、現代的な商業施設の特性やトレンドの体験的な理解を進めていく科目です。現在の市場において優位性の高い商業施設（ファッションビル、駅ビル、セレクトショップ、路面店・リセールショップなど）の分類を把握しながら、立地特性の把握、定点調査の実施、各カテゴリーの訴求するトレンド情報の調査・分析、客層調査・分析、VMD 調査・分析、それらのグループワーク及び発表など、実践的な演習、アクティブラーニングを通して理解を深めていきます。

■到達目標（学修成果）

この科目を通して、①都内主要エリアの特性を理解できます。②業態毎の特性の理解を深められます。③店舗調査及び分析の手法が身に付きます。④顧客の差異や MD ラインナップの店舗毎の違いとその戦略を理解できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位であり、全学生の共通必修科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	フィールドリサーチの基本的確認と注意事項 ・ファッションリテラル業態別の特徴 ・日本のファッショントレンド(MD 構成)の把握 ・グループ分け、エリア決め(渋谷エリア・原宿エリア)	予習：シラバスの確認 復習：今後行うリサーチエリアの確認 グループ内での情報共有の確認	30 分
2 回	フィールドリサーチ①渋谷エリア(1) 渋谷パルコ：コンセプトショップを中心に気になるブランド、施設全体をリサーチ	予習：渋谷エリアの確認 復習：レポートの作成	60 分
3 回	フィールドリサーチ②原宿エリア(1) キャットストリート：原宿と渋谷を繋ぐ裏通り沿いの気になるショップや、ブランドをリサーチ	予習：原宿エリアの確認 復習：レポートの作成	60 分
4 回	フィールドリサーチ③渋谷エリア(2) 渋谷スクランブルスクエア：コレクションブランドを中心に気になるブランド、施設全体をリサーチ 渋谷エリア：定点観測(1)	予習：渋谷エリアの確認 復習：レポートの作成、渋谷エリアの定点観測の調査書をまとめる	80 分
5 回	フィールドリサーチ④原宿エリア(2) ラフォーレ原宿：ヤングコンセプトブランドを中心に気になるブランド、施設全体をリサーチ 原宿エリア：定点観測(1)	予習：原宿エリアの確認 復習：レポートの作成、原宿エリアの定点観測の調査書をまとめる	80 分
6 回	フィールドリサーチ⑤渋谷エリア(3) 宮下パーク：トレンド最先端のラグジュアリーブランド、施設全体をリサーチ	予習：渋谷エリアの確認 復習：レポートの作成	60 分
7 回	フィールドリサーチ⑥原宿エリア(3) 表参道ヒルズ：トレンド最先端のラグジュアリーブランド、施設全体をリサーチ	予習：原宿エリアの確認 復習：レポートの作成	60 分
8 回	フィールドリサーチ⑦渋谷エリア(4) 渋谷ヒカリエ：施設全体、気になるブランドをリサーチ 渋谷エリア：定点観測(2)	予習：渋谷エリアの確認 復習：レポートの作成、渋谷エリアの定点観測の調査書をまとめる	80 分
9 回	フィールドリサーチ⑧原宿エリア(4) オモカド：施設全体、気になるブランドをリサーチ 原宿エリア：定点観測(2)	予習：原宿エリアの確認 復習：レポートの作成、原宿エリアの定点観測の調査書をまとめる	80 分
10 回	フィールドリサーチ⑨渋谷エリア(5) 渋谷・神南界限：UA, BEAMS 等のセレクトショップや海外 SPA を中心に気になるショップ、エリアをリサーチ	予習：渋谷エリアの確認 復習：レポートの作成	60 分
11 回	フィールドリサーチ⑩原宿エリア(5) 原宿界限：原宿エリアを中心に気になる古着ショップをリサーチ	予習：原宿エリアの確認 復習：レポートの作成	60 分
12 回	フィールドリサーチ⑪渋谷エリア(6) 渋谷サクラステージ：施設全体、気になるブランドをリサーチ 渋谷エリア：定点観測(3)	予習：渋谷エリアの確認 復習：レポートの作成、渋谷エリアの定点観測の調査書をまとめる	80 分
13 回	フィールドリサーチ⑫原宿エリア(6) ハラカド：施設全体、気になるブランドをリサーチ 原宿エリア：定点観測(3)	予習：原宿エリアの確認 復習：レポートの作成、原宿エリアの定点観測の調査書をまとめる	80 分
14 回	最終プレゼンテーションに向けての準備 ・チームごとのディスカッション ・プレゼン練習等	予習：グループ内での情報共有の確認 復習：最終プレゼンテーションの準備	80 分
15 回	フィールドリサーチのまとめとグループプレゼンテーション	総括：グループプレゼンテーション	40 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートは、リサーチ翌週の授業点呼で回収。回収したレポートは期末成績が完了後に一括返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

レポートにおいて、各施設に共通してみられるキーワードをより多く見付け、画像や分析コメントなどの情報量の多さ、ビジュアル面による表現力の高さが評価する

■教科書 毎回、リサーチする店舗の参考資料を資料又はデータで配布します。

■参考文献 必要に応じて随時お知らせします。

■オフィスアワー・研究室 第1回目の授業で指示。出講日：前期/木曜日 後期/火曜日 連絡先：教務課(本校舎1階)

■備考○商業施設等の状況により場所や順番の変更をすることがあります。(掲示板・マナバを確認すること)

○各施設・各店舗でのルールに留意しながら、団体ではなく個人・チームでリサーチを行ってください。

○外出機会が多いため、店頭での常識ある態度、礼儀、ショップ内の撮影には店員の承諾を得る等を十分注意すること。

○レポート提出が評価の中心になるため期日厳守。またリサーチにかかる交通費は各自負担となります。

プレゼンテーション論

大極 勝

1 年 後期 必修 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

実社会において、その考えや主張を理解する基本はコミュニケーションの積み重ねにある。そのコミュニケーションを円滑にするために必要となるものがプレゼンテーション力である。そこには情報を発信する側の①外見、②口調、③内容が問われている。コミュニケーショントレーナーとしての実務経験を活かし、各要素の重要性を捉え、アクティブラーニング形式を採用してプレゼンテーションの基本を習得する。

■到達目標（学修成果）

必要な情報を「伝える」から「伝わる」情報となるべく、実社会で「出会い」のシーンを事例に取り入れながら、使えるプレゼンテーションの基本を体得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、服飾表現学科の必修科目であり、卒業要件科目の単位です。実社会に出た時に、新たな力となる考え方と表現力の基盤を作ることができるような、全授業の積極的理解の基礎となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	オリエンテーション 4 年間の授業を活きたものにするために	復習：コミュニケーションと時間の関係を知る 全 15 回のレジュメ・課題をマナバにて配信	20 分
2 回	U S P の理解と 1 分プレゼンテーション実習①	課題：1 分自己紹介文①のブラッシュアップ	30 分
3 回	プレゼンテーションとコミュニケーションの関係 第一印象の重要性を理解する	復習：第一印象の後にある第二印象も理解 課題：1 分自己紹介作成（名前の由来）②	20 分
4 回	誰もが緊張・失敗することを学ぶ 1 分プレゼンテーション実習②（名前の由来）	復習：緊張も失敗も必要であることを理解 課題：名前の由来②ブラッシュアップ	20 分
5 回	惹き付ける話し方を考える	復習：魅力的な話し方を復習・理解する	20 分
6 回	説得力のある内容・文章構成を考える	復習：聴きたくする話し方を理解 課題：1 分プレゼンを作成③（志望動機）	20 分
7 回	1 分プレゼンテーション実習③（志望動機）	課題：実習③のプレゼンをブラッシュアップ	20 分
8 回	1 分プレゼンテーション実習④（自己紹介） グループでのプレゼンテーション	復習：対応人数の違いによる表現方法を理解。	20 分
9 回	プレゼンテーションの聴き方を理解する実習⑤ ラポールの形成を考える（1 分自己紹介振り返り）	復習：聴き手の反応によりプレゼンの完成度が 変わることを理解する（傾聴と非傾聴）	20 分
10 回	1 分プレゼンテーション実習⑥（自己紹介） ラポール形成後のクラス全体プレゼンを体感する	復習：過去プレゼンの構成や技法を振り返る 課題：「自己紹介」を完成させる	20 分
11 回	1 分プレゼンテーション実習⑦（名前の由来） グループでのプレゼンテーション	復習：「伝わる」プレゼンとは？を理解 課題：「名前の由来」を暗記する	20 分
12 回	1 分プレゼンテーション実習⑧（名前の由来） クラス全体プレゼンテーション	課題：「名前の由来」を完成させる	20 分
13 回	1 分プレゼンテーション実習⑨（志望動機） グループでのプレゼンテーション	課題：「志望動機」を暗記する	20 分
14 回	1 分プレゼンテーション実習⑩（志望動機） クラス全体でのプレゼンテーション	復習：これからの自分表現を考える 課題：「志望動機」を完成させる	20 分
15 回	「まとめ」として小テスト実施 授業内容の総合的な理解度を確認する	復習：「人」対「ひと」であることを理解	20 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各回講義内で課題設定し、次回の講義で発表。期末レポートによる試験と後日掲示による総評にてフィードバック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

各回とも、当日使用資料、関連情報等を授業終了後にマナバにてデータ配信。

■参考文献

授業時間に指示

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・マネジメントコース〔3402 教室〕または講師控室にて授業前 30 分前待機。

■備考

全 15 回ともマナバにて授業用レジュメ・課題等を配信。

流通・商業入門

六嶋 俊太

1年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本講義では、ビジネスに関わる学問の初学者を対象として、企業活動および消費現象を思考するためのコンセプト（概念）・理論枠組みを提供する。受講生は、学んだコンセプト・理論枠組みを、現実の企業や現象に当てはめ思考する演習（グループワーク）を通して、知識を習得し、活用する力を身につけることが求められる。上述した一連の活動を通して、本講義は、商業、すなわち需要と供給を結びつけることで利益を得る事業の仕組みや、流通、すなわち製品・サービスを消費者に適切に提供する仕組みの理解を深めることを目的とする。

■到達目標（学修成果）

- ① 流通・商業に関わるコンセプト・理論枠組みを理解し、企業活動および消費現象を思考する能力を身につける
- ② 講義で学んだ内容を具体的な現象に当てはめ、それらを他者に分かりやすく伝達する能力を身につける

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目の単位となります。全学生の選択科目で、ファッションビジネスを理解する基礎力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション	予習：シラバスを読む。 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	15分
2回	企業とその活動について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
3回	マーケティングについて	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
4回	マーケティング・ミックスについて	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
5回	製品ライフサイクルについて	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
6回	業界構造とサプライチェーンについて	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：グループ・プレゼン資料の作成	30分
7回	グループ・プレゼンテーション（1回目）	予習：グループ・プレゼン資料の作成 復習：発表へのフィードバックを振り返る	30分
8回	企業を取り巻く環境について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
9回	ブランドの役割について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
10回	消費者行動について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
11回	消費文化理論（CCT）について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
12回	企業活動の倫理的側面について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：グループ・プレゼン資料の作成	30分
13回	グループ・プレゼンテーション（2回目）	予習：グループ・プレゼン資料の作成 復習：発表へのフィードバックを振り返る	30分
14回	講義内容の振り返り	予習：配布資料をもとに講義内容を振り返る 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
15回	まとめ	予習：配布資料をもとに講義内容を振り返る 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

評価基準を説明した上で、授業内で2回グループ・プレゼンテーションの機会を設け、フィードバックを行います。筆記試験に関しては、試験終了後、正答を「manaba」に公開します。それぞれの点数の公開については初回授業で学生と相談の上、決定します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	内、グループ・プレゼン：40%、授業内試験：30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 なし

■参考文献 各回の配布資料に掲載します。

■オフィスアワー・研究室 質問等があればメールにて受付けます。詳細は初回授業で説明します。

■備考

「manaba」へアクセスが可能な状態にしておいてください。ノートPCをお持ちの受講生は、積極的に持参してください。

ファッションビジネス概論

五月女 由紀子

1年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションビジネスは、商品でクリエイションを表現する一方で、顧客満足と企業の利益の双方を実現することを目的としている。日本の繊維・アパレル業界は21世紀に入り、小売の業態転換、ネットビジネスの発展が顕著であり、コロナ禍以降はさらに加速化した。服飾大学に学ぶ学生は、卒業後にファッション業界で働く比率が高いことを前提に、基本的な業界構造と歴史を学び、川上から川下までの機能と役割を理解する。既製服が成立した歴史と背景、商品企画から海外生産の現状、昨今伸びてきたオンラインビジネスと店舗の関係、海外展開など、ファッションビジネスの基礎を学ぶ。担当教員の10年以上のアパレル企業での勤務経験を活かし、企業の事例を中心に展開していく。

■到達目標（学修成果）

第一にファッションビジネスの業界構造を把握し、ファッション商品がどのような工程を経て企画生産され、消費者の手に渡るかを理解する。第二に昨今のファッションビジネスの現場の新しい動向を理解する。将来の各自の専門分野で活用できるファッションビジネスの基本知識を獲得することを目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、専門選択科目の卒業要件科目となります。ファッション業界で働くために必要な、ファッションビジネスを理解する基礎力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ファッションビジネスの定義と特性	予習：シラバスを読む	30分
2回	繊維・アパレル業界の構造と職種（川上～川中～川下）① 川上のデザイナーの動画視聴	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
3回	繊維・アパレル業界の構造と職種（川上～川中～川下）②	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
4回	日本のアパレル業界 川中+川下のSPA（アパレル製造小売）業態への転換	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
5回	日本のSPAの商品企画の外部化（OEMメーカー、ODMメーカーの機能補完と活用）	復習：課題をマナバに提出する。	60分
6回	日本のアパレル業界の歴史 日本のアパレルメーカー（アパレル製造卸）と百貨店の発展	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
7回	マーチャンダイジングとは アパレルMDとリテールMDの違い、多品種少量生産について	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
8回	日本のアパレル製品の海外生産の現状 中国、ASEAN、南アジアでの生産	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
9回	ファッションビジネスの歴史① パリのオートクチュール： デザイナービジネスの萌芽	復習：課題をマナバに提出する。	60分
10回	ファッションビジネスの歴史② パリのオートクチュール： ブランド戦略と香水ビジネス（シャネルの事例）	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
11回	ファッションビジネスの歴史③ プレタポルテとライセンスビジネス（既製服：大量生産の成立：デイオールとサンローラン）	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
12回	ファッションECビジネスの発展 ECモールと自社サイト、さ（撮影）さ（採寸）げ（原稿）	復習：復習：課題をマナバに提出する。	60分
13回	オムニチャネル、OMO（Online Merges with Offline） オンライン（EC）オフライン（リアル店舗）の融合	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
14回	店舗スタッフのオンライン接客 （スタッフスタート、ライブコマース等）	復習：最終課題をマナバに提出する。	60分
15回	まとめ 課題のフィードバックを行う	復習：課題を振り返る	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内に複数回の課題をマナバで提出してもらい、フィードバックをする。提出課題の総合点を採点とする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 基本的には教員が作成した資料を配布するため、各自管理を行うことが必須である。

■参考文献

「ファッションビジネスⅠ 改訂版」（ファッションビジネス能力検定試験3級準拠）

財団法人 日本ファッション教育振興協会

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの日は授業初回に提示する。ファッションビジネス・流通イノベーション実習室（3207教室）

■備考 なし

ファッション画Ⅰ

福地 宏子

1年 前期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションイメージを的確に表現し伝達するために、人体のプロポーション・服の構造・生地や素材・服の型のみを描くハンガーイラストの表現を学び、人体と服についての理解を深めます。

■到達目標（学修成果）

- ・基本のプロポーション（8頭身）にそって、服のバランスを的確に描くことができる
- ・服の構造、ディテール、ハンガーイラストの描き方を修得できる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシーでは、専門選択科目となり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	・教材、授業計画の確認 【人体のプロポーション】8頭身の基本バランス	【予習】履修便覧を読んでおく 【復習】人体のプロポーションの反復練習	60分
2回	【ポーズのバリエーション】 片脚重心のポーズ	【復習】人体のプロポーションの反復練習	60分
3回	【顔のプロポーション】正面、横、斜めの基本バランス (ヘアスタイルの表現も含む)	【復習】顔のプロポーションの反復練習 【予習】ヘアスタイルのリサーチ・資料収集	60分
4回	【肌、ヘアスタイル、メイクの着色①】 (主にマーカー、色鉛筆) 画材の着色方法・画材の使用例	【予習】課題仕上げに向けた資料収集 下描きの完成	60分
5回	【肌、ヘアスタイル、メイクの着色②】	【復習】顔・ヘアスタイルのスケッチ	60分
6回	【シャツ&スカートの着装①】 ・洋服を着装させる際のポイント ・生地の動き、しわ等の描写表現	【予習】シャツ・スカートのデザインリサーチ 【復習】人体のプロポーションの反復練習	60分
7回	【シャツ&スカートの着装②】 ・シャツとスカートの種類を描き分ける ・着色	【復習】アイテム着装の練習	60分
8回	【シャツ&スカートの着装③】 ・着色 ・仕上げ	【復習】様々なシャツ、スカートのスケッチ	60分
9回	【ハンガーイラスト①】 ・スカート（タイト、ギャザー、フレアー、プリーツ） ・シャツ、ブラウス（衿、袖等のディテール表現も含む）	【復習】ハンガーイラスト反復練習	60分
10回	【ハンガーイラスト②】	【復習】ハンガーイラスト反復練習	60分
11回	【ハンガーイラスト③】	【復習】ディテールのスケッチ練習	60分
12回	【ワンピースの着装①】 ・ワンピースのデザインについて ・デザインバリエーション(ハンガーイラストも含む)・着色	【予習】ワンピースのデザインリサーチ	60分
13回	【ワンピースの着装②】	【復習】アイテム着装の練習	60分
14回	【ワンピースの着装③】	【復習】様々なワンピースのスケッチ	60分
15回	・まとめ・合評会	【復習】半期課題を振り返る	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各課題の添削の際にはコメントやアドバイスの記入をして、次回以降の授業で返却する。

課題によっては、返却時にクラスメイトの課題を閲覧する時間を設けて、意見交換やアドバイスを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

「ファッション画法」

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

【オフィスアワー】第1回目の授業時に指示する

【研究室】ファッション画研究室 研究棟2階 6025

■備考

- ・授業に必要な道具や参考資料は必ず時間前に準備すること
- ・進度により授業計画が変更になる場合もある

ファッション画Ⅱ

福地 宏子

1年 後期 選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

服のシルエット、素材、色彩等を意識し、デザインの正確な描写をトレーニングすることで、ファッション画Ⅰで修得した知識と技術を発展させていきます。幅広いファッションジャンルに対して目を向け、自身の好みや世の中の流行を意識することを心がけます。

■到達目標（学修成果）

- ・素材や生地を意識した描写ができる
- ・様々なアイテムに対しての着装表現、ハンガーイラストの描き方を修得できる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシーでは、専門選択科目となり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【素材や柄の描写表現①】 画材を活かした表現方法(マーカー・色鉛筆 等)	【予習】履修便覧を読んでおく	10分
2回	【素材や柄の描写表現②】	【復習】様々な素材や柄の表現練習	60分
3回	【テーラードジャケット①】 ・ジャケットの説明 ・着装とハンガーイラスト	【予習】ジャケットのデザインリサーチと資料収集	60分
4回	【テーラードジャケット②】	【復習】ジャケットのスケッチ	60分
5回	【テーラードジャケット③】	【復習】ジャケットのスケッチ	60分
6回	【コート①】(羊毛、獣毛素材などの毛織物) ・着装とハンガーイラスト ・素材表現 ・帽子、バッグ、靴 等の小物表現も含む	【予習】コートのデザインリサーチと資料収集	60分
7回	【コート②】	【復習】ファッション小物のスケッチ	60分
8回	【コート③】	【復習】素材描写の練習	60分
9回	【子供服①】 ・年齢によるプロポーションの変化、ポーズの表現を含む ・ハンガーイラスト ・素材表現	【予習】子供服のデザインリサーチと資料収集	60分
10回	【子供服②】	【復習】年齢によるプロポーションの変化と着装バランスを練習	60分
11回	【メンズファッション①】 ・プロポーションの練習 ・着装表現	【予習】メンズファッションの参考資料の収集	60分
12回	【メンズファッション②】	【復習】プロポーションの反復練習	60分
13回	【scene に合わせたファッション提案①】 ・TPO を設定し、デザインやコーディネートを提案する	【予習】自身の提案内容を確認し、資料収集と課題進行の準備	60分
14回	【scene に合わせたファッション提案②】	【復習】自身の提案内容を振り返る	60分
15回	【scene に合わせたファッション提案③】	【復習】半期課題を振り返る	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各課題の添削の際にはコメントやアドバイスの記入をして、次回以降の授業で返却する。

課題によっては、返却時にクラスメイトの課題を観覧する時間を設けて、意見交換やアドバイスを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

「ファッション画法」

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

【オフィスアワー】第1回目の授業時に指示する

【研究室】ファッション画研究室 研究棟2階 6025

■備考

- ・授業に必要な道具や参考資料は必ず時間前に準備すること
- ・進度により授業計画が変更になる場合もある

経営学入門

宮木 一平

1年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

「よのなか」のしくみを知っておくと、生きてゆくうえで便利です。「よのなか」は様々な要素から成り立っています。その中でも、「会社」とはとびっきり重要です。実際、僕らの日々の生活を支えるモノやサービスの多くは、「会社」によって作り出され、提供されています。また、多くの人々が「会社」で働き、給料をもらって生活しています。

「会社」って何だろう？「会社」という組織はどのように出来上がっていて、どのように動いているのだろうか？（また、動かしているのだろうか？）これらのことを知っておくと、この「よのなか」で生きてゆくうえでとても役立ちます。もちろん、将来「会社」に勤めたい、これからビジネスをスタートさせたい、自分のショップを持ちたい、「会社」を作りたいという人にとっては言うまでもありません。現在の、そしてこれからの「会社」の姿、「よのなか」の姿をわかりやすくお伝えします。以下に掲げた授業計画はあくまでもスタート時点での予定です。受講生と顔をあわせ意見交換をしながら要望に随時応えてゆきたいと思います。講義のネタとして、就活に役立つ情報、ホットな新聞記事、ニュースなどを多用します。

■到達目標（学修成果）

本授業での到達目標は、今後「会社」と何らかの形で関わってゆく上で役立つ、そしてもちろん就活にも役立つ基礎的知識とスキル、そして考え方・見方を身につけることです。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択の科目で卒業要件科目となります。ビジネスを理解する上で基礎となる科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス・授業の概要紹介 授業の進め方とルールの説明	予習：シラバスを読む 復習：ルールをよく理解する	30分
2回	経営学って何？ マネジメントって何？（人生そのもの！8つの問い）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
3回	会社って何？ 4つのアプローチ	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
4回	企業、法人、会社って何？（1）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
5回	企業、法人、会社って何？（2）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
6回	株って何？株式会社って何？（1）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
7回	株って何？株式会社って何？（2）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
8回	会社は誰のもの？－コーポレートガバナンスの話	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
9回	会社の価値って何？－M&Aの話	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
10回	日本的経営って何？－雇用・賃金の話	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
11回	社会における役割分担－行政、会社、非営利組織	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
12回	これからの会社－役割、分野	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
13回	いい会社の見分け方(1)	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
14回	いい会社の見分け方(2)－就職活動の話	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
15回	まとめ 授業内で提示した課題の振り返りと解説を行う	復習：最終課題を振り返る。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で毎回の課題の解説を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 使用しません。講義ノート重視です！あえて言えば、ドラッカーの「マネジメント」（ダイヤモンド社）。

■参考文献 「知の巨人ドラッカー自伝」（日本経済新聞出版社）はおススメです。その他、必要に応じて紹介します。

■オフィスアワー・研究室

質問があれば授業後に声をかけるか教務課に連絡してください。出講日：月曜日 連絡先：教務課（本校舎1階）

■備考 履修にあたって予備知識は一切必要ないので、ご安心ください。きちんと出席して耳を傾けてくれれば必ず理解出来るようにわかりやすく説明します。毎回授業の最後に manaba あるいは用紙で課題に回答してもらい、次の授業に反映させます。

服飾造形応用

笹部 小百合・田原 美津子

1年 後期 選択 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

スカートにおける構成や機能を理解し、応用デザインの作品制作をする。スカートについてリサーチを行い流行の形や色など、市場動向を知る。

■到達目標（学修成果）

スカートのデザインから製作までを通して造形表現の方法を身に付ける。プレゼンテーションができるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で卒業要件単位。制作にあたり、知識や技術を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、授業予定、基本スカート寸法について、基本スカートからの展開方法について説明	予習：シラバスを読む、各種スカートの製図方法をみておく 復習：展開方法の確認	30分 30分
2回	スカートのデザインと布の関係 使用寸法（サイズ）について 製図方法説明 デザイン考案	予習：リサーチ、コレクション雑誌等の閲覧 復習：製図方法	120分 30分
3回	各自製図	予習：スカート原型のトレース 復習：遅滞箇所を行う	30分 45分
4回	トワルの組み立てについて、トワル裁断・組み立て	予習：地直し 復習：遅滞箇所を行う	30分 60分
5回	トワル仮縫いについて 仮縫い・補正・製図修正	予習：デザイン、使用寸法の確認 復習：遅滞箇所を行う	30分 60分
6回	型紙作成 実物裁断・印入れ	予習：製図・トレース作業 復習：遅滞箇所を行う	60分 60分
7回	縫製手順（制作マップ）について説明 実物組み立て	予習：縫製方法を調べておく 復習：遅滞箇所を行う	20分 60分
8回	スカートのあきについて 種類・縫製方法	予習：縫製手順書の作成 復習：遅滞箇所を行う	60分 60分
9回	実物仮縫い・補正・製図修正・型紙修正・印入れ 直し 縫製①	予習：サンプル作成 復習：遅滞箇所	60分 60分
10回	縫製②	予習：説明のあったところまで進める 復習：遅滞箇所を行う	60分 60分
11回	縫製③ 1/5大製図の書き方、プレゼンテーション資料 作成について説明	予習：説明のあったところまで進める 復習：1/5大製図下書き プレゼンテーション資料収集	60分 60分
12回	縫製④	予習：説明のあったところまで進める 復習：遅滞箇所を行う	60分 60分
13回	縫製⑤ 1/5大製図提出	予習：説明のあったところまで進める 復習：遅滞箇所を行う	60分 60分
14回	縫製⑥ 仕上げ、提出 プレゼンテーション資料提出	予習：着装方法を考えておく 復習：縫製方法の確認、	60分 60分
15回	プレゼンテーション、グループワーク まとめ	予習：プレゼンテーション準備 復習：スカトリサーチ	60分 60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業最終日に評価を行う。作品の返却は担当教員より別途日時を指定する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、不合格とする。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験	0%	

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING II

電子教材

■参考文献 図解服飾用語事典、その他（必要に応じ manaba で紹介する）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー・研究室については、担当教員より第1回目の授業にて指示します。

■備考 進捗により、日程および内容を変更する場合もある。

予習・復習の時間は各自必要に応じ増減すること。

現代デザイン論

塚本 文雄

1 年 前期又は後期 選択 学芸員課程必修 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

デザインの時代と呼ばれる現代。技術の進歩と経済的な発展によって、誰でもが簡単にある程度のモノを作ることができるようになった現代。デザインが私たちにもたらすものは何か？そしてデザイナーの役割とは何か？

本授業では、デザインの源流とも言えるアーツアンドクラフツ運動から世界と日本のデザイン変遷を振り返り、現代デザインの様々な潮流を基礎知識として学ぶ。また、様々な分野の現役で活躍しているデザイナー、プロデューサーをゲストとして招き、授業担当者のデザイン関連のPR企画実務経験と併せ、学生との質疑応答を交えながら現代デザインの課題と未来の展望を考察する。

■到達目標（学修成果）

デザインを志す者にとって知っておきたいファッション領域以外のデザインの基礎知識を得ることで広い視野を持てるようにする。

現代デザインの潮流や課題を理解することでこれからのデザイナーの在り方を考え、意識を高められるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目で卒業要件単位となります。造形の授業と関連し、デザインとは何かを自ら問い、考えることで、自分自身の将来への指針に活かす契機となるでしょう。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	【イントロダクション 1】本講義の概要と目的を説明。デザインとは何か？	復習：授業目的、今後の課題スケジュールなど確認してください。	10 分
2 回	【イントロダクション 2】ゲスト「デザインジャーナリスト」デザインジャーナリストの仕事を通して得た、現代日本デザインの課題やデザイナーの可能性を語る	復習：2 回ゲスト講師講義の感想文を当日提出	60 分
3 回	【世界のデザイン史 1】1800 年代～1940 年代 までアーツアンドクラフツからバウハウスまで	復習：翌週授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること。	30 分
4 回	【世界のデザイン史 2】1950 年代から 1990 年代 まで戦後のデザインから 2000 年までのデザイン	復習：翌週授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること。	30 分
5 回	【日本のデザイン史 1】明治～1945 年まで殖産興業から戦時下のデザインまで	復習：翌週授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること。	30 分
6 回	【日本のデザイン史 2】戦後～1990 年代まで戦後のデザインからバブル期を経て 2000 年までのデザイン	復習：翌週授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること。	60 分
7 回	【現代デザインの潮流 1】2000 年以降のデザイン～デザインとビジネス。IT 進化により世の中が激変する中、デザイナーの価値とは？課題は何か	復習：9 回授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること	30 分
8 回	【デザインの今 1 インテリアデザイン】ゲスト「インテリアデザイナー」インテリアデザインのトレンドと課題、将来への展望を実務経験と併せて語る。	復習：8 回ゲスト講師講義の感想文を当日提出	60 分
9 回	【デザインの今 2 プレゼンテーション】自分の好きなデザイン、興味あるデザインを発表。今のデザインを考察する。	予習：9 回授業のための資料準備	60 分
10 回	【現代のデザイン潮流 2】デザイントレンドと世界のデザインミュージアムの活動と役割。キュレーターの仕事紹介映像視聴。	復習：11 回授業のディスカッションのための講義内容確認	30 分
11 回	【デザインの今 2 グループディスカッション】キュレーターの仕事紹介映像を観ての感想をグループディスカッション考察、プレゼンテーションする。	予習：11 回授業ディスカッションのための準備	30 分
12 回	【現代デザインの潮流 3】世界で活躍する日本人デザイナーの作品から、彼らのデザインの考え方を紐解く。	予習：13 回授業のワークショップ課題作成	60 分
13 回	【デザインの今 4 広告デザイン】ゲスト「広告ディレクター」広告デザインのトレンドと課題、将来への展望を実務経験と併せて語る。ワークショップ実施。	復習：ゲスト講師講義の感想文を当日提出	60 分
14 回	【デザインの未来 1】これからのデザインとは？デザインの可能性とデザイナーの在り方を考える。	復習：最終課題のためのレポート作成	30 分
15 回	【デザインの未来 2 現代デザイン論総括】授業内容全体を振り返りとまとめ。	復習：最終課題のためのレポート作成	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題：中課題：レポート：デザイン展覧会などの感想文（予定）・2 本。

小課題：ゲスト招聘授業時の感想文（予定）・3 本。

最終課題は授業総括期末レポート。課題は、いずれも「manaba」に期限内に提出後、中課題、最終課題は個別フィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 なし

■参考文献 必要に応じて授業で紹介する。

■オフィスアワー・研究室 教務課を通じて連絡してください。出講日：木曜日

■備考 ゲスト招聘の回は、日程変更、内容変更が生じる場合があるため、都度、授業時に周知する。

ファッション販売論

大極 勝 岩井 光枝

1 年 前期又は後期 選択 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

全国展開の婦人服小売業チェーンにおける実務経験を活かし、ファッション産業での販売業務の役割と重要性を理解してもらう。教科書と実務経験の融合から販売業務の基礎知識とテクニックを学ぶ。現場感を確認することで販売業務の奥深さと楽しさを感じ取ってもらう。販売業務全般を通して、社会人として人としていかにあるべきかを学ぶ。

■到達目標（学修成果）

ファッション販売能力検定 3 級以上の実力を身に付け、ファッションアドバイザー、コーディネーターとしてライフスタイル全般の提案ができる基本スキルを習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目で卒業要件単位となります。専門専攻にかかわらず選択することができます。実社会に出た時に新たな力となる考え方の基盤を作ることができ、4 年間の各講座の積極的理解のかなめとなります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	ファッション業界人にあるべき姿－問われる総合的な人間力 社会人、学生である前に人としてのあり方を考える	全 15 回のレジュメ・課題・問題集等を マナバにて配信	20 分
2 回	マーケティングについて学ぶ（174～197）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
3 回	ファッション販売知識を学ぶ（8～19）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
4 回	ファッション販売技術を学ぶ（20～45）（担当：岩井）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
5 回	商品知識 1（アイテム）を学ぶ（46～75）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
6 回	商品知識 2（インナー、雑貨）を学ぶ（76～93）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
7 回	商品知識 3（素材、ディテール）を学ぶ（94～117）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
8 回	商品知識 4（柄、色彩）を学ぶ（118～135）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
9 回	商品知識 5（サイズ、副資材）を学ぶ（136～151）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
10 回	売り場づくりを学ぶ（152～173）（担当：岩井）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
11 回	検定試験 3 級問題への取り組みと解答解説	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
12 回	販売スタッフの業務（198～213）（担当：岩井）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
13 回	販売現場におけるファッション産業の未来について学ぶ①	復習：マナバにてレジュメ確認	20 分
14 回	販売現場におけるファッション産業の未来について学ぶ②	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分
15 回	「まとめ」として小テスト実施 授業内容の総合的な理解度を確認する	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各回講義内で課題設定し、次の講義で発表。期末レポートによる試験と後日掲示による総評にてフィードバック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

ファッション販売 3 （日本ファッション教育振興協会編）

■参考文献

ファッション販売 3 ーファッション販売能力検定試験 3 級公式問題集ー（日本ファッション教育振興協会編）

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・マネジメントコース〔3402 教室〕または講師控室にて授業前 30 分前待機。

■備考

教科書は必ず準備し毎回持参してください。全 15 回ともマナバにて授業用レジュメ・課題等を配信。

流行論

下村 友紀子

1年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

流行とはなにか。考える上で基本となる「流行の心理」「製品のライフサイクル（商品寿命）」の概念を十分に理解する。その上で、導入、普及、衰退していく「流行のメカニズム」を事例に基づきながら把握する。

ファッションビジネスの事例を取り入れながら講義を行うが、ファッション以外の流行商品やトレンド、デジタルネイティブなZ世代の若者による社会現象にも触れることにより、現代社会における流行を検証していく。特に、昨今のデジタル社会のコミュニケーションであるSNS（ソーシャルネットワークサービス）による情報の重要性、そこから購買行動にどのような影響を及ぼすかに注目していく。

■到達目標（学修成果）

ファッションにとどまらず、世の中の流行商品や現象を自分なりに分析する力を養うことができる。また、デジタルマーケティングの基礎を学ぶことで、アパレル業界で必要とされている実務の理解ができるようになり、将来の商品企画や販売の仕事に役立てることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

1年生の履修を中心とした、服飾学部的全学生の専門選択科目の卒業要件科目となります。ファッションビジネスを理解する基礎力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	「流行」とは ー流行商品ランキング、医学的流行から流行曲線を考えるー	予習：シラバスを読む	30分
2回	流行研究と流行の心理 ー同調性と微差化についてー	復習：課題レポートを作成する	60分
3回	製品のライフサイクルと消費者採用プロセス ー早期採用者理論ー	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
4回	デジタルマーケティングのコミュニケーション① ー口コミと購買行動ー	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
5回	デジタルマーケティングのコミュニケーション② ーUGCとステルスマーケティングー	復習：課題レポートを作成する	60分
6回	ファッションとSNS ① ーSNSと購買の関係ー	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
7回	ファッションとSNS ② ーインフルエンサーとフォロワーが作る流行ー	復習：課題レポートを作成する	60分
8回	デジタルマーケティングのコミュニケーション③ ーWEB広告・PR・プロモーションー	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
9回	デジタルマーケティングのコミュニケーション④ プレス、スタイリスト、エディターの仕事	復習：課題レポートを作成する	60分
10回	ファッションカラーとトレンド予測のしくみ	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
11回	ファッションコレクションについて	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
12回	ラグジュアリーブランドの戦略 ー新進デザイナーの起用によるインフルエンサーの獲得ー	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
13回	ラグジュアリーブランド・デザイナーのドキュメンタリー 映画鑑賞（ブランド戦略と早期採用者理論の重要性）	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
14回	まとめ 最終提出	予習：まとめ課題レポートを作成する	60分
15回	まとめ（課題）のフィードバックを行う	復習：授業全体を振り返り、整理する	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出した課題は、基本的に次回授業時やmanaba上でフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

基本的には教員が作成した資料を配布するため、各自管理を行うことが必須である。

■参考文献

「メディアと流行の心理」中島純一 金子書房

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの日は授業初回に提示する。ファッションビジネス・流通イノベーション実習室 第3校舎3207教室

■備考 授業内容は進行状況等により変更することもあります。

色彩演習

桐山 征士

1 年 前期 選択 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッション色彩能力検定3級(一部2級)の実技問題に対応した課題と、過去問から分析した練習問題で検定対策を行う。
色彩を扱う上で、不可欠な経験と色を見抜く力を育て、色価(バールール)を整える能力を身につける。また、検定対策として、検定関係者である担当教員が全ての検定過去問題を分析し、最近の傾向を読み取った練習問題を行うことで、3級の実技問題(一部の知識問題を含む)の対策を行う。実技問題は2点(知識問題は1点)なので、重要な対策となる。

課題では選ぶ力、練習問題では見抜く力を養う。
アートやデザインの大学は、入試で色彩能力を問う。そのための対策をして試験に臨む。本大学では入試において色彩を課していないので、この授業を持ってその経験値の差を補う。

モノは「カタチと色」で成り立っている。全ての造形において「色」は重要な要素であり、造形に関わる全ての課題に必要な不可欠である。美術家兼デザイナーとして活動しながら、ファッション色彩能力検定にも携わる教員が担当し、今後「色」を扱う際の共通言語を学び、「色」が持つ特性を客観的な観点から理解する。

色に関して十分な実技経験がある者、もしくは理論的な知識がなくても美しい配色ができる者であれば色彩学を学ぶ必要はない(後者について、私は会ったことがない)が、そうでない場合は色彩の知識を学ぶ必要がある。この授業では経験と知識を身に付けるために10課題全てにおいて双方向型授業を行い、個別の質問に対応しながら微妙なニュアンスも感じ取れるように学習する。

ファッション能力色彩検定の目的は暗記では無い。色彩検定関係者である担当教員のもと実習を行い、その後各自教本を読み理解を深め、アクトブラーニングによって実力を付ける。

留学生には翻訳ソフトを使って母国語に変換して読めるように、予め課題の解説をmanabaで文字データで伝えておく。

■到達目標(学修成果)

色の3原則である「色相」「明度」「彩度」が理解出来るようになる。造形に必要な「コンセプトに見合った配色」を客観的な視点で習得することができる。「ファッション能力色彩検定3級」レベルの実技力を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッション色彩能力検定3級(一部2級)実技問題(一部の知識問題を含む)の対策になる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	ガイダンス・ベーシックカラー番号書き	復習:教科書の概要を読んでおく	30分
2回	課題1「明度を合わせる」有彩色の明度を読み取れるようになるためのトレーニング。	復習:課題完成。「色の三属性・明度」熟読。	30分
3回	課題1「明度を合わせる」 課題2「色相差」色の三原色・混色法解説	復習:課題完成。「色の三属性・明度/色相」熟読。	30分
4回	課題2「色相差による配色」	復習:課題完成。「色の三属性・色相」熟読。	30分
5回	課題3「明度と彩度」明度と彩度の区別を明快にし、特に彩度を読み取るトレーニングを行う。	復習:課題完成。「色の三属性・彩度」熟読。	30分
6回	課題4「トーンによる配色」明度と彩度を併せ持つ概念であるトーンを理解する。	復習:課題完成。「ヒュー&トーン」熟読。	30分
7回	課題5「色相とトーンによる配色」色相とトーンをコントロール。	復習:課題完成。「ヒュー&トーン」熟読。	30分
8回	課題6「無彩色と有彩色による配色」マンセル記号を見ずに目で明度と彩度を見分ける。	復習:課題完成。「明度」「彩度」熟読。	30分
9回	課題6「無彩色と有彩色による配色」マンセル記号を見ずに目で明度と彩度を見分ける。	復習:課題完成。「明度」「彩度」熟読。	30分
10回	課題7「色彩構成のテクニック」配色のテクニックを学ぶ。	復習:熟読。「配色の基礎」熟読	30分
11回	課題8「色の感情効果」色彩の心理的效果を理解する。	復習:課題完成。「色彩と心理」熟読。	30分
12回	課題9「流行色情報に登場する配色方法」基本的な配色方法を学ぶ。(2級対策)	復習:課題完成。課題文熟読。	30分
13回	課題9「流行色情報に登場する配色方法」基本的な配色方法を学ぶ。(2級対策)	復習:課題完成。課題文熟読	30分
14回	課題10「ファッションイメージとカラーコーディネーション」テイストに合わせた配色を習得する。	復習:課題完成。課題文熟読	30分
15回	課題10「ファッションイメージとカラーコーディネーション」テイストに合わせた配色を習得する。	復習:学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

常時、質問等を受け付ける。manabaでの課題を提出後、正誤確認を行う。間違いがある場合は指示をして修正したものを再提出。正解するまで繰り返す。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書:ファッション色彩[Ⅰ] 日本ファッション教育振興協会

■参考文献:なし

■オフィスアワー・研究室:オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室:4006 工芸室

■備考:初日に課題に用いるケント紙代として100円を集める。初日の持ち物は「ファッション色彩[Ⅰ]」「ベーシックカラー」と筆記用具。

学修基礎（初年次教育）

北折・水野・山田・手島・水上・桐山・千代崎・鈴木・伊藤・五月女・北澤

1年 前期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

大学新入生を対象とした「初年次教育科目」です。杉野服飾大学での学びに適応し、長期的・短期的将来像を見据えた学びの目的や意識を明確に持つことができるよう、様々な角度から講義を展開します。さらに、大学における、基礎的なアカデミックスキル（受講技術、学問的・知的活動の技術）、ソーシャルスキル（社会人としての健全な生活習慣を身に付ける技術）、スチューデントスキル（大学生活を円滑に進める技術）を修得すること、学生の学修を助けます。

■到達目標（学修成果）

①各授業において、それぞれの領域の知識を獲得します。 ②短期的及び長期的な目標を持ちます。

③杉野の学びについて理解します。

④学習態度・姿勢を身につけます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の「初年次教育」に配置されている卒業要件科目です。ディプロマポリシー（学位授与方針）では、教養科目 34 単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養うとしています。本科目は、大学入学直後から前期にかけて授業方針に沿って学生の学修基礎を培います。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	水野 オリエンテーション 自主学習に役立つ教育リソースの活用について	予習 「学修基礎」のシラバスを読む。 復習 実際に視聴してみる	30分 30分
2回	北折 建学の精神と履修系統図—学びの目的・意識（なぜこの大学に入ったのか、どこに向かうのか）を確認する	予習 キャンパスダイアリーで建学の精神と3つのポリシーを読んでおく。 復習 希望するコースや専攻、履修科目を再度確認する	30分 30分
3回	山田 有意義な学生生活（1）食生活と健康 元気に1日を過ごすためにはどんな食事をとれば良いかグループディスカッションを通して考える。	予習 自分の普段の食生活について振り返る 復習 授業で考えた食事内容を実践してみる	30分 30分～
4回	手島 有意義な学生生活（2）心の健康と学生生活 グループディスカッションを通して、「精神的健康」「ストレス」などについて理解を深める	予習 自分の身の回りのストレスは何かがあるか考える。 復習 授業内で紹介する心理学関連の動画資料（TED Talks）を視聴し、自己を振り返る。	30分 30分
5回	水上 有意義な学生生活（3）基礎体力と生活リズム 「健康」「運動」をキーワードに、時間の使い方をグループ討議し、各自の理想の1日を作成する。「北海道科学大学講座編」を使用	予習 「北海道科学大学講座編活き活きとした身体作り」を視聴する。 復習 作成した計画と「実技編」を視聴しストレッチのすることから実践してみる。	30分～ 30分～
6回	桐山 創作の目的意識—デザインすること—	予習 デザインとアートの違いについて考察する 復習 講義内容を踏まえて、アートとデザインの違いやデザインとは何かを改めて考える。	30分 30分
7回	千代崎 創作倫理（研究者倫理）—著作権と学修— 知的財産権の考え方・記録の重要性について（ポートフォリオとエスキース）	予習 著作権に関する記事に目を通しておく。 復習 自身の研究テーマと著作権を関連付け考察する。	30分 30分
8回	五月女 情報リテラシー —情報の真偽と情報倫理（データとプライバシー）—	予習 Google で検索をできるようにする 復習 「フェイクニュース」や「個人情報保護」の観点から、データをどのように取り扱うかを考える	30分～ 30分～
9回	鈴木 一冊の本に出会う —自分にとっての大切なフレーズ—	予習 図書館 HP から図書検索機能を使ってみる。 復習 自分にとっての1冊の本に出会うために、図書館や書店に足を運んでみよう。	30分
10回	伊藤 博物館・美術館を利用しよう 博物館・美術館の活動について知る 博物館・美術館が提供している動画等の教育・研究リソースを紹介し、活用を促す。	予習 展覧会情報等を検索してみる 復習 興味を持った博物館・美術館のweb ページを閲覧し、レポート等に活用する。	30分 30分
11回	卒業生の講演	復習 講演者が大学1年生だったころ、どのような長期的・短期的将来像を描いていたのか考えてみる	30分
12回	伊藤 社会人としての言語活動 新聞を読む習慣を身につける 比較して読むことによって、情報を活用するための基本的な注意点を理解する	予習 家で購読している新聞を調べる。 復習 授業内容を振り返りつつ、新聞を詳細に読んでみる。	30分 30分
13回	北澤 英語と日本語を比較してみよう —ことばの背後にある文化を探る—	復習 授業内容を振り返り、身近にあることばの使用について考える。授業内で紹介する TED Talks などの動画を視聴する。	30分～
14回	水野 服装におけるマナーについて 服装による表現方法の違いをグループで考える	予習 日頃、服選びをどう考えているかあげてみる 復習 改めて服選びを考え、実践してみる	30分 30分～
15回	水野 ワークシート、まとめ	復習 フィードバックされた内容を確認する	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

それぞれの講義のレポート等は、担当教員が点検・返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	各回の授業のレポート、ワークシート他
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 各教員作成のハンドアウト等を使用します。 ■参考文献 必要に応じて授業時に指示します。

■オフィスアワー・研究室 担当教員のオフィスアワーと各研究室については、担当者それぞれの他のシラバスで確認してください。

■備考 なし

文章表現

伊藤 高広

1年 前期 必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

自分の判断や意見、発想などを相手に伝えるためには、わかりやすい文章を書かなければなりません。ワークシートや文章作成などで、そのための練習をします。2年次以降の、レポート・論文執筆の基礎的訓練でもあります。また、さまざまな文章を読み、そこから正しい情報を読み取る練習もします。

■到達目標（学修成果）

文章表現の基礎を身につけ、自分の考えを相手にうまく伝えることができるようになる。様々なメディアの情報を読み解き、判断できる能力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、必修です。初年次教育課程教養科目です。社会人としての資質・能力を養います。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス～作文の基礎 文と文章 課題作成にあたっては、毎時間、添削・口頭指導等のアクティブラーニングが基本となる。	予習：シラバスに目を通しておく。	30分
2回	作文の基礎 文章の基本的なルール① 説明文を書く。	復習：課題として取り上げた事柄について情報を収集し、知識を深める。	60分
3回	作文の基礎 文章の基本的なルール②	復習：添削された原稿を見直す。	30分
4回	作文の基礎 文章の構成① 意見文を書く。	復習：課題として取り上げた事柄について情報を収集し、知識を深める。	60分
5回	作文の基礎 文章の構成②	復習：添削された原稿を見直す。	30分
6回	自分の考えを表現する 根拠を明確にする① 新聞の記事を参考に、自分の意見を書く。	復習：課題として取り上げた事柄について書籍やwebなどを利用し情報を収集する。	60分
7回	自分の考えを表現する 根拠を明確にする②	復習：添削された原稿を見直す。	30分
8回	自分の考えを表現する 考える道筋を意識する① 比較する文章を書く。感性と理性との関係を意識する。	復習：課題として取り上げた事柄について書籍やwebなどを利用して知識を深める。	60分
9回	自分の考えを表現する 考える道筋を意識する②	復習：添削された原稿を見直す。	30分
10回	情報を読み解く 文章やデータを正確に読み取る① 複数の資料を参考に、情報を正確に把握する。	復習：課題として取り上げた事柄について、情報を整理してまとめる。	60分
11回	情報を読み解く 文章やデータを正確に読み取る②	復習：足りなかった部分を調べる。	30分
12回	情報を読み解く 複数の視点から情報を読み解く① 意見を出し合って複眼的な読み取りができるようにする	復習：課題として取り上げた事柄について、情報を整理してまとめる。	60分
13回	情報を読み解く 複数の視点から情報を読み解く②	復習：足りなかった部分を調べる。	30分
14回	2年次以降に向けて① レポートや小論文を書くための約束事を確認する	復習：個々の課題を発見する。	60分
15回	2年次以降に向けて②	復習：足りなかった部分を調べる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出された課題は次時添削して返却。清書して提出、次時添削・評価して返却。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

毎時、新聞記事等を資料として配布する

■参考文献

授業中に適宜紹介する

■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する

文章表現研究室（研究棟1階）

■備考

原稿用紙・ノート・ファイルを用意しておくこと

情報演習Ⅰ（学修ポートフォリオを含む）

水越 綾

1年 前期 必修 （2単位 講義・演習）

■授業の方針・概要

文書作成・表計算・プレゼン資料作成アプリケーションにもいくつかの種類があり、デバイスによっても異なります。これまで皆さんが学んできたアプリケーションもそれぞれ異なっていることが想定される事から、本授業ではPCを用いたMicrosoft・WORD・EXCEL・POWERPOINTの利用を主軸とし、それら基礎スキルの定着を図ります。また、授業内で利用するこれらと互換性のあるアプリケーションについても触れ、その差異を理解した上で複数のデバイスやアプリケーション上で必要な情報を編集できる基礎力を養います。

Society5.0実現に向けて社会は凄まじいスピードで変化が起きています。とりわけテクノロジー系の情報の更新は著しく、自ら意識して情報をアップデートする習慣を身に付ける必要があります。今、社会で話題になっているニュースに触れる機会を持ち、それらをテーマとしてチュートリアル型PBLに取り組んで頂きます。

また、デジタル社会で生活する社会人として、私たちはどのようにデジタルツールと関わってゆけば良いのか、その為に求められる資質・能力とは何か、必要な振る舞いについて、授業を通してデジタルシティズンシップを涵養してゆきます。

■到達目標（学修成果）

1. PCの基本的操作に慣れ、基本的な用語を理解する。
(manabaやactivemilが使えるようになる。Officeソフトの基礎的スキルを身に付け、目的に応じて、数値データや文章等を見やすくまとめる努力・工夫ができる。)
2. デバイスを問わず、互換性のあるアプリケーション間のデータ移行・データ編集を行うことができる。
3. デジタル・ITに関するニュースに関心を持ち、日常的に情報をキャッチアップすることができるようにする。また、それを課題等に反映することができる。
4. 課題制作に取り組み上で、「創造する力」「挑戦する力」「自立する能力」を向上させるための努力ができる。
5. デジタルシティズンシップ概念を理解し、社会人としてデジタルとの関わり方を正しく理解し日常生活に活かすことができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

必修科目であり、卒業要件科目です。基本的なITスキル・デジタルシティズンシップ概念を身に付け、社会人としての資質・能力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	初回ガイダンス、コンピューター室使用のルール、manaba、active mail、Windows 基本操作の確認	予習：PC操作が苦手と思われる方はあらかじめ操作に慣れておくように（自習室PCを活用して頂きたい。） 復習：manaba・activemilを自宅、或いは自身のモバイルからログインし操作してみる。	90分
2回	・エッセイを作成する① 到達目標とループリックの確認 Wordの基本操作（拡張子、文書レイアウト、段組設定、段落罫線、ページ区切り、文書スタイル、オブジェクトの挿入）	予習：指定したエッセイのテーマに基づいた文章を考え、書きはじめておく。 (課題に関する指定は授業内及びmanabaにて指示をするのでmanabaを確認しておくように) 課題：時間内に終わらなかった課題に取り組んでおく。	90分
3回	・エッセイを作成する② ・Adobeアカウント作成、Adobe Fireflyログイン。 ・生成AIについて。生成AIに絡む諸問題と著作権問題。プロンプト入力によるイメージ生成。 ・生成AIを使用してエッセイ挿絵を作成する	予習：Adobe Firefly ユーザーガイドラインに目を通しておく（URLはmanabaから指示する） 課題：時間内に終わらなかった課題に取り組んでおく。	90分
4回	・エッセイを作成する③ 印刷をする、保存形式について（PDF形式） 到達目標とループリックを確認した上で、Manabaに提出。自己採点と他者評価（クラスメイトによる相互評価） ・日経パソコンEduの使い方	課題：日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
5回	・デジタルシティズンシップとは ・情報活用において注意しておきたい諸問題（著作権・個人情報等）講義とグループ討議 ・グループワーク（PowerPoint）① 課題説明・到達目標と制作ループリックの確認 PowerPoint 基礎	予習：『デジタルシティズンシップ』について各自調べ、なぜ私たちに必要かを考えておく。 課題：授業内の課題について進めておく。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
6回	・グループワーク（PowerPoint）② 他者に伝わる資料とは。 スライド結合／引用情報の扱い	課題・予習：授業内の課題について進めておく。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
7回	・グループワーク（PowerPoint）③ 発表ループリックの確認 発表準備・スクリーン表示用と印刷用、PDF変換／ノート	課題・予習：授業内の課題について進めておく。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
8回	・グループワーク（PowerPoint）④ グループ毎プレゼンテーション 自己採点と相互評価、振り返り（個別・グループ）、講評	予習：発表用ループリックを確認し、発表の準備・練習をしておく。 課題：授業内課題について振り返り／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
9回	・Excel基礎①（基本、データ入力、表作成・関数・グラフ作成、データベース作成）	予習：日経 Edu の指定コンテンツに目を通しておく／統計局・自治体が公開している情報にアクセスし、どのような情報があるのかを調べておく。 統計局が公開している統計に関する動画講座（gacco）を見ておく。 課題：授業内課題を進めておく。／日経パソコン Edu の指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
10回	・Excel基礎②（基本、データ入力、表作成・関数・グラフ作成、データベース作成） ・私たちの身の回りにある統計情報（統計局・自治体）にアクセスしてみる。	予習：日経 Edu の指定コンテンツに目を通しておく／統計局・自治体が公開している情報にアクセスし、どのような情報があるのかを調べておく。 統計局が公開している統計に関する動画講座（gacco）を見ておく。 課題：授業内課題を進めておく。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
11回	・まとめ課題①（情報デザイン。伝わるデザイン） 公開されている統計情報を分かりやすく他者に伝える。 課題の到達目標の確認・制作ループリックの確認 （表作成・グラフ作成（Excel）・資料作成（PowerPoint）・レポート作成（Word））	予習：日経 Edu の指定コンテンツに目を通しておく／統計局・自治体が公開している情報にアクセスし、どのような情報があるのかを調べておく。 統計局が公開している統計に関する動画講座（gacco）を見ておく。 課題：授業内課題を進めておく。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
12回	・まとめ課題②（情報デザイン。伝わるデザイン）	課題：授業内課題を進めておく。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
13回	・まとめ課題③（情報デザイン。伝わるデザイン）	課題：授業内課題を進めておく。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
14回	・まとめ課題④（情報デザイン。伝わるデザイン） 課題の到達目標の確認・発表ループリックの確認 発表に向けた準備と資料作成	課題：授業内課題を進めておく。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
15回	・まとめ課題⑤（情報デザイン。伝わるデザイン） ポスターセッション形式で発表・議論 自己採点と相互評価、振り返り（個別・グループ）、講評	予習：発表の準備・練習をしておく。 課題：振り返り（最終課題振り返り、情報演習Ⅰを通しての振り返り）	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題の講評は授業内に実施。練習課題においてはmanabaを通じてフィードバックを行ないます。また課題によっては学生間でフィードバックを実施します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manabaでの振り返り等総合して成績評価致します。 ループリックによって評価ポイントを明確にした上で制作・発表をおこないます。評価は教員による評価に加え、自己評価・履修者間による相互評価をおこないます。 それ以外の評価基準については、授業内に指示します。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■テキストとして利用するサービス

情報通信白書（総務省）、IPA DX白書（独立行政法人情報処理推進機構）。ほかにも省庁・自治体等のWebサイト、gacco(<https://gacco.org>)は無料のオンライン動画学習サービスですが、統計やデータサイエンス等、本情報に関連した講座が数多くあり統計局による講座もあげられています。日経パソコン Edu サイト内にもIT関連のトレンドや資格・就職活動等に役立つ情報が多く掲載されていますので、授業で利用する項目以外にも積極的に目を通し、知識を広げて下さい。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第一回目の授業でご案内致します。・研究室 研究棟1階6012B
課題作成PCにログインする為には、システム課より発行されたID（個人アカウント）とパスワードが必要となるので授業時に忘れないで下さい。
授業内容は進行具合により、前後する可能性がある。その場合は事前にアナウンスします。サポートを行なっているので、積極的に利用して下さい。

情報演習Ⅱ（学修ポートフォリオを含む）

水越 綾

1 年 後期 必修

（ 2 単位 講義・演習 ）

■授業の方針・概要

Society5.0 実現に向けて社会は凄まじいスピードで変化が起きています。とりわけテクノロジー系の情報の更新は著しく、自ら意識して情報をアップデートする習慣を身に付ける必要があります。本授業では、Adobe Photoshop, Illustrator 等の基礎的スキルを身につけることを主軸にしつつ、常に機能がアップデートされてゆくアプリケーションを継続的かつ効果的に活用してゆく為に、自ら必要な情報やスキルを収集・修得する姿勢、能動的に挑戦、創造する力を育む授業です。個別課題に取り組んでもらうだけでなく、発表を通して他者の作品から様々な視点や感性に触れ、そこからさらに自分自身の作品と客観的に向き合い、それを次に繋げるといった自らスキル向上する為の力を養うための練習をおこないます。

また、デジタル社会で生活する社会人として、私たちはどのようにデジタルツールと関わってゆけば良いのか、その為に求められる資質・能力とは何か、必要な振る舞いについて、授業を通してデジタルシティズンシップを涵養してゆきます。

■到達目標（学修成果）

1. PC 基礎、Adobe Photoshop, Illustrator, Firefly 等の基礎を理解し、それぞれの機能や用途の違いを理解し、目的に応じた使い分けやアプリケーションを連携して作業が行える。
2. 著作物の扱いについて理解し、適切に扱うことができる。
3. デジタル・IT に関するニュースに関心を持ち、日常的に情報をキャッチアップすることができるようになる。また、それを課題等に反映することができる。
4. 課題制作に取り組む上で、「創造する力」「挑戦する力」「自立する能力」を向上させるための努力ができる。
5. デジタルシティズンシップ概念を理解し、社会人としてデジタルとの関わり方を正しく理解し日常生活に活かすことができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

必修科目であり、卒業要件科目である。基本的な IT スキル・デジタルシティズンシップ概念を身に付け、社会人としての資質・能力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	必要時間
		具体的内容（予習・復習等）	
1 回	・初回ガイダンス ・PHOTOSHOP と Illustrator ログイン確認 ・ファイル形式・サイズ・解像度・互換性について ・Photoshop 基礎①（新規作成、レイヤー、ツール、パネル等） ・配布資料に操作ノートを記録する。	課題：授業内で終わらなかった課題を進めておく（自習室等で作業可能）／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。 復習：練習課題・授業内で分からない事があれば、動画教材を確認して復習しておく。	90 分
2 回	・Photoshop 基礎②（色調補正、変形、保存形式、フィルタ、着色等） 課題提出後、manaba に振り返りと内省 配布資料に操作ノートを記録する。	予習：AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。 復習・課題：練習課題・授業内で終わっていない場合、動画教材を確認して復習しておく。提出課題について manaba でコメントをするので、修正の有無を確認し、必要があれば修正後再提出を行なう。	90 分
3 回	PHOTOSHOP 基礎③（ペンツール、プロパティ、ヒストリー、レタッチ等） 配布資料に操作ノートを記録する。	予習：AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。 復習・課題：練習課題・授業内で終わっていない場合、動画教材を確認して復習しておく。提出課題について manaba でコメントをするので、修正の有無を確認し、必要があれば修正後再提出を行なう。	90 分
4 回	・PHOTOSHOP・firefly 練習課題①好きなデザインを模写して表現手法を学ぶ これまでおこなった基礎に加えCreativeCloud内のチュートリアル、生成 AI を用いてイメージ画像を作成する。 ・制作に向けて権利問題の確認 ・課題の到達目標と制作ルーブリックの提示 ・配布資料に操作ノートを記録する。	予習：課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモをしておく。 課題：日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90 分
5 回	・PHOTOSHOP・firefly 練習課題②好きなデザインを模写して表現手法を学ぶ ・制作に向けて権利問題の確認 ・配布資料に操作ノートを記録する。	予習：課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモをしておく。 課題：日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90 分
6 回	・PHOTOSHOP・firefly 練習課題③好きなデザインを模写して表現手法を学ぶ ・配布資料に操作ノートを記録する。 ・発表ルーブリックの確認	予習：課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモをしておく。 課題：日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90 分
7 回	・PHOTOSHOP・firefly 練習課題④ 課題プレゼンテーション 自己採点と相互評価、振り返り（個別・グループ）、講評	予習：発表の準備・練習をしておく。 課題：課題の振り返り、まとめ	90 分
8 回	ILLUSTRATOR 基礎①（画面構成、新規作成、レイヤー、図形描画（塗り、線）、ペンツール練習等） 配布資料に操作ノートを記録する。	予習：AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく 課題：まとめ課題に向けたリサーチ。終わっていない課題があればそれを完成・提出する。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90 分
9 回	ILLUSTRATOR 基礎②（文字・画像のトレース・パス・プロパティ等） ・データのスキマニングについて、 配布資料に操作ノートを記録する。	予習：AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく 課題：まとめ課題に向けたリサーチ。終わっていない課題があればそれを完成・提出する。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90 分
10 回	ILLUSTRATOR 基礎③（文字（アウトライン）・画像のトレース・パス・プロパティ等） ・他のアプリケーションで使用する為の形式変換 配布資料に操作ノートを記録する。	予習：AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく 課題：まとめ課題に向けたリサーチ。終わっていない課題があればそれを完成・提出する。／日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90 分
11 回	ILLUSTRATOR を使った課題作成③	予習：課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモをしておく。 復習：練習課題で分からない箇所があれば、動画教材を確認して復習しておく。 課題：まとめ課題に向けてデザイン案を作成・提出。	90 分
12 回	まとめ課題（Photoshop・Illustrator・firefly 連携課題）① 自分のブランド企画 DM を作成する ・課題の到達目標と制作ルーブリックの提示	予習：課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモをしておく。 課題：課題を進めておく。	90 分
13 回	まとめ課題（Photoshop・Illustrator・firefly 連携課題）② 自分のブランド企画 DM を作成する	予習：課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモをしておく。 課題：課題を進めておく。	90 分
14 回	まとめ課題（Photoshop・Illustrator・firefly 連携課題）③ 自分のブランド企画 DM を作成する ・課題の到達目標の確認・発表ルーブリックの確認 ・発表に向けた準備と練習	予習：課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモをしておく。 課題・予習：発表に向けて必要資料の準備	90 分
15 回	まとめ課題（Photoshop・Illustrator・firefly 連携課題）④ 自分のブランド企画 DM を作成する 課題プレゼンテーション 自己採点と相互評価、振り返り、講評	復習：他者の作品を見た上で、自身の作品の振り返り。情報演習Ⅱを通しての振り返り。	90 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題の講評は授業内に実施。練習課題においては manaba を通じてフィードバックを行ないます。また課題によっては学生間でフィードバックを実施します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manaba での振り返り等総合して成績評価致します。 ルーブリックによって評価ポイントを明確にした上で制作・発表をおこないます。評価は教員による評価に加え、自己評価・履修者間による相互評価をおこないます。 それ以外の評価基準については、授業内に指示します。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 日経パソコン Edu（前期にも利用したオンラインサービス）

■参考文献 AdobeCreativeCloud には様々なクリエイティブ情報やティップスが掲載されているので頻繁にチェックしておくとう良いでしょう。他に必要があればその都度アナウンスします。

■オフィスアワー・研究室：オフィスアワーについては、第一回目の授業で指示する。研究室 研究棟 1 階 6012B

■備考教室 PC にログインする為には、システム課より発行された ID（個人アカウント）とパスワードが必要となるので授業時に忘れないで下さい。

授業内容は進具合により、前後する可能性がある。その場合は事前にアナウンスします。サポートを行なっているため、積極的に利用して下さい。

社会人基礎

赤木 久美子

1 年 前期 必修 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

授業担当者の企業での人材育成における実務経験を活かし、多様化の進む社会の中で、自身の強みを生かし活躍するために必要な力を身に着けるため、講義のみならず、ワークショップ、ディスカッションを多く取り入れた参加型の授業を行う。社会に必要な、他者を受け入れる力、自分の考えを伝える力、協力してイノベーションを起こす力を、言語的、数学的、論理的等、様々なアプローチにより講義し、さらに体現することで理解を深める。

■到達目標（学修成果）

職場や社会で多様な人々と関わっていくために必要な基礎的能力（コミュニケーション力、言語的能力、数学的思考力、論理的思考力）を理解し、修得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

必修科目の卒業認定科目です。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、「社会人基礎」は専門コースの必修であり、社会人基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	オリエンテーション・授業計画・社会の変化と必要とされる能力について	予習：シラバスを読み、全容を把握	20 分
2 回	コミュニケーション力Ⅰ（コミュニケーションタイプ） ワークショップ	復習：タイプ別特徴の確認	20 分
3 回	自己分析Ⅰ（価値観、興味、能力） ワークショップ・ディスカッション	復習：自己理解を深めるためのポイントを確認	20 分
4 回	自己分析Ⅱ（性格・人物特性） ワークショップ・ディスカッション	復習：自己理解を深めるためのポイントを確認	20 分
5 回	プレゼンテーションⅠ 伝わる文章構成法（PREP 法）	復習：授業で作成した文章を校正	20 分
6 回	印象管理（メラビアンの法則） ワークショップ	復習：授業で作成した文章を完成	20 分
7 回	プレゼンテーションⅡ 自己 PR(1 分間スピーチ)	復習：スピーチにおける課題の確認	20 分
8 回	コミュニケーション力Ⅱ（聴く力） ワークショップ	復習：コミュニケーションの課題を抽出し、生活の中で実践	20 分
9 回	コミュニケーション力Ⅲ（伝える力） ワークショップ	復習：コミュニケーションの課題を抽出し、生活の中で実践	20 分
10 回	ディスカッション チームビルディング	復習：チームの中での役割と自己表現のポイントを確認	20 分
11 回	ビジネス文書基礎（メールの書き方等）	復習：配付資料を振り返りメールを作成	20 分
12 回	手紙の書き方（暑中見舞い等）	復習：暑中見舞いを作成	20 分
13 回	目標達成の考え方Ⅰ（論理的思考力・数学的思考力） PDCA サイクル・SMART の法則	復習：配付資料を振り返り目標設定	20 分
14 回	目標達成の考え方Ⅱ ワークショップ	復習：全配布資料をすべて読み返し要点を確認	90 分
15 回	まとめ 課題のフィードバックを行う	復習：配布資料を振り返る	20 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15 回目に課題の解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 なし

■参考文献

授業の進行に合わせてプリントを配布する。

■オフィスアワー・研究室

連絡研究室：教務課（本校舎 1 階） 出講日：水曜日

■備考

進度により、日程及び内容を変更する場合があります。

心理学A

手島 陽介

1年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

心理学は、人の行動や心を科学的に研究する学問である。本講義では、基礎心理学の分野を中心に、心理学の全体がつかめるよう幅広い領域の理論について、概説する。「心」とは何か、「心理学」とはどのような学問か、グループ学習やディスカッションなど体験的な学習を通して、自ら学び、深めていくことを目指していく。また、服飾業界やビジネス場面において心理学知見がどのように活用されているかにも触れていく。

■到達目標（学修成果）

心理学の領域における概念を理解し知識を身につけるとともに、心理学的な見方ができるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の選択科目で卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心とは何か① ー心理学の定義と研究分野、意識と無意識の世界ー	予習:心理学という学問についてのイメージ、何を学びたいかを考えてくる。	15分
2回	心とは何か② ー心理学の活躍する場、心理学の歴史ー	復習:プリントを振り返り、日常の心理現象について考える	30分
3回	性格の心理 ー個人の性格について、遺伝と環境、性格テストー	復習:パーソナリティテストの結果を見て、自身の現在の状況について振り返る	30分
4回	発達の心理① ー乳幼児期～児童期までの発達段階と課題ーグループディスカッションを通して、発達過程を考える	予習:誕生してから現在までどのような発達経過を辿ってきたのかを考えてくる	15分
5回	発達の心理② ー青年期以降の発達段階と課題、アイデンティティについてーグループワークを行い自我を考える	復習:エリクソンの発達段階説をもとに現在の自分の課題について考える	30分
6回	動機づけ（やる気・モチベーション）のメカニズム ーストレス社会とどう向き合うか、内発的・外発的動機づけー	復習:自身の身の回りのストレスについて考えコーピング方法を検討する	30分
7回	コミュニケーション ー人間関係づくり、円滑なコミュニケーションを行うには、非言語的表現と自己表現ー	復習:非言語的コミュニケーションを意識し他者と会話をしてみる	30分
8回	学習はどのように成立するか、記憶の構造とゆがみについて	復習:本日の資料と教科書を振り返り、学習の心理を復習し理解する。	30分
9回	感情のメカニズム① ー人間の感情のメカニズムと分類、感情の表出についてー	予習:ここ最近に感じる感情について、出来事との関連を考えてくる	30分
10回	感情のメカニズム② ー欲求不満の心理、ストレスとストレスサの関係、自我防衛機制ー	復習:身の回りのストレスについて考え、コーピングを試してみる	30分
11回	集団の心理 ー集団の中での行動、社会的促進、リーダーシップについてー	復習:集団の心理的現象について振り返り日常の中での影響について考える	30分
12回	色彩の心理学と服飾 ー色が人のところに影響する要因、知覚（視覚）の機能について、色と服飾の関係ー	復習:インテリアや服など周りの色を観察し、心理的な影響について考察する	30分
13回	自分の強み、自分を知る-日常生活の無意識や認知から自分の強みを発見し表現する、自分とは何者かを考えるー	復習:授業プリントを振り返り、再度自分の強みについて振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Aのまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室
後期：水曜日（12：00-15：00）研究室 【連絡研究室】 心理学研究室 （研究棟1階 6015）

■備考 毎時間、プリントと教科書を準備してください

心理学B

手島 陽介

1年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本講義では、「心理学A」の授業内容をもとに、基礎心理学から応用心理学への展開を概説する。グループ学習やディスカッションを通して体験的に学び、心理学的な知見がどのように社会場面に活かされているのかを学習していく。心理学に親しみながら、知識を身につけるとともに、自己理解、他者理解を深めていく。

■到達目標（学修成果）

本講義を通し、論理的な思考力を養い、さまざまな見方や柔軟な行動ができるようになることを目指していく。また、学習したことを、日常生活や社会場面の中で具体的に活用できるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心理学とは何か① ー対人認知と印象形成、意識と無意識ー	予習:身近な心理的な現象について考えてくる	30分
2回	心理学とは何か② ー対人魅力と人間関係を探るー	復習:プリントを振り返り、対人認知の心理について理解する	30分
3回	影響の心理① ー他者からヒトはどのように影響を受けるかを考えるー交渉や説得について考えるグループワークを行う	復習:他者からの影響を受けた経験について振り返り要因を探る	30分
4回	影響の心理② ービジネス場面での影響の心理学を考える、購買の心理学ー	復習:実際のCMや広告などでメディアによる心理的影響について考える	30分
5回	知覚の心理① ーヒトは世界をどのように認識しているのか、ものが見える仕組み、音楽心理学、感覚器官の不思議、ー	復習:教科書とプリントより、錯視や幾何学図形を見て知覚を振り返る	30分
6回	知覚の心理② ー音と脳の関係、音楽で変わる行動心理、音楽療法の世界ー	予習:身の回りの音楽や店舗のBGM、環境音などについて調べてくる	15分
7回	思考の心理① ー「考える」とは何か、問題解決能力とはーグループワークを通して、思考のプロセスを考える	予習:問題を解決した、乗り越えた場面について考えてくる	60分
8回	思考の心理② ー創造性と創造的人格、創造性の段階ーグループワークを通して、創造性について考える	復習:創造的な発想のプロセスを復習し、課題に生かしてみる	30分
9回	犯罪の心理 ー犯罪の背景、サイコパスとは何か、法と心理学、犯罪者の心理、犯罪被害者の心理ー	復習:配布プリントを振り返り、犯罪心理学の定義やデータについて確認する	30分
10回	精神的健康とは ーこころが健康な状態を考えるー	予習:現在の自分の健康状態について考えてくる	30分
11回	心と身体の関係① ー認知・感情・行動・身体から心のバランスを考えるー	復習:心のモデルに、様々な状況を当てはめて考える	30分
12回	心と身体の関係② ー呼吸法とストレス、睡眠などについてー	復習:呼吸について、日常で体験をする	30分
13回	幸福感と人間関係 ー世界の文化と幸福感、主観的幸福感の要因ー	復習:世界の幸福感についてのデータを振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Bのまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室 後期：水曜日（12：00-15：00）研究室

【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

■備考 毎時間、プリントと教科書を準備してください

文学

伊藤 高広

1年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日本文学の中の「神話・伝説」を中心に読んでいきます。日本文化の多様性にふれ、日本人が自分たちと自分たちを取り巻く世界をどのように認識してきたのかを考えていきます。単にノートをとるのではなく、積極的にノートを作成していくことで、多様な情報を自分なりに整理する訓練とします。

■到達目標（学修成果）

文学を通して、広く日本の精神や文化にふれ、多様な視点を持つことができる。日本の文化・伝統を踏まえた表現をする場合の思想的基盤を身につけることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は教養科目（一般）の選択で卒業要件単位となります。幅広く深い教養と豊かな人間性を涵養するための科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	古代の神話 イザナギとイザナミ 『古事記』『日本書紀』から	シラバスを読んでおくこと（予習）	30分
2回	古代の神話 アマテラスとスサノオ 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
3回	古代の神話 オオクニヌシ① 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
4回	古代の神話 オオクニヌシ② 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
5回	古代の神話 天孫降臨 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
6回	古代の神話 神武東征 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
7回	古代の神話 ヤマトタケル 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。参考文献を読んで知識を深める。（復習）	30分
8回	鬼と神様① 説話・絵巻から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
9回	鬼と神様② 説話・絵巻から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
10回	鬼と神様③ 説話・絵巻から	資料を参考にノートを整理する。できれば原文にふれてみる。（復習）	30分
11回	武士とは何か① 『今昔物語集』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
12回	武士とは何か② 『平家物語』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
13回	武士とは何か③ 近世・近代の作品から	資料を参考にノートを整理する。参考文献を読んで考察を深める。（復習）	30分
14回	庶民たち 『今昔物語集』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
15回	古典と現代をつなぐ 『遠野物語』から	資料を参考にノートを整理する。（復習） できれば原文を読んでみる。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回ノートを集めます。課題等の評価を付して返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

■参考文献

授業内で適宜指示する

■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する 文章表現研究室（研究棟1階）

■備考

なし

日本美術史

小林 紗由里

1年 前期又は後期 選択 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日本近現代美術史の基本的な流れを紹介しつつ、絵画から写真まで、多様なジャンルの作品を取り上げます。この授業では明治時代から現代までを扱いますが、特に第二次世界大戦以降の美術動向に焦点を当てます。授業担当者の実務経験を活かし、東京国立近代美術館のコレクション展を訪れ、実際に作品を鑑賞する機会も設ける予定です。

■到達目標（学修成果）

日本近現代美術史の基本的な見方や時代背景を知り、作品について様々な角度から考察できるようになることを目指します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の選択科目です。学芸員免許取得のための学芸員課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業計画・参考文献の紹介など。	シラバスを読んでおいて下さい。	30分
2回	明治時代の美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
3回	大正・戦前期の美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
4回	戦争と美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
5回	実験工房と具体美術協会	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
6回	反芸術運動の展開	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
7回	もの派と概念芸術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
8回	写真表現の展開	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
9回	ジェンダーと美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
10回	サブカルチャーと美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
11回	アート・プロジェクト／芸術祭の発展	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
12回	震災と美術／記憶継承の多様化	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
13回	見学会事前講義：東京国立近代美術館のコレクション形成の歴史について紹介し、日本美術史の編まれ方を考える。	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
14回	見学会：東京国立近代美術館のコレクション展を訪れ、作品鑑賞をすることで知識を深める。	復習：鑑賞の際興味を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
15回	まとめ：これまでの授業で取り上げた内容を振り返りつつ、見学会での鑑賞経験をもとに意見交換を行う。	期末レポートの準備を各自進める。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

期末レポートの内容を添削・評価後、個別フィードバックを行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて資料を提示します。

■参考文献

山下裕二・高岸輝監修『日本美術史』（美術出版ライブラリー 歴史編）美術出版社、2014年
山本浩貴『現代美術史 欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

■オフィスアワー・研究室

連絡や質問等は教務課へお願いします。前期後期：水曜日 連絡先：本校舎1階教務課

■備考

授業の計画及び見学会の日程に関しては、進行速度や見学先の都合などにより変更の可能性もあります。

西洋美術史

佐倉 香

1 年 前期又は後期 選択 学芸員課程必修 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

西洋美術史の代表的な諸作例を時代に沿って概観し、言葉によらない—主に視覚的な—表現としての美術がもつ意義の歴史的な変遷を辿ります。毎回スライド (Power Point, 時にビデオや DVD) の画像を使用して、時代や様式の特徴、美術表現の見方について学んでゆきます。個々の作例の特質を、主題や時代・地域的背景、デザイン、材料・技法その他の側面から立体的に捉えて解説し、また毎回の内容に関して各自考察して互いに見解を述べ合いながら、美術表現がもっている様々な力を探求します。美術館見学で授業に関連する作品を実際に鑑賞し、考察を述べ合う機会も設ける予定です。

■到達目標 (学修成果)

①西洋の美術史や美術表現に関する基礎的な知識の習得。②美術表現の見方を自分なりに理解し、③その知識と理解に基づいて、関心を抱いた美術表現を独自に鑑賞・考察し、さらなる発展へと繋げることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目の卒業要件単位科目です。学芸員課程必修科目です。古今の美術表現や装飾の変遷とその時代背景等に関する造詣は、服飾に関しても本質的かつ重要な一要素として活かされるものです。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1 回	【ガイダンス】講義の概要と文献、また美術表現の見方について、古今の美術表現を取り上げつつ説明する。	シラバスをよく読む。自分なりの効果的な受講法を考える。	30 分
2 回	【先史時代～中世】西洋美術の基盤となる古代エジプト、ギリシア、ローマの美術。中世における宗教的美術作品。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
3 回	【ルネサンス、マニエリスム】15-16 世紀、文化史の大きな転換点となるイタリア・ルネサンス、および他の地域の美術。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
4 回	【バロック、ロココ】17-18 世紀の西欧各地における美術。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
5 回	【新古典主義、ロマン主義】18 世紀末-19 世紀前半における美術。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
6 回	【リアリズム】19 世紀中頃の、美醜を問わず現実の諸相を表現した写実的美術について。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
7 回	【見学会】美術館を訪れて作品を鑑賞し知識、関心を深めた上で考察をまとめて発表 (日程、方法は変更の可能性もある)。	美術館のサイト等で下調べを行う。考察をまとめた見学レポートを作成。	120 分
8 回	【印象主義】19 世紀後半の革命的絵画運動であった印象主義の美術。アカデミズムとの対立や人々の反応など。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
9 回	【後期印象主義、新印象主義】19 世紀末における、印象主義後の展開と影響。新しい個性の登場。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
10 回	【象徴主義、アール・ヌーヴォー】19 世紀末-20 世紀初頭にかけたの、精神性、装飾性などを特徴とする美術。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
11 回	【フォービズム、エコール・ド・パリ】20 世紀初頭の、自由な色彩に特徴をもつ美術を中心に。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
12 回	【キュビズム】20 世紀初頭における、形や構図に特徴をもつ美術を中心に。また、「抽象」について。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
13 回	【ドイツ表現主義、ダダ、シュールレアリスム、戦後の美術】多様な内面表出、二度の大戦を経て現在までの諸相。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30 分
14 回	【まとめ】西洋美術の歴史を各回のテーマとともに振り返り、知識を確認し、各自の考察をまとめる。	テキスト、配布物の総復習。任意のテーマについて追求し考察をまとめる。	120 分 以上
15 回	【フィードバック】知識と考察の総復習を行う。	批評により自らの理解を見直し、今後の応用について考える。	60 分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

15 回目に小レポートと小テストを返却予定。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

- ・以上は授業への十分な参加を前提とする。
- ・その他については授業時に指示する。

■教科書 千足伸行監修、『新西洋美術史』、西村書店。また、授業で随時参考プリントを配布します。

■参考文献 秋山總・田中正之監修、『西洋美術史』、美術出版社、2021。ほか、必要に応じて授業で紹介します。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日 (12 時 10 分～12 時 50 分) 第 3 校舎 1 階講師控室、または本校舎 1 階教務課

後期：水曜日 (14 時 15 分～14 時 35 分) 第 3 校舎 1 階講師控室、または本校舎 1 階教務課

■備考 毎回テキストを持参してください。

憲法 -法学入門-

東島 日出夫

1年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

この科目では、憲法に関する議論について学ぶことを主としつつも、総体として法学の入門として機能するような工夫を施しながら授業を進めていきます。近年耳目を集めるトピックであって憲法学と関連し得るもの（たとえば、ヘイトスピーチ、PTAに関する賛否、「ブラック企業」における就労など）はもとより、授業の計画に掲げるような様々な単元について、参考文献や具体的な判例・裁判例などを通じて理解を深め、関連する条文の内容及び解釈についての知識を身に付けつつ、法的な思考を養います。

■到達目標（学修成果）

「憲法」や「法学」などというと、堅苦しくてつまらないものというようなイメージがあるかも知れませんが、そうした不安を払拭すべく、身近なことから様々な事件などを素材に、分かりやすいだけでなく、将来社会人として生活していく上で役に立つような法的知識が得られるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で、教養選択科目の単位となります。そして、本授業科目は、とりわけ社会人としての資質・能力の向上に貢献します。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス、法解釈とは何か、憲法論の概説	予習：シラバスの熟読、憲法条文の印刷（電子政府 e-Gov サイトで無償入手可）	45分
2回	立憲主義、国民主権、平和主義	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
3回	人権論概説、基本的人権、人権享有主体	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
4回	基本的人権の限界	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
5回	生命・自由・幸福追求権、法の下での平等	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
6回	精神的自由権① -内心の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
7回	精神的自由権② -表現の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
8回	経済的自由権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
9回	人身の自由、国務請求権、参政権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
10回	社会権① -生存権、教育権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
11回	社会権② -勤労権、労働基本権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
12回	統治機構概説、権力分立	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
13回	裁判所、財政・地方自治	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
14回	総括・小試験	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	90分
15回	補論・小試験の解説	復習：試験問題の振り返り	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目にまとめと試験、15回目にその解説をする予定。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

成績評価においては、14回目（予定）に行う授業内試験結果を基本とするが、授業態度・姿勢、日常課題等を加味する。なお、出題する可能性のある箇所は、それぞれの授業回において、その旨をその都度言及するので、復習に力を入れていただきたい。試験には、自筆の講義ノートであれば、持ち込み可とする予定であるが、持ち込み不可など条件を厳しくする場合もある。

また遅刻者は、入室時に入室時間・学籍番号・氏名を指定用紙に記載すること。

■教科書 特に指定しない。板書をするのみならずレジュメ等の資料を配布する。

■参考文献

- ・芦部信喜『憲法（第8版）』（岩波書店、2023年）
- ・初宿正典、大沢秀介他『目で見る憲法（第5版）』（有斐閣、2018年）
- ・渋谷秀樹、赤坂正浩『憲法1人権（第8版）』（有斐閣、2022年）・『憲法2統治（第8版）』（有斐閣、2022年）

■オフィスアワー・研究室 連絡先：教務課（本校舎） 出講日：金曜日

■備考 なし

化学Aー皮膚科学と化粧品科学ー

野村 直

1年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな視点を含みながら講義します。

■到達目標（学修成果）

皮膚の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と日常の皮膚トラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目です。卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。自身のトラブル回想。	30分
2回	＜皮膚概論1＞役割と基本構造、理想の肌とは	予習：自身の皮膚と理想について考える。	30分
3回	＜皮膚概論2-1＞皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
4回	＜皮膚概論2-2＞皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
5回	＜皮膚概論3-1＞皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
6回	＜皮膚概論3-2＞皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
7回	＜皮膚概論4＞皮膚の疾患、過脂性と乾燥性、ニキビ・ドライ スキン	予習：自身の肌質やトラブル、原因と対処法を整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	＜皮膚概論5-1＞アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30分
11回	＜皮膚概論5-2＞アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30分
12回	＜皮膚概論6-1＞化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
13回	＜皮膚概論6-2＞化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
14回	＜皮膚概論6-3＞化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物は コメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を以てフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、課題レポートを2回提出するものとする。

■教科書

決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂9版安田利顕著 漆畑修改訂 南山堂、
「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R.ロビンズ著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株) ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室

金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

■備考 授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します。

化学Bー皮膚と毛髪と化粧品科学ー

野村 直

1年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな視点を含みながら講義します。加えて、外部専門家による最新の情報を基にした特別実習や講義も予定しています。

■到達目標（学修成果）

皮膚や毛髪の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外の因子の影響と皮膚や毛髪のトラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚や毛髪を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目であり、卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。	30分
2回	＜皮膚総論①＞皮膚と付属器官の役割と基本構造	予習：自身の皮膚について考えておく。	30分
3回	＜皮膚総論②＞皮膚トラブル	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
4回	＜毛髪概論①-1＞毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
5回	＜毛髪概論①-2＞毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
6回	＜毛髪概論②-1＞毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
7回	＜毛髪概論②-2＞毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料の学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	＜毛髪概論③-1＞ヘアカラー	予習：自身もしくは周りの人のヘアカラーした髪を観察しておく。	30分
11回	＜毛髪概論③-2＞パーマメントウェーブとくせ毛矯正	予習：自身もしくは周りのパーマやくせ毛矯正した髪を観察しておく。	30分
12回	＜毛髪概論③-3＞ヘアスタイリング	予習：自身のスタイリングの問題点を整理しておく。	30分
13回	「ヘアケア実用編」企業で毛髪研究に従事している専門家による特別講義を予定	予習：第1回と第12回授業の内容を整理しておく。	30分
14回	「香りの世界」	予習：自身の香りや生活の中の香りについて考えておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物はコメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を持ってフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	毎回の授業時に出席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、進捗確認の実施に併せて課題レポートを2回提出するものとする。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒト科学」改訂9版安田利顕著、漆畑修改訂 南山堂、
「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R. ロビンズ著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株)ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室

金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

■備考 授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します

体育 Aー身体と健康ー

水上 雅子

1 年 前期又は後期 選択 (1 単位 演習)

■授業の方針・概要

私達は自由からからだを動かすことができます。しかし、他者との同一の動きを行うことは不可能です。本学の体育は、身体活動の実践を通して、他者の身体活動を観察することによって自分の動きとの違いを理解し、自分自身の身体の動きを正確に知ることや、こころの有様を知ることです。そして、他者との違いを、いかに自分の中に取り入れ融合させるかを学習する“からだの教育”です。コーディネーショントレーニングとチームスポーツから学習します。自ら進んで以下の内容に取り組んで下さい。

■到達目標（学修成果）

この“からだの教育”から生涯において健康で豊かな生活を維持できるよう身体活動を生活化し、環境状況に適応していける能力が培うことができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の社会人としての豊かな人間性を涵養することをめざす教養科目の単位となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	授業のイメージづくり manaba 提出方法、到達目標、自己目標の明確化 仲間づくり P.A.（コミュニケーションプログラム）	予習 シラバスを読んでくる。	10 分
		復習 P.A. を体験して感じたことをレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
2 回	ニュースポーツ① ビーチボール、インディアカ、キンボール	予習 ニュースポーツの歴史やルールを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
3 回	バレーボールとソフトバレーボール① ボールを利用した動きづくり	復習 自分のからだの動きについてレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
4 回	バレーボールとソフトバレーボール② ボールの扱いと移動パス（横・縦）ゲーム	復習 移動パスをして感じたことをレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
5 回	バレーボールとソフトバレーボール③ 基本的技術の確認と応用技術	復習 技術練習で感じたことをまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
6 回	バレーボールとソフトバレーボール④ 正式なゲーム	予習 バレーボールのルールを調べる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
7 回	ニュースポーツ② アルティメット（フリスビー）	予習 アルティメットについて調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
8 回	バスケットボール① 基本的なボールの扱い	復習 基本的な動きを体験して感じたことをレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
9 回	バスケットボール② 基本的な動きと変形ルールでのゲーム	復習 チーム内のポジションと動きを確認する。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
10 回	バスケットボール③ 3×3	予習 3×3 のルールを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
11 回	バスケットボール④ 正式なゲーム	予習 バスケットボールのルールを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
12 回	ニュースポーツ③ タグラグビー	予習 タグラグビーについて調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
13 回	フットサル① 基本的なボールの扱い	復習 フットサルのゲームの動画などを観てイメージをつかむ。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
14 回	フットサル② 正式なゲーム	予習 フットサルのルールを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
15 回	チームスポーツのまとめ クラス内または合同のスポーツ大会	復習 前期に学んだことを到達目標と比較して振り返りレポートにまとめる。	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manaba を使用して授業内の個人の記録を毎回提出してもらいコメントを返す。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて資料を配布する。

■参考文献 随時紹介 経験する種目のルール集 「杉野服飾大学プログラム」（トレーニングプログラム）

■オフィスアワー・研究室 【時間】初回授業で伝える 【研究室】 体育研究室（研究棟 2 階 6024 ）

■備考

基本運動：毎回縄跳び（3 分間）腹筋・背筋一体力維持、ストレッチなど、身体活動の生活化を目標に取り入れる。コーディネーショントレーニングの導入 課題 1～7 を身につける。状況に応じて内容が変化することあり。

体育 B—身体と表現—

水上 雅子

1 年 後期 選択 (1 単位 演習)

■授業の方針・概要

スポーツも日常の生活も、全て身体活動です。しかし、現在の私たちは“からだ”に対して興味が無く、自分の“からだ”なのに借り物のようです。“からだ”を意識し、どう付き合うのかを学習することは大切です。なぜなら、自分の“からだ”こそ個性であり、身体活動こそ自己を表現する基本だと思うからです。一流のスポーツ選手のパフォーマンスに感動を覚えたことはありませんか。他人の何気ない振る舞いに美しさを感じたことはありませんか。自分の身体活動にも、自然な美しさや自分らしさが表現できたら楽しいと思いませんか。個人種目とチームの課題で技術向上を目指し学習します。アダプテッドスポーツ、ニュースポーツを経験し、スポーツでの共生を学習します。

■到達目標（学修成果）

授業では、スポーツを通して自己の表現を探し、自分らしさを発見することができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の社会人としての豊かな人間性を涵養することをめざす教養科目の単位となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	授業のイメージづくり manaba 提出方法、到達目標、自己目標の明確化 からだを動かす—姿勢と自分の動き 一人、またはペア、グループでからだを動かす	予習 シラバスを読んでくる。 復習 自分の体の動きをレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	10 分 30 分
2 回	バドミントン① 基本技術の習得 ドライブ・サーブ	復習 シャトルとボールの違いをレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
3 回	バドミントン② 基本技術の習得 ハイクリア ダブルスゲーム	予習 ダブルスのルールを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
4 回	バドミントン③ 基本技術の習得 ドロップ・ヘアピン シングルスゲーム	復習 シングルスとダブルスのルールの確認。基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
5 回	バドミントン④ 応用技術の習得① 正式なルールでのゲーム（ダブルス）	予習 基本技術の確認 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
6 回	バドミントン⑤ 応用技術の習得② 正式なルールでのゲーム（グループ）	復習 バドミントンについてレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
7 回	アダプテッドスポーツ① 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 アダプテッドスポーツを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
8 回	『動きの表現—写真』 グループで動きの感じられる作品づくり（課題）	予習 作品の構想を考えてくる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
9 回	卓球① 基本技術の取得①シングル練習	予習 シングルのルールを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
10 回	卓球② 基本技術の習得②ダブルス練習	予習 ダブルスのルールを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
11 回	卓球③ 応用技術の習得①正式なルールでのゲーム（チーム戦）	復習 ルールと動きの確認をし、レポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
12 回	卓球④ 応用技術の習得②正式なルールでのゲーム（チーム戦）	復習 卓球についてレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
13 回	アダプテッドスポーツ② 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 アダプテッドスポーツを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
14 回	アダプテッドスポーツ③ 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 アダプテッドスポーツを調べる。 復習 基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
15 回	正式ルールでゲームを行う。 各クラスで種目を選択し、実践する。	復習 後期に学んだことを到達目標と比較して振り返りレポートにまとめる。	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manaba を使用し、授業内の個人の記録や課題を提出してもらい、コメント・評価を返す。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて資料を配布する。

■参考文献 随時紹介 経験する種目のルール集 『はたらく細胞』（清水茜 講談社）

■オフィスアワー・研究室 初回授業で伝える 【研究室】 体育研究室（研究棟 2 階 6024 ）

■備考 状況に応じて内容が変化することあり。

基本運動：毎回縄跳び（ダブルタッチなど）・腹筋・背筋—体力維持、ストレッチなど、身体活動の生活化

日本文化・日本事情Ⅰ

伊藤 高広

1年 前期 選択 留学生対象 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業です。
日本人とコミュニケーションをとるために必要な、日本の生活・習慣を紹介していきます。
教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解きます。
日本語検定対策の一助とします。

■到達目標（学修成果）

日本的な感性・考え方を理解することができるようになる。生活の中で日本の文化に親しむ。
日本の衣食住に関わる語彙を知る。伝統文化に親しむ。現代日本文化を知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

外国人留学生の卒業要件科目で、教養必修科目です。
社会・文化の相互理解に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の方針・概要 必要に応じて日本文化を紹介する文章を書いて発表する等のアクティブラーニングを実施する	シラバスを読んでおく（予習）	30分
2回	日本の生活 災害から身を守る	資料を確認する（復習）web等を通じて資料を取得する。	30分
3回	日本の生活 衣食住① 服飾の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
4回	日本の生活 衣食住② 服飾の語彙	覚えた言葉を使ってクラスの日本人とコミュニケーションをとる。（復習）	90分
5回	日本の生活 衣食住③ 住居の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
6回	日本の生活 衣食住④ 住居の語彙	覚えた言葉を使って地域の日本人とコミュニケーションをとる。（復習）	90分
7回	日本の生活 衣食住⑤ 食物の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
8回	日本の生活 衣食住⑥ 食物の語彙	覚えた言葉を生活の場面で使う。（復習）	90分
9回	日本の文化 伝統文化① 和服	機会を設けて実物に触れてみる。（復習）	90分
10回	日本の文化 伝統文化② 芸能	機会を設けて実演を鑑賞する。または映像を鑑賞する。（復習）	90分
11回	日本の文化 伝統文化③ 文物	博物館等に行ってみる。（復習）	90分
12回	日本の文化 現代文化①	Webなどで情報を収集し整理する（復習）	90分
13回	日本の文化 現代文化②	イベントなどに積極的に参加する。（復習）	90分
14回	日本の文化 現代文化③	文化活動を通じて日本人と交流を深める。（復習）	120分
15回	まとめ	ひきつづき語彙力を高めるように勉強する。（復習）	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回ごとに課題を添削します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	20%

■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

■参考文献

必要に応じて指示する

■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する
文章表現研究室（研究棟1階）

■備考 特になし

日本文化・日本事情Ⅱ

伊藤 高広

1年 後期 選択 留学生対象 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業です。

日本文化・日本事情Ⅰにひきつづき、教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解きます。時宜に応じた話題を選んで読んでいくので、授業内容は大体の目安です。

■到達目標（学修成果）

日本的な感性・考え方を理解することができるようになる。生活の中で日本の文化に親しむ。

日本の衣食住に関わる語彙を知る。伝統文化に親しむ。現代日本文化を知る。

2年次以降の授業に必要な、レポート・ポートフォリオの書き方を身につけます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

外国人留学生の卒業要件科目で、教養必修科目です。

社会・文化の相互理解に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の方針・概要 必要に応じて日本文化を紹介する文章を書いて発表する等のアクティブラーニングを実施する	シラバスを読んでおく（予習）	30分
2回	新聞・雑誌を読む	イベント等を紹介する記事を読んでみる	60分
3回	新聞・雑誌を読む	服飾に関連する記事を読んでみる	60分
4回	実用文を読む	日常生活に関わる説明を読んでみる	60分
5回	実用文を読む	通信販売等に関する説明を読んでみる	60分
6回	文芸作品を読む	語彙を増やすための勉強をする	60分
7回	文芸作品を読む	語彙を増やすための勉強をする	60分
8回	新聞・雑誌を読む	ニュースを読んでみる	60分
9回	新聞・雑誌を読む	社説を読んでみる	60分
10回	日本文化に親しむ（言葉遊び・文字遊び）	お祭りやイベントなどに行ってみる	60分
11回	日本文化に親しむ（言葉遊び・文字遊び）	お祭りやイベントなどに行ったみる	60分
12回	レポート・ポートフォリオを作成する（日本文化を紹介する）	興味を持った分野の資料を収集する	60分
13回	レポート・ポートフォリオを作成する	資料を収集し分類する	60分
14回	レポート・ポートフォリオを作成する	資料を収集し考察を深める	60分
15回	まとめ	ひきつづき日本語力を高めるように勉強する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各回ごとに課題を添削します

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	20%

■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

■参考文献

必要に応じて指示する

■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する

文章表現研究室（研究棟1階）

■備考 特になし

英語（総合）Ⅰ

北澤 茉奈・伊藤 怜子・小田 恭子

1 年 前期 選択 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

基本的な英語の語彙や文法を確認し、リーディングとリスニングの練習をします。オフィスを舞台にしたストーリー展開になっているテキストを使用するので、ビジネス英語の基礎も学ぶことができます。あわせて、読解演習として、ココ・シャネルの伝記を読み、英文に親しみながらファッション・デザイナー、ココ・シャネルについても学び、グループディスカッションを通して内容の理解を深めます。

■到達目標（学修成果）

音読や筆写といった着実な英語学習の方法が定着する。基本的な文法が確認できる。ビジネスに関する基本的な単語や表現が習得できる。ビジネスでの会話に使える平易な英語表現が習得できる。読解は、英文の構造を理解した上で、その文の意味をとることができる。パラグラフごとの要約ができるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。教養科目としての英語（総合）Ⅰは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	イントロダクション、授業の説明	【予習】 シラバスを読む。 【復習】 授業に必要なものを準備する。辞書など。	30 分
2 回	【総合】 be 動詞。人を紹介する 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 1	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 1 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 人を紹介する表現の暗記。	30 分
3 回	【総合】 現在時制。仕事の説明。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 1	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 1 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。仕事を説明する表現の暗記。	30 分
4 回	【総合】 過去時制。苦情対応。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 2	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 2 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。苦情対応の表現の暗記。	30 分
5 回	【総合】 復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 2	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 2 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。be 動詞、時制の復習。	30 分
6 回	【総合】 疑問詞。場所や時間をたずねる。 【リーディング】 復習	【予習】 小テストの準備。 【復習】 ワークシートの整理。場所や時間をたずねる表現の暗記。	30 分
7 回	【総合】 復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 3	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 3 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。疑問詞の復習。	30 分
8 回	【総合】 助動詞。依頼する。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 3	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 3 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。依頼の表現暗記。	30 分
9 回	【総合】 復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 4	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 4 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。助動詞復習。	30 分
10 回	【総合】 命令文。使用法説明。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 4	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 4 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。使用法の説明暗記。	30 分
11 回	【総合】 進行形。相談する・励ます。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 5	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 5 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。相談、励ましの表現暗記。	30 分
12 回	【総合】 復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 5	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 5 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。命令文、進行形復習。	30 分
13 回	【総合】 未来形。電話対応。 【リーディング】 復習	【予習】 小テスト準備。 【復習】 ワークシートの整理。電話対応の表現暗記。	30 分
14 回	【総合】 復習 【リーディング】 復習	【予習】 まとめ課題の準備。	30 分
15 回	まとめ、課題のフィードバック	【復習】 課題まとめ	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	ワークシート含む
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 Teruhirko Kadoyama 他著 Let's Read Aloud & Learn English (SEIBIDO)

ココ・シャネルの人生 プリント配布

■参考文献 必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室（研究棟 3 階） 【オフィスアワー】第 1 回の授業で提示します。

■備考 特になし

英語（総合）Ⅱ

北澤 茉奈・伊藤 怜子・小田 恭子

1 年 後期 選択 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

英語（総合）Ⅰ（前期）に引き続き、基本的な英語の語彙や文法を確認し、リーディングとリスニングの練習をします。オフィスを舞台にしたストーリー展開になっているテキストを使用するので、ビジネス英語の基礎も学ぶことができます。あわせて、読解演習として、ココ・シャネルの伝記を読み、英文に親しみながらデザイナー、ココ・シャネルについても学び、グループディスカッションを通し理解を深めます。

■到達目標（学修成果）

本授業を履修することにより、次のことができます。音読や筆写といった着実な英語学習の方法が定着する。基本的な文法が確認できる。ビジネスに関する基本的な単語や表現が修得できる。ビジネスでの会話に使える平易な英語表現が修得できる。読解は、英文の構造を理解した上で、その文の意味をとることができる。パラグラフごとの要約ができるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。教養科目としての英語（総合）Ⅱは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	イントロダクション、授業の説明	【予習】シラバスを読む。【復習】授業に必要なものを準備する。辞書など。	30 分
2 回	【総合】現在完了形。指示する／確認する。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 6 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 指示、確認の表現を覚える。	30 分
3 回	【総合】復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 6	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 6 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。現在完了形復習。	30 分
4 回	【総合】受動態。場所を説明する／感謝する。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 7	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 7 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。場所の説明、感謝の表現暗記。	30 分
5 回	【総合】復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 7	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 7 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。受動態復習	30 分
6 回	【総合】比較。比較する／詳細を尋ねる。 【リーディング】 復習	【予習】 小テストの準備。 【復習】 詳細を尋ねる表現暗記。	30 分
7 回	【総合】復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 8	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 8 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。比較復習。	30 分
8 回	【総合】助動詞。依頼する／希望を述べる。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 8	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 6 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。依頼、希望の表現暗記。	30 分
9 回	【総合】復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 9	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 9 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。助動詞復習。	30 分
10 回	【総合】動名詞。人を誘う／頻度を尋ねる。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 9	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 9 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。人を誘う表現暗記。	30 分
11 回	【総合】復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 10	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 10 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。動名詞復習。	30 分
12 回	【総合】to 不定詞。経験・予定を尋ねる。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 10	【予習】 The Story of Chanel: Chapter10 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。経験・予定の表現暗記。	30 分
13 回	【総合】接続詞。計画・理由を尋ねる。 【リーディング】 復習	【予習】 小テストの準備。 【復習】 計画・理由を尋ねる表現暗記。	30 分
14 回	【総合】復習 【リーディング】 復習	【予習】 まとめ課題の準備。 【復習】 接続詞復習。	30 分
15 回	まとめ、課題のフィードバック	【復習】 課題まとめ	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	ワークシート含む
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 Teruhiriko Kadoyama 他著 Let's Read Aloud & Learn English (SEIBIDO)

ココ・シャネルの人生 プリント配布

■参考文献 必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室（研究棟 3 階） 【オフィスアワー】 第 1 回の授業で提示します。

■備考 特になし

基礎英会話Ⅰ

北澤 茉奈・伊藤 怜子・小田 恭子

1年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日常生活の様々な場面で、基本的な英語を使ってコミュニケーションをする練習をします。特に、ファッションに関係のあるシチュエーションでの会話を練習するとともに、ファッションに関する単語や表現を学習します。リスニング・スピーキングを中心に練習します。

■到達目標（学修成果）

1. 日常生活の様々な場面で行なわれる英会話の定型表現を暗記し、自分の言葉として話せるようになる、2. ファッションに関する単語や表現を習得する、3. 英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる、の3点です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。教養科目としての基礎英会話Ⅰは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション、授業の説明、自己紹介	【予習】 シラバスを読む。 【復習】 授業のタスクについて流れを整理する。	30分
2回	MY NAME STORY 自分の名前についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分の名前に関する単語・表現の復習。	30分
3回	DESCRIBING MYSELF 自分のパーソナリティについての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 パーソナリティに関する単語・表現の復習。	30分
4回	MY FAVORITE FASHION ITEM ファッションアイテムや色についての会話	【予習】 テキストに目を通す。 【復習】 ファッションアイテムや色に関する単語・表現の復習。	30分
5回	DESCRIBING FASHION ITEMS 服の模様・素材についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 服の模様・素材に関する単語・表現の復習。	30分
6回	DESCRIBING FASHION ITEMS 服の模様・素材についての会話（続き）	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 服の模様・素材に関する単語・表現の復習。	30分
7回	MY FAVORITE FASHION TREND ファッショントレンドについての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 ファッショントレンドに関する単語・表現の復習。	30分
8回	MY FAVORITE FASHION TREND ファッショントレンドについての会話（続き）	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 ファッショントレンドに関する単語・表現の復習。	30分
9回	FASHION AS MY IDENTITY アイデンティティについての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 アイデンティティに関する単語・表現の復習。	30分
10回	FASHION AS MY IDENTITY アイデンティティについての会話（続き）	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 アイデンティティに関する単語・表現の復習。	30分
11回	THE IMPORTANT THINGS 自分の大切なものについての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分の大切なものに関する単語・表現の復習。	30分
12回	THE IMPORTANT THINGS 自分の大切なものについての会話（続き）	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分の大切なものに関する単語・表現の復習。	30分
13回	WHAT I LEARNED FROM OTHERS 自分に影響を与えた人についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分に影響を与えた人に関する単語・表現の復習。	30分
14回	WHAT I LEARNED FROM OTHERS 自分に影響を与えた人についての会話（続き）	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分に影響を与えた人に関する単語・表現の復習。	30分
15回	まとめ、講評	【予習】 これまでの授業内容の復習をする。 【復習】 ディスカッションの振り返りをする。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回授業や学内システム経由で返却・解説します。スピーキングは、その都度、コメントをします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%	小テスト、ワークシート、プレゼンテーション資料
期末試験・課題（プレゼンテーション、ディスカッション）	10%	プレゼンテーション、ディスカッション
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

小塚暁絵、川守田恭枝、コリンズ・キム園子（編）Forward Mode: English for Fashion Students

■参考文献

必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室（研究棟3階）【オフィスアワー】第1回の授業で提示します。

■備考

特になし

基礎英会話Ⅱ

北澤 茉奈・伊藤 怜子・小田 恭子

1 年 後期 選択 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

基礎英会話Ⅰに引き続き、ファッションに関係のあるシチュエーションでの会話を取り入れながら、日常生活の様々な場面での会話練習をしていきます。リスニング・スピーキングを中心に練習します。

■到達目標（学修成果）

1. 日常生活の様々な場面で行なわれる英会話の定型表現を暗記し、自分の言葉として話せるようになる、2. ファッションに関する単語や表現を習得する、3. 英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる、の3点です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。教養科目としての基礎英会話Ⅱは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	イントロダクション、授業の説明	【予習】シラバスを読む。 【復習】授業のタスクについて流れを整理する。	30 分
2 回	MY FAVORITE PLACE お気に入りの場所についての会話	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】お気に入りの場所に関する単語・表現の復習。	30 分
3 回	TRANSPORTATION 交通手段・移動についての会話	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】交通手段・移動に関する単語・表現の復習。	30 分
4 回	MY PASSION 自分が情熱を注いでいることについての会話	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】自分が情熱を注いでいることに関する単語・表現の復習。	30 分
5 回	FINDING MY INNER PEACE 感情をコントロールする方法についての会話	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】感情をコントロールする方法に関する単語・表現の復習。	30 分
6 回	FINDING MY INNER PEACE 感情をコントロールする方法についての会話（続き）	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】感情をコントロールする方法に関する単語・表現の復習。	30 分
7 回	MY FAVORITE LOCAL DISH 郷土料理についての会話	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】郷土料理に関する単語・表現の復習。	30 分
8 回	MY FAVORITE LOCAL DISH 郷土料理についての会話（続き）	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】郷土料理に関する単語・表現の復習。	30 分
9 回	MY FAVORITE POP CULTURE 文化についての会話	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】文化に関する単語・表現の復習。	30 分
10 回	MY FAVORITE POP CULTURE 文化についての会話（続き）	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】文化に関する単語・表現の復習。	30 分
11 回	MY PART-TIME JOB EXPERIENCES アルバイト経験についての会話	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】アルバイト経験に関する単語・表現の復習	30 分
12 回	JOB INTERVIEWS 仕事についての会話	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】仕事に関する単語・表現の復習	30 分
13 回	THE FASHION INDUSTRY 服飾業界についての会話	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】服飾業界に関する単語・表現の復習	30 分
14 回	THE FASHION INDUSTRY 服飾業界についての会話（続き）	【予習】テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】服飾業界に関する単語・表現の復習	30 分
15 回	まとめ、講評	【予習】これまでの授業内容の復習をする。 【復習】ディスカッションの振り返りをする。	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回の授業や学内システム経由で返却・解説します。スピーキングは、その都度コメントをします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%	小テスト、ワークシート、プレゼンテーション資料
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%	プレゼンテーション、ディスカッション
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

小塚暁絵、川守田恭枝、コリンズ・キム園子（編）Forward Mode: English for Fashion Students

■参考文献 必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室（研究棟 3 階）

【オフィスアワー】第 1 回の授業で提示します。

■備考 特になし

フランス語（総合）Ⅰ

福本 しのぶ

1年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ボンジュール！まずは挨拶から。テキストに沿って文法の基礎を学びながら、フランス語（会話）Ⅰを理解できるようになり、フランス語の楽しさを実感できます。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、フランス旅行をする時に役立ち、使えるフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る フランスと日本の関わり合い 基本のあいさつ	予習：シラバスを読む	10分
2回	アルファベ・筆記体・発音の決まり・つづり字	講義メモ整理・発音練習	30分
3回	発音の決まり・つづり字	講義メモ整理・発音練習	30分
4回	私は誰？ あなたは何？ 動詞 ① 名詞（男・女）	講義メモ整理・発音練習	30分
5回	数字（0～20） 動詞 ② ものの形	これまでの授業での疑問点まとめ 講義メモ整理・発音練習	30分
6回	好き？ 嫌い？ 定冠詞 動詞 ③	講義メモ整理・発音練習	30分
7回	大好き！ 大嫌い！ 名詞・発音	講義メモ整理・発音練習	30分
8回	どこで？ 誰と？ 何を？ 不定冠詞	講義メモ整理・発音練習	30分
9回	だけど… 動詞 ④	講義メモ整理・発音練習	30分
10回	持っている 持っていない 大きい/小さい 動詞 ⑤	講義メモ整理・発音練習	30分
11回	いる？ いない？ 数字（20～100）	これまでの授業での疑問点まとめ 講義メモ整理・発音練習	30分
12回	わたしの… あなたの… 動詞 ⑤	講義メモ整理・発音練習	30分
13回	家族を紹介しよう！	講義メモ整理・発音練習	30分
14回	する？ しない？ 動詞 ⑥	講義メモ整理・発音練習	30分
15回	夏休みの過ごし方。 曜日 月 季節	自分のフランスへの興味をまとめる	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/活用を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

■教科書

フランス語（会話）Ⅰと共用

「Dis-moi tout!（ぜんぶ話して!）」（白水社）

■参考文献

辞書が必要な方は「Le Dico 仏和辞典」（白水社）

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍やDVD

■オフィスアワー・研究室

木曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。

希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受験希望者対象に随時補習を行う。

フランス語（総合）Ⅱ

福本 しのぶ

1 年 後期 選択 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

Bonjour et merci ! フランス人は挨拶が大好きです。フランス語（会話）Ⅱをより理解できるようにテキストに沿って文法の基礎を学びながら、フランス語を楽しみましょう。最後には簡単な文章を作成し、発表します。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、フランス旅行をする時に役立ち、使えるフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	フランス語（総合）Ⅰの簡単な復讐 発音の練習 ⑦	予習：これまでの授業を復讐	10 分
2 回	夏休みどう過ごした？ 過去を話す	講義メモ整理・発音練習	30 分
3 回	食べる 飲む 動詞 ⑦ 発音の練習 ⑧	講義メモ整理・発音練習	30 分
4 回	カフェ/レストランにて テーブルマナー	講義メモ整理・発音練習	30 分
5 回	どこに行く？ どこから来た？ 動詞 ⑧ 未来を話す	これまでの授業での疑問点まとめ 講義メモ整理・発音練習	30 分
6 回	メトロに乗ってみよう！ フランスの移動手段 発音の練習 ⑨	講義メモ整理・発音練習	30 分
7 回	やる？ 聞く？ 話す？ 読む？ 代名詞	講義メモ整理・発音練習	30 分
8 回	習慣いついてたずねる/答える 動詞 ⑨	講義メモ整理・発音練習	30 分
9 回	発音の練習 ⑩ フランス映画を見る ①	講義メモ整理・発音練習	30 分
10 回	動詞 ⑩ フランス映画を見る ②	これまでの授業での疑問点まとめ 講義メモ整理・発音練習	30 分
11 回	可能性について 動詞 ⑪	レポートの課題を探す 講義メモ整理・発音練習	30 分
12 回	大学図書館でフランス語の資料を探そう！	講義メモ整理・発音練習	30 分
13 回	この前なにをした？ 動詞 ⑫ 動詞の活用	講義メモ整理・発音練習	30 分
14 回	1 日の行動を文章にしてみよう	講義メモ整理・発音練習	30 分
15 回	これまでの内容を使ってフランス語でレポート発表！	自分のフランスへの興味をまとめる	60 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/活用を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

■教科書

フランス語（会話）Ⅰと共用

「Dis-moi tout! (ぜんぶ話して!）」（白水社）

■参考文献

辞書が必要な方は「Le Dico 仏和辞典」（白水社）

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍や DVD

■オフィスアワー・研究室

木曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。

希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行う。

フランス語（会話）Ⅰ

福本 しのぶ

1 年 前期 選択 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

聞き取り力をつけるとともに、文を作って発音する練習を重ね、自らすすんでフランス語を話せるようにします。自然にフランス語で挨拶を交わせるようにがんばりましょう。出席すればするほど力は確実に定着し、フランス語（会話）Ⅱがより理解できるようになります

■到達目標（学修成果）

数字や簡単な文を聞き取って正しく書くことができる。自分の作った文を読むことができる。6月中旬までに、実用フランス語検定試験5級に挑戦できるレベルの基礎文法を習得することができる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	挨拶と自己紹介 会話、練習問題	CD 2 フランス語の音の種類を学習する。CD 4 発音記号の学習をする。CD 17, 18, 19, 20	30 分
2 回	文字を読み、発音を習得する。 会話、練習問題	p. 9-10 の単語の意味を調べる。 CD16 数詞 1～20 を覚える。	30 分
3 回	名詞の性と数、冠詞 会話、練習問題	p. 15 の単語の意味を調べる。 CD29 国名と国籍、身分・職業を学習する。	30 分
4 回	数字、主語人称代名詞、être の直説法現在 会話、練習問題	p. 14, 15 練習問題 1, 2, 3 の問題を解く。 24, 25, 26, 27 会話文に慣れ単語を学習する。	30 分
5 回	形容詞の性・数、[構文] 主語＋動詞＋属詞、否定形 会話、練習問題、小テスト	p. 17 練習問題 32 を解く。 CD98 数詞 20～60 を覚える。	30 分
6 回	国名、職業、自己紹介 会話、練習問題	p. 73 の単語の意味を調べる。 CD35 国名と国籍を復習する。 CD29 身分・職業を復習する。	30 分
7 回	指示表現、形容詞 会話、練習問題	練習問題 Copy の問題を解く。 p. 16 の単語の意味を調べる。 CD24 動詞直接法現在（être）を学習する。 CD98 数詞 20～60 を復習する。	30 分
8 回	動詞 avoir の直説法現在 会話、練習問題	p. 77 練習問題 1, 2 の問題を解く。 CD79 動詞直接法現在（avoir）を学習する。 CD24 否定形（être）を学習する。	30 分
9 回	数字、être の直説法現在、avoir の直説法現在 会話、練習問題	p. 33 の単語の意味を調べる。 p. 31, 89 練習問題 B の問題を解く。CD77, 82, 85 を聞き、会話文に慣れ単語を学習する。	30 分
10 回	疑問文、疑問形容詞 会話、練習問題、小テスト	p. 77 練習問題 3 の問題を解く。CD37, 39 群規則動詞（-er 型動詞）の学習をする。CD36, 42 を聞き、会話文に慣れ単語を学習する。	30 分
11 回	第一群規則動詞（-er 型動詞）の活用（直説法現在） 会話、練習問題	p. 19 の単語の意味を調べる。 p. 74 練習問題 1, 2 の問題を解く。	30 分
12 回	疑問文、疑問代名詞、疑問副詞 会話、練習問題	p. 74 練習問題 3 の問題を解く。 p. 33 練習問題 89 の問題を解く。	30 分
13 回	人称代名詞の強勢形 会話、練習問題	p. 17 練習問題 33 の問題を CD24, 16, 79, 98 を 再度聞き、しっかり覚える。	30 分
14 回	学習効果のチェック、小テスト 会話、練習問題	Lesson1～5 を復習する。	30 分
15 回	チェック結果の反省と夏休みの学習法について 会話、練習問題	文法事項を復習する。 単語を暗記する。	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストは返却、解説します。

■成績評価の方法・基準

学期末の総合評価だけでなく、出席を重視して日頃の取り組み姿勢を評価します。授業中は、まちがっても恥ずかしいと思わないで、たくさんフランス語を話すことを評価します。

授業態度・姿勢	30%	会話テスト・筆記ミニテスト・まとめのテスト 無遅刻無欠席だった場合には、最終評価に加点します。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 すべてフランス語（総合）Ⅰと共用。
・Dis-moi tout!（ぜんぶ話して!）（白水社）
・ディコ仏和辞典（白水社）
随時コピー配付

■参考文献 大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍

■オフィスアワー・研究室 連絡研究室：教務課（本校舎1階）出講日：月曜日（12：10～12：50）

■備考 私を見かけたら、「Bonjour, Monsieur Pech. Comment allez-vous ?」と声をかけてください。

毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行っています

フランス語（会話）Ⅱ

福本 しのぶ

1 年 後期 選択 (2 単位 講義)

■授業の方針・概要

聞き取り力をつけるとともに、文を作って発音する練習を重ね、自らすすんでフランス語を話せるようにします。自然にフランス語で挨拶を交わせるようにがんばりましょう。出席すればするほど力は確実に定着し、フランス語（会話）Ⅱがより理解できるようになります。

■到達目標（学修成果）

数字や簡単な文を聞き取って正しく書くことができる。自分の作った文を読むことができる。11月中旬までに、実用フランス語検定試験5級に挑戦できるレベルの基礎文法を習得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	フランス語(会話)Ⅰの復習 会話、練習問題	CD29, 35 国名と国籍を復習する。 CD98 数詞 61～100 を覚える。P. 72	30 分
2 回	aller, venir の活用（直説法現在） 会話、練習問題	p. 49 練習問題 149 の問題を解く。 p. 46, 47 の単語の意味を調べる。	30 分
3 回	前置詞(à, de)と定冠詞(le, la, les)の縮約形、前置詞と国名 会話、練習問題	p. 47 練習問題 105 を解く。CD133, 143 を聞き、会話文に慣れ単語を学習する。	30 分
4 回	服、色、家族ボキャブラリー 会話、練習問題	p. 37 練習問題 104 の問題を解く。 家族と親戚の単語を覚える。	30 分
5 回	指示形容詞、所有形容詞 会話、練習問題	p. 38 不規則動詞、部分冠詞を学習する。 CD145 曜日と12ヶ月を覚える。CD167, 178 数+年や時をつなげた発音を覚える。	30 分
6 回	週、月、日と年、季節 会話、練習問題	p. 42 の単語の意味を調べる。 p. 49 練習問題 1, 2 の問題を解く。	30 分
7 回	非人称表現、天候、時刻 会話、練習問題	p. 58, 59 の単語の意味を調べる。 CD179, 186 を聞き。	30 分
8 回	第二群規則動詞、命令法 会話、練習問題	CD188 を聞き、会話文に慣れ単語を学習 CD145 曜日と12ヶ月を復習する。 p. 79 練習問題 1, 2, 3 の問題を解く。	30 分
9 回	不規則動詞 会話、練習問題	p. 60 の単語の意味を調べる。p. 84 練習問題 2 の問題を解く。p. 29 練習問題 2 の問題を解く。CD165, 166 を聞き、会話文に慣れ単語を学習する。	30 分
10 回	直説法複合過去Ⅰ 会話、練習問題、小テスト	CD195, 196, 199 単語を学習する。 p. 85 練習問題 1, 2, 3 の問題を解く。	30 分
11 回	直説法半過去 会話、練習問題	練習問題を解き、単語を暗記する。	30 分
12 回	直説法複合過去Ⅱ（複合過去と半過去） 会話、練習問題	練習問題を解き、単語を暗記する。	30 分
13 回	フランスのクリスマスについて 会話、練習問題	Lesson 6～13 復習する。	30 分
14 回	学習効果のチェック、小テスト 会話、練習問題	Lesson 6～13 復習する。	30 分
15 回	チェック結果の反省と夏休みの学習法について 会話、練習問題	文法事項を復習する。 単語を暗記する。	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストは返却、解説します。

■成績評価の方法・基準

学期末の総合評価だけでなく、出席を重視して日頃の取り組み姿勢を評価します。授業中は、まちがっても恥ずかしいと思わないで、たくさんフランス語を話すことを評価します。

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

会話テスト・筆記ミニテスト・まとめのテスト

無遅刻無欠席だった場合には、最終評価に加点します。

■教科書 すべてフランス語（総合）Ⅰと共用。

- ・Dis-moi tout! (ぜんぶ話して!)(白水社)
- ・ディコ仏和辞典(白水社)

随時コピー配付

■参考文献 大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍

■オフィスアワー・研究室 連絡研究室：教務課（本校舎1階）出講日：月曜日（12：10～12：50）

■備考 私を見かけたら、「Bonjour, Monsieur Pech. Comment allez-vous ?」と声をかけてください。

毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受験希望者対象に随時補習を行っています。

中国語（総合）Ⅰ

盧 繁華

1 年 前期 選択 （2 単位 講義）

■授業の方針・概要

中国語と日本語との構文上の大きな相違点を理解し構文の仕組みから学びはじめる。教材文や模範文を使って基礎文法文型を中心に勉強し読み書きを合わせて授業を進める。

■到達目標（学修成果）

常用語彙と文法文型を操って中国語構文の組み立てができるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）Ⅰ】は卒業認定に必要な教養科目の1つである。将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い社会人が持つべき豊かな言語表現力を身に付けるようにめざす。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	中国語文の基礎Ⅰ	復習：中国語のスペリング練習Ⅰ	20 分
2 回	中国語文の基礎Ⅱ	復習：中国語のスペリング練習Ⅱ	20 分
3 回	文法的単位 1. 形態素 2. 単語	復習：中国語のスペリング練習Ⅲ	20 分
4 回	3. フレーズ 4. 短文	復習：教科書の第1課、第2課の 所定練習問題	40 分
5 回	文の分類 1. 表現機能による分類	予習：第1課、第2課の練習問題	20 分
6 回	平叙文、疑問文、命令文、感嘆文、	復習：教科書の第3課、第4課の 所定練習問題	40 分
7 回	2. 構造による分類	予習：第3課、第4課の練習問題	20 分
8 回	主述文、非主述文、	復習：教科書の第5課、第6課の 所定練習問題	40 分
9 回	3. 述語の性質による分類	予習：第5課、第6課の練習問題	20 分
10 回	動詞述語文、形容詞述語文、	復習：教科書の第7課、第8課の 所定練習問題	40 分
11 回	主述述語文、名詞述語文、	予習：第7課、第8課の練習問題	20 分
12 回	文の基礎構文Ⅰ	復習：教科書の第9課、第10課の 所定練習問題	40 分
13 回	文の基礎構文Ⅱ	予習：第9課、第10課の練習問題	20 分
14 回	総合まとめⅠ	復習：指定する練習問題	40 分
15 回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内及び授業外で完成した平常テストの答案用紙を期末に返却して総合まとめを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『中文課本基礎編』竹島金吾（金星堂）

■参考文献

学内図書館の『日中辞典』、週刊新聞『中文導報』、中国語書籍等を利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（総合）Ⅱ

盧 繁華

1 年 後期 選択 （2 単位 講義）

■授業の方針・概要

総合Ⅱの前半は中国語の構文に必要な品詞、語彙と文法規則を学び、授業の後半は中国語の文章力を身につけるために中国語と日本語の双向翻訳のトレーニングを行って授業を進める。

■到達目標（学修成果）

文法文型をしっかりと学ぶことを通して中国語文の構成や翻訳ができるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）Ⅱ】は【中国語（総合）Ⅰ】と併せて、卒業認定に必要な教養科目である。将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い社会人が持つべき豊かな言語表現を出来るようにめざす。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	総合Ⅰの文法ウォーミングアップ	復習：既習の前期文型文法	60 分
2 回	品詞の分類	予習：教科書の第 11 課の文章部分 所定練習問題	40 分
3 回	品詞の働き	復習：第 11 課の読解練習問題	20 分
4 回	名詞、動詞、形容詞、数量詞の文法的機能	予習：教科書の第 12 課の文章部分 所定練習問題	40 分
5 回	副詞、助詞、介詞、接続詞の修飾的作用	復習：第 12 課の読解練習問題	20 分
6 回	常用フレーズ	予習：教科書の第 13 課の文章部分 所定練習問題	40 分
7 回	構文機能Ⅰ 1. 主語、2. 述語、3. 目的語	復習：第 13 課の読解練習問題	20 分
8 回	4. 定語、5. 状語、6. 補語	予習：教科書の第 14 課の文章部分 所定練習問題	40 分
9 回	構文機能Ⅱ 1. 特殊な動詞述語文	復習：第 14 課の読解練習問題	20 分
10 回	2. 是……的の文	予習：教科書の第 15 課の文章部分 所定練習問題	40 分
11 回	3. 疑問文と反語文	復習：第 15 課の読解練習問題	20 分
12 回	4 比較文	予習：教科書の第 16 課の文章部分 所定練習問題	40 分
13 回	複文の分類、その特徴	復習：第 16 課の読解練習問題	20 分
14 回	総合まとめⅠ	復習：指定する練習問題	40 分
15 回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で提出した小テストを 14 回目の授業で返却して解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『中文課本基礎編』 竹島金吾（金星堂）

■参考文献

学内図書館の『日中辞典』、週刊新聞『中文導報』、中国語書籍等を利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（会話）Ⅰ

盧 繁華

1 年 前期 選択（2 単位 講義）

■授業の方針・概要

中国語発音の特徴とローマ字表記規則から学びはじめ、会話に必要な語彙や規範的なフレーズや基礎語句を併せて学ぶ。授業は聞く、話す、書くなどの形式で進める。

■到達目標（学修成果）

正しい発音をマスターすることを到達目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語会話Ⅰ】は卒業認定に必要な教養科目の1つである。将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い、社会人が持つべき豊かな言語表現力を身に付けることをめざす。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	中国語の音声しくみ	復習：母音・子音の発音練習	20 分
2 回	中国語アルファベットの認識	復習：複合母音の発音練習	20 分
3 回	表記方(スペリング)	復習：鼻母音の発音練習	20 分
4 回	人称代名詞、日常挨拶	復習：課本の第1課、第2課	所定の頁 読み 30 分
5 回	名詞述語文(Aは何だ)	予習：第1課、第2課の練習問題	20 分
6 回	肯定文・否定文・疑問文	復習：課本の第3課、第4課	所定の頁 読み 30 分
7 回	反復疑問文の文型特徴	予習：第3課、第4課の練習問題	20 分
8 回	数と年・月・日・時刻	復習：課本の第5課、第6課	所定の頁 読み 30 分
9 回	動詞述語文(主語Aはどうする)	予習：第5課、第6課の練習問題	20 分
10 回	形容詞述語文(主語Aはどうだ)	復習：課本の第7課、第8課	所定の頁 読み 30 分
11 回	存在を表わす文	予習：第7課、第8課の練習問題	20 分
12 回	場所や方向について言葉	復習：課本の第9課、第10課	所定の頁 読み 30 分
13 回	主述述語文(AのBは何だ、AはBがどうだ)	予習：第9課、第10課の練習問題	20 分
14 回	総合まとめⅠ	復習：指定する練習問題	60 分
15 回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末に授業に返却して総合まとめを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『中文課本基礎編』 竹島金吾（金星堂）

■参考文献

学内図書館の『日中辞書』、週刊新聞『中文導報』、中国語書籍等を利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

中国語（会話）Ⅱ

盧 繁華

1 年 後期 選択 （2 単位 講義）

■授業の方針・概要

常用語彙や文型などを増やしてリスニング・シャドーイングという練習で正しい発音を把握する。聞く力、会話力を身につけるために語彙とフレーズを暗誦するなどの方法で授業を進める。

■到達目標（学修成果）

中国語ができる限り聞き取れる、話せる能力を伸ばすことを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(会話)Ⅱ】は【中国語(会話)Ⅰ】と併せて、卒業認定に必要な教養科目である。将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い社会人が持つべき豊かな言語表現が出来ることをめざす。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	会話Ⅰの発音ウォーミングアップ	復習：母音子音の正確な発音	30 分
2 回	常用介詞の用法Ⅰ	復習：既習の会話	30 分
3 回	常用介詞の用法Ⅱ	予習：課本の第 11 課会話部分	20 分
4 回	動詞連用文Ⅰ	復習：第 11 課の聴解練習問題	所定の頁 読み 30 分
5 回	動詞連用文Ⅱ	予習：課本の第 12 課会話部分	20 分
6 回	動詞連用文Ⅲ	復習：第 12 課の聴解練習問題	所定の頁 読み 30 分
7 回	動作の時点や期間の言い回し	予習：課本の第 13 課会話部分	20 分
8 回	動作の回数と目的語	復習：第 13 課の聴解練習問題	所定の頁 読み 30 分
9 回	動作の完了形	予習：課本の第 14 課会話部分	20 分
10 回	動作の方向を示す	復習：第 14 課の聴解練習問題	所定の頁 読み 30 分
11 回	三大構造助詞の用法	予習：課本の第 15 課会話部分	20 分
12 回	二重目的語	復習：第 15 課の聴解練習問題	所定の頁 読み 30 分
13 回	比較文の表現	復習：所定の読み物	所定の頁 読み 30 分
14 回	総合まとめⅠ	復習：指定する練習問題	60 分
15 回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業で返却して総合まとめを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『中文課本基礎編』 竹島金吾（金星堂）

■参考文献

学内図書館の『日中辞書』、週刊新聞『中文導報』、中国語書籍等を利用する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

■備考

なし

日本語Ⅰ

伊藤 高広

1年 前期 選択 留学生対象 (4単位 講義)

■授業の方針・概要

大学で学ぶために必要な日本語力を習得する。日本語Ⅰでは聞く活動を中心にした授業を行うが、書く、読む、話すなどの活動も行い総合的な日本語能力の向上を目指す。

■到達目標（学修成果）

講義や研究発表などを聞く力を養成する。聞いたことをまとめ、要約が書けるようになる。資料を見て必要な情報が短時間で得られるようになる。内容について自分の経験や意見を述べるができるようになる。大学で学ぶための語彙を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の中の外国語選択必修科目です。この科目は留学生対象のクラスで卒業認定科目です。教養科目の日本語は国際人としての能力を養い、幅広い教養を身につけ豊かな感性、表現力を涵養することを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス（自己紹介、授業内容の説明）	語彙レッスン1の漢字の読み、意味の確認	60分
2回	内容を聞き大意、概要を聞き取る。語彙レッスン1の解説、問題。	語彙レッスン2の漢字の読み、意味の確認	60分
3回	内容を聞き大意、概要を聞き取る。語彙レッスン2の解説、問題。語彙レッスン1まとめ。	語彙レッスン3の漢字の読み、意味の確認	60分
4回	未習語を全体から類推して内容を聞き取る。語彙レッスン3の解説、問題。語彙レッスン2まとめ。	語彙レッスン4の漢字の読み、意味の確認	60分
5回	未習語を全体から類推して内容を聞き取る。語彙レッスン4の解説、問題。語彙レッスン3まとめ。	語彙レッスン5の漢字の読み、意味の確認	60分
6回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン5の解説、問題。語彙レッスン4まとめ。	語彙レッスン6の漢字の読み、意味の確認	60分
7回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン6の解説、問題。語彙レッスン5まとめ。	語彙レッスン7の漢字の読み、意味の確認	60分
8回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン7の解説、問題。語彙レッスン6まとめ。	語彙レッスン8の漢字の読み、意味の確認	60分
9回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン8の解説、問題。語彙レッスン7まとめ。	語彙レッスン9の漢字の読み、意味の確認	60分
10回	定義を聞き取る。語彙レッスン9の解説、問題。語彙レッスン8まとめ。	語彙レッスン10の漢字の読み、意味の確認	60分
11回	接続表現から内容の展開を意識しながら聞き取る。語彙レッスン10の解説、問題。語彙レッスン9まとめ。	語彙レッスン11の漢字の読み、意味の確認	60分
12回	説明を聞き取る。語彙レッスン11の解説、問題。語彙レッスン10まとめ。	語彙レッスン12の漢字の読み、意味の確認	60分
13回	説明の部分と意見の部分に分けて聞き取る。語彙レッスン12の解説、問題。語彙レッスン11まとめ。	語彙レッスン13の漢字の読み、意味の確認	60分
14回	説明の部分と意見の部分に分けて聞き取る。語彙レッスン13の解説、問題。語彙レッスン12まとめ。	語彙レッスン14の漢字の読み、意味の確認	60分
15回	例と問題提起の部分とを区別して聞き取る。語彙レッスン14の解説、問題。語彙レッスン13まとめ。	語彙レッスン15の漢字の読み、意味の確認	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

通常の授業内で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて配布します。

■参考文献

必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

授業開始時に曜日、時間を伝えます。第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

■備考

準備学修を課題として提出してください。練習作文を課題とすることがあります。

日本語Ⅱ

伊藤 高広

1年 後期 選択 留学生対象 (4単位 講義)

■授業の方針・概要

日本語Ⅰに引き続き、大学で学ぶために必要な日本語力を習得する。日本語Ⅱではレポートや論文を書くために必要な文章表現の技術の向上を目指す。文章表現に必要な語彙力や文型、読解力の養成も合わせて行う。

■到達目標（学修成果）

話し言葉と書き言葉を使い分けることができる、レポートや論文に合う文体、文型、語彙を使って文章を書くことができる、文章の構成を考えて文章を書けるようになるなどレポートや論文を書くための日本語力を習得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の中の外国語選択必修科目です。この科目は留学生対象のクラスで卒業認定科目です。教養科目の日本語は国際人としての能力を養い、幅広い教養を身につけ豊かな感性、表現力を涵養することを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	原稿用紙の使い方、表記のしかた 語彙レッスン15の解説、問題。語彙レッスン14まとめ。	語彙レッスン16の漢字の読み、意味の確認	60分
2回	簡潔な文で質問に答える文章が書けるようにする。 語彙レッスン16の解説、問題。語彙レッスン15まとめ。	語彙レッスン17の漢字の読み、意味の確認	60分
3回	読み取った情報を伝える文が書けるようにする。 語彙レッスン17の解説、問題。語彙レッスン16まとめ。	語彙レッスン18の漢字の読み、意味の確認	60分
4回	状況を説明し、意見を述べる文章が書けるようにする。 語彙レッスン18の解説、問題。語彙レッスン17まとめ。	語彙レッスン19の漢字の読み、意味の確認	60分
5回	段落のある文章が書けるようにする。 語彙レッスン19の解説、問題。語彙レッスン18まとめ。	語彙レッスン20の漢字の読み、意味の確認	60分
6回	体験したことを報告する文が書けるようにする。 語彙レッスン20の解説、問題。語彙レッスン19まとめ。	語彙復習問題（レッスン1～5）	60分
7回	テーマに沿った意見文を書けるようにする。 語彙レッスン20まとめ。	語彙復習問題（レッスン6～10）	60分
8回	テーマに沿った意見文を書けるようにする。 語彙レッスン1～5まとめ。	語彙復習問題（レッスン11～15）	60分
9回	自己紹介文が書けるようにする。 語彙レッスン6～10まとめ。	語彙復習問題（レッスン6～20）	60分
10回	自己紹介文が書けるようにする。 語彙レッスン11～15まとめ。	文型練習問題	60分
11回	要約文が書けるようにする。 語彙レッスン16～20まとめ。	文型練習問題	60分
12回	要約文をかけるようにする。	文型練習問題	60分
13回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分
14回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分
15回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

通常の授業内で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて配布します。

■参考文献

必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

授業開始時に曜日、時間を伝えます。第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

■備考

準備学修を課題として提出してください。練習作文を課題とすることがあります。

生涯学習概論

柄越 祥子

1 年 後期

学芸員課程必修

(2 単位 講義)

■授業の方針・概要

学芸員という専門職を目指すにあたり、「生涯学習」について、学習者の学びを援助、促進するという視点から教育的に考えていく授業です。その上で、生涯学習の現場に繋がっていくような、政策理念や制度の知識にも触れていきます。授業ではフィールドワークやグループディスカッションなども取り入れていきます。また、毎回授業の終わりに質問表の提出をしていただきます。

■到達目標（学修成果）

生涯学習論の基礎的な知識を学び、学芸員として勤務する上での素地となる生涯学習理論を習得することを到達目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。国家資格「学芸員」を取得するための学芸員課程の必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	オリエンテーション・生涯学習とは何か（定義）	予習：シラバスを読んで要点をまとめる。	30 分
2 回	生涯学習の現代的意義	復習：教科書の指摘した箇所を読み、生涯学習の現代的意義の確認をする。	30 分
3 回	発達理論と生涯学習	復習：発達理論の確認をする。	30 分
4 回	生涯学習の学習内容①	復習：教科書の指摘した箇所を読み、生涯学習の内容について確認する。	30 分
5 回	生涯学習の学習内容②	復習：生涯学習の学びとはなにか、まとめる。	45 分
6 回	生涯学習の形態・方法	復習：生涯学習の方法について確認する。	30 分
7 回	生涯学習の社会的位相	復習：教科書の指摘した箇所を読んで、「解放」の生涯学習について確認する。	30 分
8 回	施設による生涯学習支援①	復習：社会教育施設について確認し、フィールドワークの準備をする。	30 分
9 回	公共施設での生涯学習支援の実例（フィールドワーク）①	予習：施設について資料を確認し、見学ポイントの整理をする。	30 分
10 回	公共施設での生涯学習支援の実例（フィールドワーク）②	復習：フィールドワークレポート【1】の作成	60 分
11 回	施設による生涯学習支援②	復習：教科書の指摘した箇所を読み、生涯学習の施設のまとめを行う。	30 分
12 回	行政による生涯学習の振興	課題：フィールドワークレポート【2】の作成。	60 分
13 回	民間による生涯学習支援	課題：フィールドワークレポート【2】の作成。	60 分
14 回	授業の振り返りとレポート課題のフィードバック	復習：これまでの授業内容を整理する。	60 分
15 回	まとめ 小テストのフィードバック	復習：小テストの見直し。	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14 回目レポート課題のフィードバックや返却、15 回目に試験の解説を行います。適宜 manaba も活用いたします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編『よくわかる生涯学習・改訂版』ミネルヴァ書房

■参考文献

適宜授業内で指示します。

■オフィスアワー・研究室

前期：連絡先 本校舎 1 階教務課

後期：土曜日の授業の前後 授業実施教室

■備考

なし

博物館概論

丸山 憲子

1年 後期

学芸員課程必修

(2単位 講義)

■授業の方針・概要

学芸員課程最初の講義です。博物館について、学芸員について、博物館学について概説する。歴史的、社会的な面から「博物館」を理解し、現代博物館の必要性、存在意義を、今日的課題を踏まえて理解、考察する。また、博物館における各機能、及び学芸員業務等を博物館学観点から学習していく。

■到達目標（学修成果）

- ・「博物館」の今日的課題と博物館学の理論・方法論、博物館史等の理解と習得
- ・学芸員としての基本的知識の習得
- ・「博物館」をめぐる問題意識の向上

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得するとともに得られる資格）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき科目の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（現代社会における博物館の概要・学芸員課程の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	博物館法等日本における博物館に関する法制について学習する。	予習：博物館法を読んでおくこと。 復習：関係法規を整理しておくこと。	60分
3回	博物館法による登録博物館等の分類はじめ、様々な現代博物館の分類について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句を整理しておくこと。	30分
4回	博物館学について学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
5回	博物館学芸員をめぐる法制及び職務について学習する。 博物館法についてのまとめ（小テスト）	復習：教科書の読み返し。	30分
6回	博物館における「資料」について学習する。	復習：配布資料の読み返し。語句を整理しておくこと。」	30分
7回	博物館における機能について博物館学的観点から学習する。	復習：配布資料の読み返し。語句を整理しておくこと。	30分
8回	博物館の歴史を世界的観点から学習する。	復習：配布資料の読み返し。語句を整理しておくこと。	30分
9回	日本における博物館の歴史を学習する。	復習：配布資料の読み返し。語句を整理しておくこと。	60分
10回	日本における博物館学史を学習する。 博物館史・博物館学史のまとめ（小テスト）	復習：教科書、配布資料の読み返し、 棚橋源太郎について復習しておくこと。	60分
11回	博物館経営について学習する。	復習：教科書の読み返し	60分
12回	博物館設立の流れや経緯について学習する。	予習：博物館1館を選び、その歴史をまとめておくこと。 復習：配布資料の読み返し。	90分
13回	現代博物館をめぐる社会的問題について学習する。	復習：配布資料の読み返し。社会的問題をまとめておくこと。	30分
14回	現代博物館の課題と今後の展望について考察する。	復習：配布資料の読み返し。全体の振り返り	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

■参考文献 随時 紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表及びコメント書き込みをしてもらいます。